MITSUBISHI

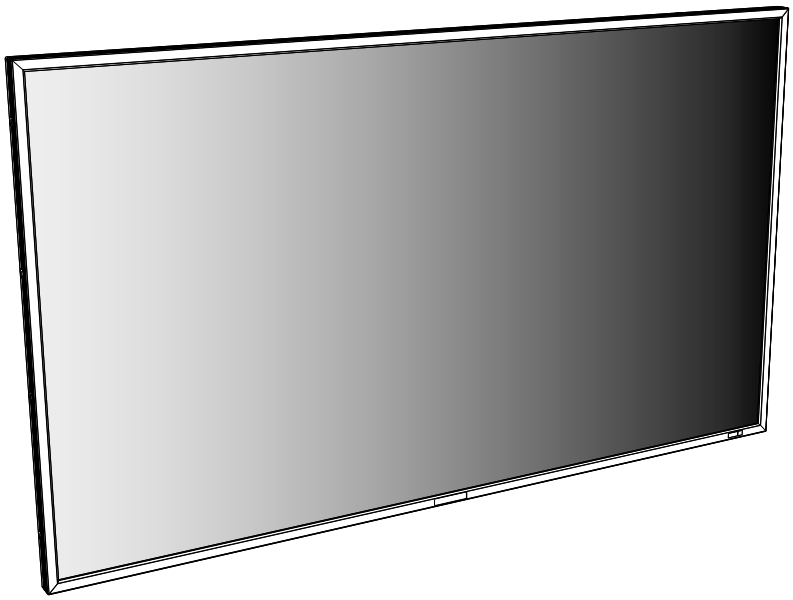
三菱液晶ディスプレイ

VISEO LITE

形名

LDT552V
(A2129)

取扱説明書



■ この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。
特に「安全のために必ずお守りください」は、液晶ディスプレイをご使用の前に必ず読んで正しくお使いください。
■ 保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。
■ 取扱説明書は「保証書」と共に大切に保管してください。
■ 必ず、転倒・落下防止処置を実施してください。→P9、P18、P19 参照

「ディスプレイ」のホームページ：www.MitsubishiElectric.co.jp/display
INTERNET INFORMATION & DOWNLOADS SERVICE

P2 もくじ
P3 ご使用の前に
P7 安全のために必ずお守りください
P12 使用上のお願い
P13 各部のはたらき
P17 使用の準備
P37 使用方法
P52 機能
P68 困ったとき
P71 仕様
P72 重要なお知らせ
P74 さくいん

もくじ

ご使用の前に

ご使用の前に ····· 3
特　長 ····· 3
付属品の確認 ····· 5
本書の見かた ····· 6

安全のために必ずお守りください

安全のために必ずお守りください ····· 7

使用上のお願い

使用上のお願い ····· 12
液晶ディスプレイの上手な使い方 ····· 12

各部のはたらき

各部のはたらき ····· 13
本体の操作ボタン・スイッチ・ランプ ····· 13
本体背面の入出力コネクター ····· 14
リモコン ····· 15
リモコンの取り扱い ····· 16

使用の準備

使用の準備 ····· 17
使用するための流れ ····· 17
[準備 1]　設置する前に ····· 18
設置条件 ····· 18
通気の確保と使用環境温度 ····· 18
転倒防止 ····· 18
[準備 2]　設置する ····· 19
専用スタンドを取り付ける ····· 19
壁掛けや天吊りで使用する ····· 19
ハンドルが壁にぶつかるときは ····· 20
スタンドガイドフレームを取り外す ····· 20
壁掛け用スペーサーを使用する ····· 20
縦置きや上向きに設置する ····· 21
ベゼルを外して使うときは ····· 22
コーナー保護カバーを取り付ける ····· 22
[準備 3]　専用ステレオスピーカーを接続する ··23
[準備 4]　外部機器を接続する ····· 24
簡単接続図 ····· 24
HDMI ケーブルの脱落防止 ····· 25
コンピューターを接続する（アナログ接続）····· 26
コンピューターを接続する（デジタル接続）····· 27
ビデオ機器（コンポーネントビデオ／HDMI 機器）を接続する ····· 28
ビデオ機器（コンポジットビデオ／S ビデオ機器）／ステレオアンプを接続する ····· 29
[準備 5]　拡張モジュールを取り付ける ····· 30
拡張モジュールを取り付ける ····· 30
SDI で長距離接続や複数接続をする ····· 30
OPS 対応コンピューターを装着する ····· 31
[準備 6]　RS-232C を接続する ····· 32
RS-232C を接続する ····· 32
[準備 7]　LAN を接続する ····· 33
LAN を接続する ····· 33
[準備 8]　USB 機器を接続する ····· 34
USB ハブ機能で複数の USB 機器を接続する ····· 34
[準備 9]　電源コードを本機に接続する ····· 35
電源を接続する ····· 35
[準備 10] 電源プラグのアース線を接続する ····· 36
[準備 11] 電源プラグを AC100 V 電源コンセントに接続する ····· 36

使用方法

使用方法 ····· 37
使用方法の流れ ····· 37
[使用 1]　すべての機器の電源を「入」にする ··38
外部機器の電源を入れる ····· 38
本機の電源を入れる ····· 38
パワーマネージメント機能 ····· 39
[使用 2]　映像入力を選択する ····· 40
[使用 3]　外部機器を操作する ····· 41
[使用 4]　言語を選択する ····· 41
[使用 5]　オートセットアップをする ····· 42
[使用 6]　ピクチャーモードを選択する ····· 43
[使用 7]　画面を調節する ····· 43
[使用 8]　映像を調節する ····· 44
[使用 9]　スピーカーを選択する ····· 44
[使用 10] 音量、バランスや音質を調節する ····45
[使用 11] スケジュールを設定する ····· 46
スケジュールの設定・操作方法について ····· 47
[使用 12] 通信制御をする ····· 48
RS-232C リモートコントロールについて ····· 48
LAN リモートコントロールについて ····· 50
[使用 13] USB ハブを設定する ····· 51

機能

OSD 画面の構成と基本操作 ····· 52
OSD 画面の構成 ····· 52
OSD の基本操作 ····· 53
OSD 画面と機能 ····· 54
その他の機能 ····· 63
ピクチャーサイズ ····· 63
ピクチャーモード ····· 63
コントロールロックモード ····· 63
インフォメーション OSD ····· 63
音声入力切換 ····· 64
オートブライトネスの補足説明 ····· 65
PIP、POP 機能 ····· 66
リモコンナンバリング機能 ····· 67

困ったとき

困ったとき ····· 68
故障かな？と思ったら ····· 68
コンピューターを使うとき ····· 69
拡張モジュールを装着しているとき ····· 70
USB 機器を接続しているとき ····· 70

仕様

仕様 ····· 71

重要なお知らせ

重要なお知らせ ····· 72
保証とアフターサービス ····· 72
個人情報の取り扱い ····· 72
本機を廃棄するには（リサイクルに関する情報）··73
長くご使用いただくために ····· 73

さくいん

さくいん ····· 74

ご使用の前に

特　長

LED バックライト採用

LED バックライトパネル

LED バックライトを採用した高耐久な業務用パネル →P71

LED バックライト採用により、低消費電力と水銀レスを実現しました。また、ディスプレイの薄型化を実現しており、従来より多様な設置環境に対応可能です。

各種コンテンツやメッセージを鮮明に伝える、高画質液晶パネルを採用

フル HD パネル

フル HD（1920 × 1080）映像を忠実に Dot by Dot 表示 →P71

小さな文字や細密な映像もクッキリ表示する高精細な 1920×1080 フル HD 表示を実現します。ハイビジョンの最高解像度 1080p の映像も Dot by Dot で忠実に映し出すことができます。

業務用途に合わせた表示機能が充実。多様化する用途に適したシステム構築をサポート

タイリング

スムーズにつながる高精度なマルチスクリーン表示 →P62

最大で縦 5 × 横 5 = 25 面のマルチスクリーン表示ができます。しかも、FRAME COMP. 機能により、ベゼルで途切れる部分を補正し、スムーズにつながる表示を実現します。

デュアルピクチャー

親子画面のさまざまな配置を選べる 2 画面表示機能 →P15、P57、P66

多彩な 2 画面表示機能を搭載していますので、親画面の中に子画面を表示する PIP や、子画面を外側に表示する POP、画面を 2 分割して横に並べる Side by Side での表示ができます。

デジタルズーム

4：3 の映像を 16：9 に伸張表示するズームモードを搭載 →P56

多彩なズームモードを搭載し、アスペクト比4:3の映像を16:9に伸張表示できます。また、画面中央と外側で伸張比率を変えて、自然なワイド表示にできるダイナミック表示も選択できます。さらに、入力された信号の画像サイズに対し、対角比率、水平方向、垂直方向に自在な調節をおこなえます。

オプションスロットを装備し、用途に合わせた拡張モジュールを装着可能

オプションスロット

Intel® 社が提唱する OPS 規格準拠のスロットを装備 →P14

Intel® OPS 規格に準拠した拡張モジュールを本機に搭載できます。OPS 規格に準拠した拡張モジュールを装着することにより、使用シーンに応じた機能の拡張が図れます。

SDI 接続機能（オプション）

3G-SDI 対応の BNC ケーブルで放送機器とデジタル接続 →P30

SDI の 3G 規格に準拠し、フル HD（1920×1080）60 フレームのプログレッシブ映像信号をデジタル伝送します。最長 100 m の BNC ケーブル 1 本で、忠実に映像表示できます。デジタルデイジーチェーンも可能な SDI 出力付きです。

効率的な運営、管理をサポートする、充実の管理機能を搭載

スケジューリング

電源 ON ／ OFF のスケジュール管理を自動化 →P46、P47、P60

電源を自動で ON ／ OFF する時間を毎日・各曜日・毎週から選んで設定できます。
スケジュールは最大 7 つまで設定可能です。また、入力信号がないときに自動で休止状態（スリープモード）にするパワーセーブ機能を搭載しています。

スクリーンセーバー／サイドパネル

長時間使用時の液晶パネルへの負担を軽減 →P58

残像を抑えるガンマ値の設定や画面をわずかに上下左右に移動させるモーション機能などを搭載しています。また、4：3 映像を表示した場合、画像のない両側の色を調節するサイドパネル機能など、使用状況に応じた設定がおこなえます。

特　長（つづき）

パワーオンディレイ

複数ディスプレイの同時起動を安定化 →P62

複数ディスプレイへ同時に電源投入すると過電流が発生する場合があります。これを防ぐため、ディスプレイごとに電源 ON のタイミングをずらすことにより、過電流による電源供給部への負担を軽減します。

LAN コントロール

LAN ネットワークで自在にコントロール →P33、P50、P59

コンピューターから LAN ネットワークを通じて制御コマンドを伝送し、複数ディスプレイの設定変更や遠隔診断などがおこなえ、効率的に集中管理できます。当社プロトコルのみならず、ネットワークコントローラーの管理ソフトウェアとして広く利用されているクレストロン社の RoomView ™ソフトウェアと AMX 社の AMX Device Discovery にも対応しています。

外光センサーによる輝度補正で、視認性の補正と電力の消費を抑制

外光センサー（明るさセンサー）

画面輝度を自動調節し、視認性の向上と電力の消費を抑制 →P13、P65

本体の前面と背面に外光センサーを装備し、前面だけではなく後方からの外光や反射光までも検知し、適切な輝度に自動調節します。昼と夜で明るさが変化しても見やすく表示できます。

その他

DisplayPort 対応

DisplayPort 規格対応端子を装備 →P14、P27

DisplayPort に対応した端子を装備しています。最長 15 m のケーブルまで対応します。

内蔵スピーカー

スピーカーを内蔵 →P13、P44、P57

ディスプレイ本体の内部にスピーカーを備え、ステレオで音声メッセージなどを伝えられます。必要に応じて、外部に専用ステレオスピーカー（オプション）を接続して、選択して使用できます。

リモコン操作

専用リモコンで、主な操作・設定が可能 →P15

電源 ON ／ OFF や映像ソースの切り換え、各種設定など、主な操作をおこなえる専用リモコンを付属しています。

クローズドキャプション

英語のキャプション（字幕）を表示可能 →P62

文字多重映像信号を入力して、字幕を表示することができます。英語の学習やコンテンツ制作に有効です。

USB ハブ機能

複数の USB 機器をコンピューターに接続可能 →P14、P34、P51

セルフパワーのダウンストリームポートが２個あるUSBハブを装備し、USB 機器を接続できます。タッチパネルユニットをディスプレイに取り付けて使用される場合などに便利です。

超解像（画像変換）技術

独自のアルゴリズムで解像度感を向上 →P55

超解像設定により、静止画／自然画および動画コンテンツをより解像度感を高めた画像に変換します。さらに、入力された映像信号の解像度を判別し、自動で解像度に応じた効果を適用する解像度判別機能も搭載しています。

デイジーチェーン接続（DVI-D）

ディスプレイを最大４台まで接続可能 →P27、P29、P32

DVI-D ケーブル（市販）で DVI-D OUT コネクターと DVI-D IN コネクターを接続することにより、最大４台（2 m ケーブル使用時）まで、映像信号を伝送することが可能です。複数のディスプレイに同じ映像信号を入力する際に便利です。

付属品の確認

お買い上げいただいたときに同梱されている付属品は次のとおりです。
万一不足しているものや損傷しているものがありましたら、販売店までご連絡ください。

☑ 取扱説明書（本書）

☐ リモコン

→ P15

☐ 電源コード（3 m）

AC100 V専用電源コード
本機専用です。安全のため、他の機器には使用しないでください。

この電源コードは日本国内用です。安全のため、日本国外で使用しないでください。

→ P35

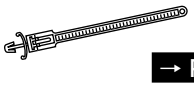
☐ 信号ケーブル（4 m）

ミニD-SUB15ピン – ミニD-SUB15ピン
（アナログ接続用）

→ P26

☐ 保証書（梱包箱に貼付けています）

☐ クランパー x 3
（ケーブル結束用）



→ P25、P35

☐ ロゴ目隠しラベル
必要に応じてご使用ください。

☐ 単4形乾電池 x 2

→ P16

☐ クランパー x 2
（転倒防止用）

→ P18

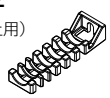
☐ ネジ(M4) x 2
（転倒防止クランパー用）

→ P18

☐ ケーブルホルダー
（電源コード脱落防止用）

→ P35

☐ クランパー x 2
（HDMIケーブル脱落防止用）

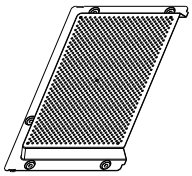


→ P25

☐ 結束バンド x 4
（HDMIケーブル脱落防止クランパー用）

→ P25

☐ オプションスロット用カバー



→ P30、P31

☐ コーナー保護カバー x 4

→ P22

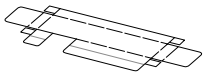
☐ ネジ(M3) x 4
（コーナー保護カバー用）

→ P22

☐ 壁掛け用スペーサー x 9

→ P20

☐ 保護カバー



→ P22

本書の見かた

本書の表記のしかた

お 願 い：取扱い上、特に守っていただきたい内容
お知らせ：取扱い上、参考にしていただきたい内容
→PXX：参考にしていただきたいページ
【ミニ解説】：専門用語の簡単な説明

知りたいことを探すために

やりたいことから探す→「特長」**→ P3、P4**
もくじで探す→「もくじ」**→ P2**
さくいんで探す→「さくいん」**→ P74**

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
VCCI-A

本機は付属の電源コードおよび信号ケーブルを使用した状態で VCCI 基準に適合しています。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

本製品は PC3R「PC グリーンラベル制度」の審査基準（★★☆ Ver.12）を満たしています。
詳細は、Web サイト：http://www.pc3r.jp をご覧ください。

本製品は「J-Moss グリーンマーク・ガイドライン」に基づく J-Moss グリーンマークを表示しています。
「J-Moss（JIS C 0950）」に基づく特定の化学物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDE）の含有状況についての情報を公開しています。
詳細は、ウエブサイト www.MitsubishiElectric.co.jp/home/display/environment をご覧ください。
形名：LDT552V

本製品は医療用機器ではありませんので、診断には使用できません。また、日本画像医療システム工業会規格（JESRA X 0093）に定める医療用画像表示用ディスプレイに相当しません。

■ 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
■ 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
■ 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気付きの点がありましたらご連絡ください。
■ 乱丁本、落丁本の場合はお取り替えいたします。販売店までご連絡ください。

VISEO は、三菱電機株式会社の登録商標です。
Microsoft、Windows Vista、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Macintosh は Apple 社の米国等における登録商標です。
HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の米国及びその他の国における商標または登録商標です。
VESA、DisplayPort および DisplayPort アイコンは、Video Electronics Standards Association の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
Crestron、Crestron RoomView および RoomView は、Crestron Electronics, Inc. の米国及びその他の国における商標または登録商標です。
AMX は、AMX, LLC の米国及びその他の国における商標または登録商標です。
その他、この取扱説明書に記載された社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

安全のために必ずお守りください

人への危害、財産への損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠危険	死亡や重傷を負うおそれが大きい内容です。
⚠警告	死亡や重傷を負うおそれがある内容です。
⚠注意	傷害を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容です。

■ お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなくてはならない内容です。
	気をつけていただく内容です。

⚠危険

電池について（マンガン電池）

◆ **電池の液を目に入れないようにしてください**

電池のマンガン電解液が目に入ったときは、失明など傷害のおそれがあります。
目に入ったときは、こすらずにすぐに水道水などの大量の水で十分に洗った後、医師の治療を受けてください。

⚠警告

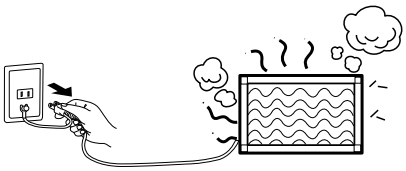
異常・故障について

異常・故障時は使用を中止してください。

プラグを抜く

◆ **異常があったときは電源プラグを抜いてください**

◎ 煙が出たり、異常な臭いや音がする
◎ 映像や音声が出ないことがある
◎ 内部に水などの液体や異物が入った
◎ 本機に変形や破損した部分がある



そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

● すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に修理を依頼してください。
● お客さまによる修理は危険ですから、おやめください。
● 電源プラグはすぐに抜けるように容易に手が届く位置の電源コンセントをご利用ください。

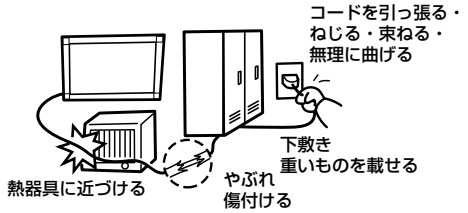
電源コード・電源プラグについて

◆ **破損するようなことはしないでください**

◎ 傷付ける　◎ ねじる
◎ 加工する　◎ 引っ張る
◎ 熱器具に近づける　◎ 重いものを載せる
◎ 無理に曲げる　◎ 束ねる

火災・感電・ショートなどの原因になります。

● 修理は販売店に依頼してください。



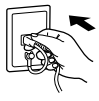
◆ **傷んだ電源プラグやゆるんだ電源コンセントは使用しないでください**

火災・感電・ショートなどの原因になります。

● 修理は販売店に依頼してください。

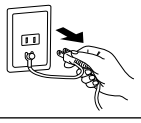
◆ **電源プラグは根元まで確実に差し込んでください**

差し込みが不完全だと火災・感電の原因になります。



◆ **電源プラグを持って抜いてください**

コードを引っ張ると破損し、火災・感電・ショートの原因になります。



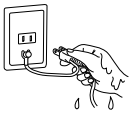
◆ **電源プラグのほこりなどは定期的に取り除いてください**

ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり火災の原因になります。

濡れ手禁止

◆ **濡れた手で、電源プラグの抜き差しをしないでください**

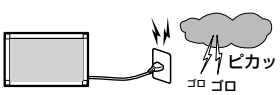
感電の原因になります。



接触禁止

◆ **雷が鳴り出したら、本機および電源プラグには触れないでください**

感電の原因になります。



⚠警告

電源コード・電源プラグについて

◆ アース線を接続してください

故障のときに感電の原因になります。

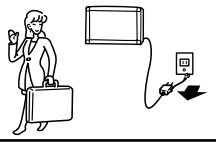
- 電源プラグを接続する前にアース線を電源コンセントのアース端子へ接続してください。
- アース線を外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてからおこなってください。
- アース端子付き電源コンセントがない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

◆ アース線を電源コンセントに挿入・接触させないでください

感電・火災の原因になります。

◆ 長期間の旅行、外出のときは電源プラグを抜いてください

電源プラグにほこりがたまり、感電・火災の原因になります。



接続ケーブルについて

◆ 接続ケーブルを無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください

火災・感電の原因になります。

◆ 接続ケーブルを壁面に挟んだり、足をひっかけたりしないように処理してください

火災・感電・けがの原因になります。

水濡れについて

◆ 上に花びんやコップなどを置かないでください

故障・火災・感電などの原因になります。

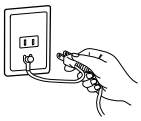
◆ 風呂場や水のかかる所に置かないでください

故障・火災・感電などの原因になります。

電源について

◆ 電源はAC100-120VまたはAC220-240Vを使ってください

火災・感電の原因になります。



- AC100V電源では付属の電源コードを使用してください。
- AC100V以外の電源では、使用電圧に適合する電源コードをご準備ください。

異物について

◆ 内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を入れないでください

火災・感電・故障の原因になります。

- 特にお子さまにご注意ください。

液晶について

◆ 液晶パネルが破損して液晶が漏れ出た場合は、吸い込んだり、目や口に入れたりしないでください

中毒を起こす原因になることがあります。

- 万一、目や口に入ってしまった場合は、水でゆすいだ後、すぐに医師の診察を受けてください。
- 手や衣類に付着した場合は、アルコール等で拭き取り、水洗いをしてください。

電源について

◆ 電源コンセントや電源コードの定格を超えて使わないでください
◆ たこ足配線をしないでください

電源コンセントの電流容量を超えると、火災の原因になります。

誤飲防止について

◆ 小さい付属品は、乳幼児の手の届く所に置かないでください

誤って飲み込むおそれがあります。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師の診察を受けてください。

設置について

◆ 不安定な場所に置かないでください

倒れたり、落ちたりしてけがや故障による火災の原因になります。

分解禁止について

◆ 裏ぶた、キャビネット、カバーを外したり、本機を改造しないでください

内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因になります。

- 内部の点検・調整・修理は修理相談窓口にご依頼ください。

⚠警告

電池について（マンガン電池）

◆ **電池のマンガン液を皮膚や衣服に付着させないでください**

皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに水道水などの大量の水で十分に洗い流してください。

◆ **電池のマンガン液をなめないでください**

マンガン液をなめたときは、医師の治療を受けてください。

● 特にお子さまにご注意ください。

◆ **電池は、乳幼児の手の届かない所に置いてください**

万一、電池を飲み込んだときはすぐに、医師の診察を受けてください。

◆ **電極（プラス ⊕ とマイナス ⊖ ）をショートさせないでください**

過大電流が流れて漏液・発熱・破裂させる原因になります。

◆ **電池を分解したり、火の中に入れたりしないでください**
◆ **極性（ ⊕ と ⊖ ）を逆に入れないでください**
◆ **充電しないでください**
◆ **新しい電池と古い電池を混ぜたり、異なる種類の電池を混ぜて使用しないでください**
◆ **本機のリモコンに適した正しい電池を使用してください**

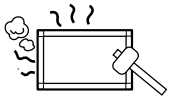
品名：単4形マンガン乾電池
漏液・発熱・破裂させる原因になります。

⚠注意

本機の取り扱いについて

◆ **強い力や衝撃を加えないでください**

LCDパネルのガラスが割れて、けがの原因になることがあります。

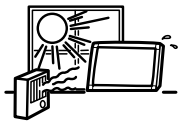


◆ **上にものを置かないでください**

落下して、けがの原因になることがあります。

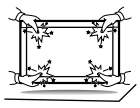
◆ **直射日光や熱器具のそばに置かないでください**

故障の原因になることがあります。



◆ **液晶パネル面を強く押さないでください**

・ 傷が付いたり、破損してけがの原因になることがあります。
・ 画質劣化や故障の原因になることがあります。



◆ **ポリ袋で遊ばないでください**

本体や付属品の包装用ポリ袋を頭からかぶると窒息の原因になることがあります。

● お子さまにはご注意ください。

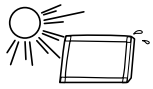
◆ **乗らないでください**
◆ **ぶらさがらないでください**

倒れたり、こわれたりして、けがの原因になることがあります。

● お子さまにはご注意ください。

◆ **屋外で使用しないでください**

故障の原因になることがあります。



◆ **車に載せるなどの移動用途では使用しないでください**

故障の原因になることがあります。

◆ **電源コードや接続ケーブルをつけたまま移動しないでください**

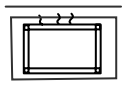
本機や電源コードおよび接続ケーブルが破損する原因になります。

設置について

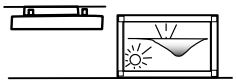
◆ **通風孔をふさがないでください**
◆ **風通しの悪い狭い所で使用しないでください**
◆ **下向きや逆さまで使用しないでください**

内部に熱がこもり、故障の原因になることがあります。

通風孔をふさがない



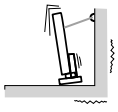
狭い所で使わない



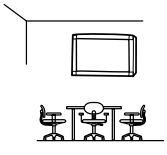
下向きや逆さまで使わない

◆ **転倒・落下防止部品を使用して固定してください**

転倒・落下して、けがの原因になります。



スタンドを使用した設置では、
丈夫な紐などで製品を壁とつなぐ



⚠注意

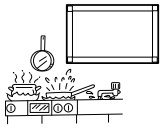
設置について

◆ **本機の上下左右面は壁などから10cm以上の間隔をおいて設置してください**

内部に熱がこもり、故障の原因になることがあります。

◆ **湿気やほこりの多い所、油煙や湯気があたるような所（調理台や加湿器のそばなど）に置かないでください**

ショートして故障したり、画面が汚れたりする原因になることがあります。



電池について（マンガン電池）

◆ **長期間使用しない場合はリモコンから取り出してください**
◆ **直接ハンダ付けしないでください**
◆ **変形しているなど異常な電池は使用しないでください**
◆ **電池を落下させるなど強い衝撃を与えないでください**
◆ **電池を変形させたり絶縁物を損傷させないでください**

電池の破裂・漏液により、けがや周囲を汚損する原因になります。

◆ **直射日光があたるなど高温／高湿の場所で保管・使用をしないでください**

漏液するおそれがあります。また、電池の性能や寿命を低下させることがあります。

◆ **電池を水などで濡らさないでください**

発熱したり、電極部を錆びさせることがあります。

◆ **保管時や廃棄時は端子部を絶縁してください**

漏液・発熱・破裂させるおそれがあります。

● 保管時や廃棄時は、金属や他の電池と接触してショートしないように、必ず端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。

⚠注意

お手入れのしかた

プラグを抜く

◆ お手入れの前に、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてください

■ 液晶パネルのお手入れ

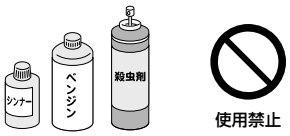
表面は傷付きやすいので硬いものでこすったり、たたいたりしないでください。
ほこりの付いた布・化学ぞうきんで表面をこすると液晶パネルの表面がはがれることがあります。

- 表面は、脱脂綿か柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 油など拭き取りにくい汚れのときは、水で薄めた中性洗剤に浸した布をよく絞り、拭き取ったあと柔らかい布で仕上げてください。研磨剤が入った洗剤は、表面を傷付けるので使用しないでください。
- 水滴などがかかった場合は、すぐに拭き取ってください。そのままにすると液晶パネルの変質や変色の原因になります。
- 表面にほこりが付いたときは、市販の柔らかいブラシなどでおとしてください。
- 帯電防止剤は、液晶パネルの変質や変色の原因になるものがあります。ご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

■ キャビネットのお手入れ

キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。
ベンジンやクリーナーなどで拭くと変質したり、塗料がはげる原因になります。

- 柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に浸した布をよく絞り拭いてください。
- 水滴などが液晶パネルの表面を伝ってディスプレイの内部に侵入すると故障の原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。



使用禁止

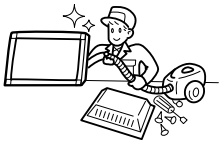
◆ 通風孔に付着したゴミはこまめに取り除いてください

ほこりが通風孔をふさいで内部に熱がこもり、故障の原因になることがあります。

◆ 1年に一度は内部掃除をしてください

内部にほこりがたまったまま使うと、火災や故障の原因になります。

- 内部の掃除は販売店にご依頼ください。



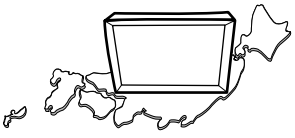
ご使用に関して

◆ 海外で使用しないでください

国内と海外では電源電圧が異なり、故障の原因になることがあります。

- 本機は日本国内用として製造・販売しています。日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
  また、この製品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではおこなっていません。
  This color monitor is designed for use in Japan and can not be used in any other countries.

国内専用
For use in Japan only



◆ 目が疲れないように使用してください

目が疲れる使い方を続けると、視力低下などの健康障害に至ることがあります。

- 明るすぎる部屋は目が疲れます。適度な明るさの中でご使用ください。
- 連続して長い時間、画面を見ていると目が疲れます。

◆ 長時間同じ画面を表示しないでください

長時間同じ画面を表示していると、表示が焼き付くこと（残像）があります。

- 画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使い方は避けてください。
- 「スクリーンセーバー」などを使用して画面表示を変えたり、使用していないときは省電力モードにするか、電源をオフすることを推奨します。

使用上のお願い

液晶ディスプレイの上手な使い方

電波妨害について

本機は規格を満たしていますが若干のノイズが出ています。「ラジオ」などの機器に本機を近づけると互いに妨害を受けることがあります。その場合は、機器を影響のない所まで本機から離してください。

搬送について

- 引っ越しや修理などで本機を運搬する場合は、本機用の梱包箱と緩衝材および包装用のシートや袋をご用意ください。
- 本機は立てた状態で運搬してください。横倒しにして運搬した場合、液晶パネルのガラスが破損したり、点欠陥が増加する場合があります。

保管について

- 長期保管される場合は、電気的な性能を維持するために、定期的（6ヶ月に1回程度）に通電してください。
- 輸送・保管時は、水・ゴミ・ほこりや衝撃から保護するために、ご購入時の包装材（箱・袋・緩衝材）を使用されることを推奨します。

廃棄について

- 本機を廃棄する場合は、資源有効利用促進法に基づく、回収・リサイクルにご協力ください。→P73
- 乾電池・リチウム一次電池は住んでいる所（各自治体）によって資源ゴミ、不燃ゴミ、有害・危険ゴミなどゴミの分類が異なり、そのため「捨てる方法」も違います。住んでいる市町村の指示にしたがって捨ててください。

液晶パネルについて

- 液晶ディスプレイは精密度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや常時点灯しているドットがある場合があります。
  これは故障ではありません。

お知らせ

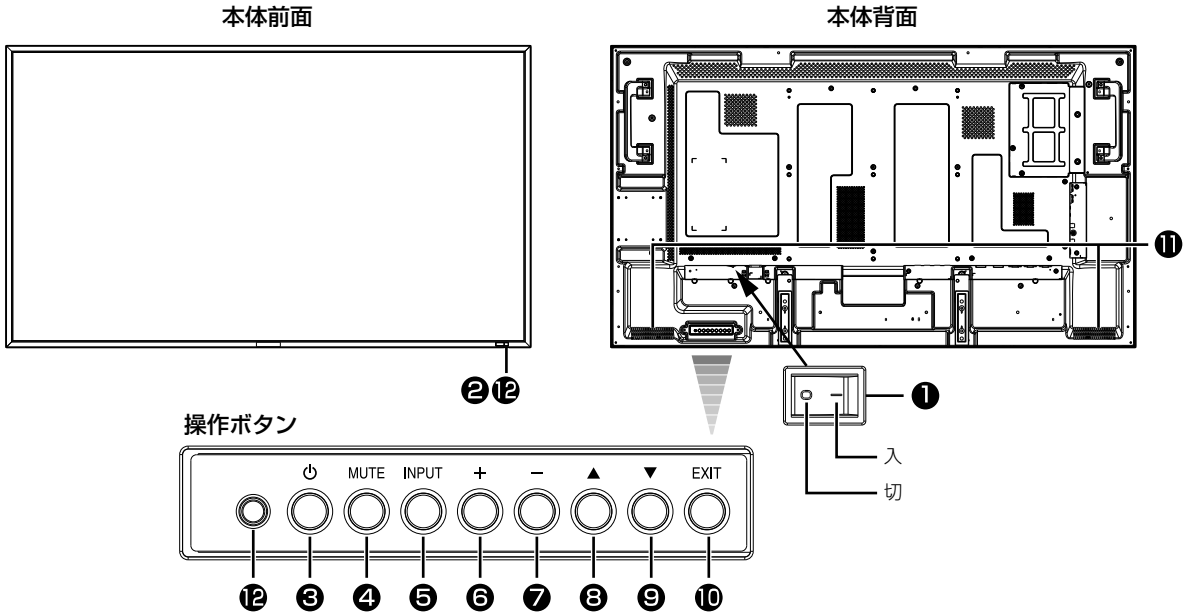
「画素」および「ドット」という言葉はISO13406-2にしたがい、正確に表現すると、「画素」は「ピクセル(pixel)」、「ドット」は「副画素」とも呼ばれ「サブピクセル(sub pixel)」となります。
つまり、「画素」は実態のある副画素と言われる発光する点から構成され、「副画素」は、画素に色または階調を与えるもので、一つの画素内で個別に処理される分割された画素内部構造を示します。

- 液晶パネルが汚れた場合は、脱脂綿か柔らかい布で拭き取ってください。
  素手で触らないでください。
- 液晶パネルに水滴などがかかった場合は、すぐに拭き取ってください。
  そのまま放置すると液晶パネルの変質、変色の原因になります。
- 液晶パネルを傷付けないでください。
  硬いもので液晶パネルの表面を押したり、ひっかいたりしないでください。

■ お客様または第三者が本機を使用中または誤使用により生じた故障やその他の不具合または本機の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

各部のはたらき

本体の操作ボタン・スイッチ・ランプ



❶ 主電源スイッチ

主電源（本機への AC 電源供給）を入／切するスイッチです。

お 願 い

リモコンの電源ボタン、本体の電源ボタンや通信コマンドで電源を切った後、2 秒以内は主電源スイッチを切ったり、電源コードを抜いたり、ブレーカーを落としたりしないでください。電源「切」の操作直後に AC 電源が切られると、次に電源を入れたときに言語選択を含めすべての OSD 設定が工場設定の状態に戻る恐れがあります。
上記の操作で工場設定の状態に戻ったときは、以下の手順で OSD を再設定してください。

1. リモコンなどで本機の電源を「切（オフモード）」にする
2. 2 秒以上待つ
3. リモコンなどで本機の電源を「入」にする
4. OSD の内容を確認し、再設定する

❷ リモコン受光部／電源ランプ

リモコン受光部 ：リモコンの信号の受光部です。
電源ランプ ：本機の状態を簡便に明示します。

- ●緑色点灯： 電源入モードです。
- ●赤色点灯： 電源切モードです。
  電源入など一部の操作が可能です。
- ●同時点灯（緑／赤）： スリープモードです。 → P39
- ●消灯 ： 主電源が切れています。
- ●赤色点灯と緑色点滅 ：スケジュール待機中です。
- ●赤色点滅： 異常を検出した状態です。（自己診断機能） → P68

❸ 電源ボタン（⏻）

電源を入／切するときに押します。
電源ランプが消灯しているときは、動作しません。主電源を入れてください。

❹ ミュートボタン（MUTE）

音を消します。もう一度押すと音が出ます。

❺ 入力切換ボタン（INPUT）

映像入力を切り換える OSD を表示します。
アップボタン（▲）とダウンボタン（▼）で [HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[D-SUB]、[OPTION]*、[DISPLAYPORT]、[YPbPr]、[S-VIDEO]、[VIDEO] を選択します。
*OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

❻ プラスボタン（+）

OSD 画面で調節項目を選択したあと、このボタンを押してお好みの画面に調節します。
OSD 画面が消えているときは、音量を大きくします。

❼ マイナスボタン（−）

OSD 画面で調節項目を選択したあと、このボタンを押してお好みの画面に調節します。
OSD 画面が消えているときは、音量を小さくします。

❽ アップボタン（▲）

OSD 画面が表示されているとき、▲ボタンで調節項目を選択します。

❾ ダウンボタン（▼）

OSD 画面が表示されているとき、▼ボタンで調節項目を選択します。

❿ EXIT ボタン（EXIT）

OSD 画面が表示されていないときに押すと、OSD 画面を表示します。
OSD 画面が表示されているときは、ひとつ前の OSD 画面に戻ります。

⓫ スピーカー

内蔵スピーカーから音声を出力します。

⓬ 明るさセンサー（前面、背面）

オートブライトネス機能用のセンサーです。
→ P55、P65

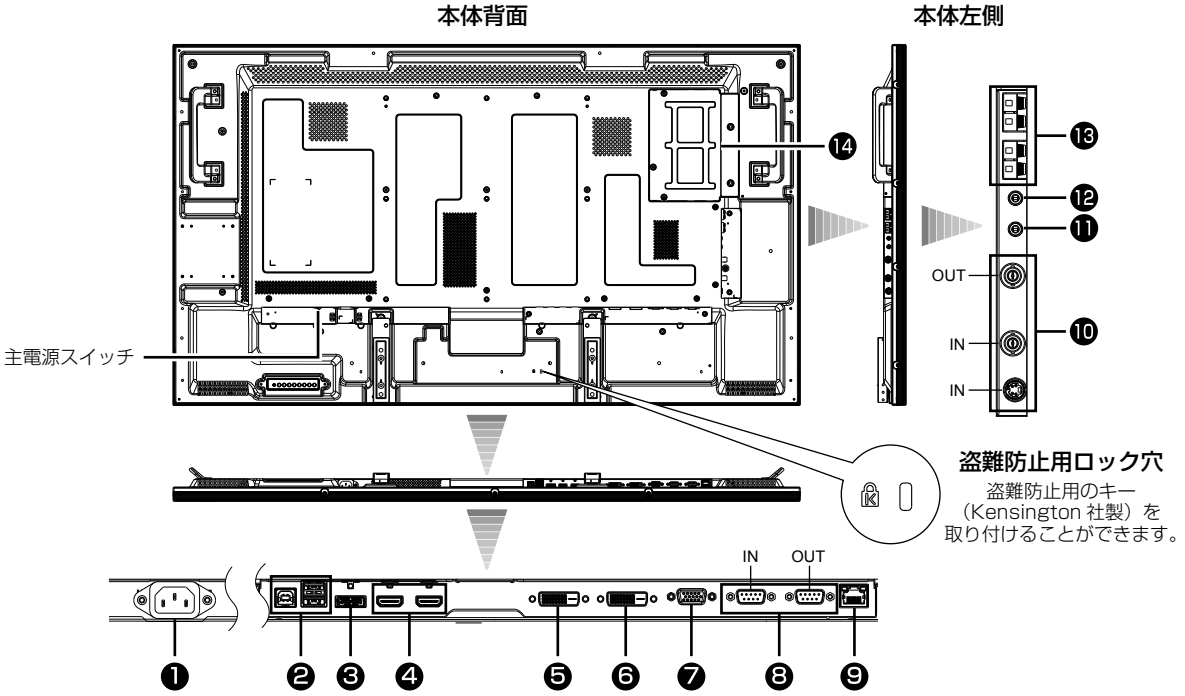
（参考）コントロールロックモード → P63

操作ボタンをロックすることができます。

お知らせ

- 各ボタンによる OSD 画面の操作方法は「OSD の基本操作」→ P53 をご覧ください。

本体背面の入出力コネクター



❶ 電源入力コネクター（3 極アース端子付き）
電源コードを接続します。

❷ USB ハブ →P34、P51
USB アップストリームポート（標準 B）：1 個
外部機器のコンピューターに接続します。
USB ダウンストリームポート（標準 A）：2 個
タッチパネルなどの周辺機器に接続します。

❸ DISPLAYPORT IN コネクター
コンピューター等のデジタル映像出力に接続します。

❹ HDMI1 IN、HDMI2 IN コネクター
コンピューターや DVD プレーヤー等のデジタル映像出力に接続します。

❺ DVI-D IN コネクター
コンピューター等のデジタル映像出力に接続します。

❻ DVI-D OUT コネクター
DVI-D IN（❺）と同じ信号を出力します。

❼ D-SUB ／ YPbPr IN コネクター
コンピューターのアナログ映像出力、または DVD プレーヤーなどのコンポーネント映像出力に接続します。

❽ RS-232C コネクター（D-SUB 9 ピン）
IN 側コネクターには、コンピューターまたはマルチ接続した LDT552V の RS-232C OUT コネクターからのケーブルを接続します。
OUT 側コネクターには、マルチ接続した LDT552V の RS-232C IN コネクターへのケーブルを接続します。

❾ LAN コネクター
LAN ケーブルを接続します。

❿ VIDEO IN ／ OUT コネクター（S 端子／ BNC）
ビデオ機器などに接続します。
S VIDEO IN：S 端子入力コネクター（MINI DIN 4 ピン）
VIDEO IN　：BNC コネクター
VIDEO OUT：BNC コネクター

⓫ AUDIO ANALOG IN コネクター
コンピューター、ビデオプレーヤー、DVD プレーヤーなどの音声出力コネクターに接続します。

⓬ AUDIO ANALOG OUT コネクター
AUDIO ANALOG IN（⓫）と同じ信号を出力します。外部オーディオアンプ等を接続します。

お知らせ

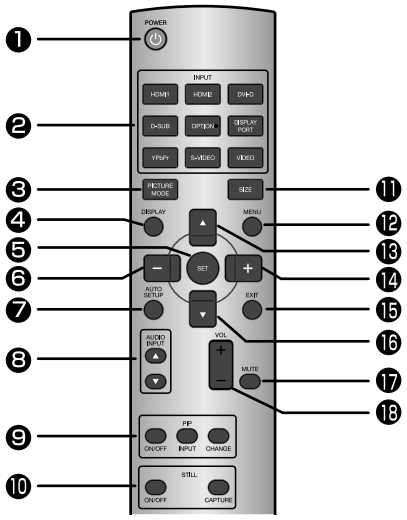
ヘッドホンやイヤホンには、対応していません。

⓭ スピーカー出力コネクター →P23
専用ステレオスピーカー（オプション）を接続します。

⓮ オプションスロット
拡張モジュール（オプションまたは市販）を挿入します。

⚠注意
本機に対応したモジュール以外は挿入しないでください。挿入した場合、期待どおりの動作をしなかったり相互に故障したりする恐れがあります。→P30
OPS 対応コンピューター（市販）装着時は、冷却ファンをオンにしてください。

リモコン



❶ 電源ボタン（POWER）
電源を入／切するときに押します。
（電源ランプが点灯していないときには動作しません）

❷ 入力切換ボタン（INPUT）
映像入力を切り換えます。
それぞれ [HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[D-SUB]、[OPTION]*、[DISPLAYPORT]、[YPbPr]、[S-VIDEO]、[VIDEO] に切り換わります。
*OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

❸ ピクチャーモード切換ボタン（PICTURE MODE）
ピクチャーモードを選択します。
HIGHBRIGHT：ブライトネスを最も明るくします。
STANDARD　：工場出荷時の標準的な設定です。
sRGB　　：sRGB 規格対応機器との色あわせに適します。
CINEMA　　：映画を見るのに適します。

❹ DISPLAY ボタン（DISPLAY）
画面情報を表示します。→P63
リモコンモード →P62 を LOCK に設定した場合は、DISPLAY ボタンを 5 秒以上押し続けるとノーマル状態に戻ります。

❺ SET ボタン（SET）
OSD 画面で調節した内容を決定します。

❻ マイナスボタン（ー）
OSD 画面で調節項目を選択したあと、このボタンを押してお好みの画面に調節します。PIP 機能が選択されているときは、子画面を左に動かします。

❼ AUTOSETUP ボタン（AUTO SETUP）
オートセットアップメニュー画面を表示します。

❽ 音声入力切換ボタン（AUDIO INPUT）
音声入力を映像入力ごとに切り換えることができます。

お知らせ

HDMI1、HDMI2、OPTION（OPS 対応コンピューター、SDI 受信 BOX）、DISPLAYPORT の映像入力を選択しているときのみ有効です。→P64

❾ 子画面選択ボタン（PIP）→P57、P66
ON ／ OFF ボタン：PIP、POP 機能を ON ／ OFF します。
INPUT ボタン　　：子画面の映像を選択します。
CHANGE ボタン ：親画面と子画面を入れ換えます。

【ミニ解説】

PIP：Picture In Picture
親画面内に子画面を表示する機能です。
POP：Picture Out Picture
親画面外の右下に子画面を表示する機能です。
SBS：Side-By-Side
親画面と子画面を左右に並べて表示する機能です。

お知らせ

画面サイズが「CUSTOM」「リアル」の場合、PIP、POP は機能しません。

❿ 画面静止ボタン（STILL）
ON ／ OFF ボタン：スチル機能を ON ／ OFF します。
CAPTURE ボタン：画面を静止させます。

⓫ サイズボタン（SIZE）
ピクチャーサイズを [FULL]、[ノーマル]、[CUSTOM]、[ダイナミック]、[リアル] から選択します。→P63

⓬ MENU ボタン（MENU）
OSD 画面を ON ／ OFF します。

⓭ アップボタン（▲）
OSD 画面が表示されているとき、▲ボタンで調節項目を選択します。PIP 機能が選択されているときは、▲ボタンで子画面を上に動かします。

⓮ プラスボタン（＋）
OSD 画面で調節項目を選択したあと、このボタンを押してお好みの画面に調節します。
PIP 機能が選択されているときは、子画面を右に動かします。

⓯ EXIT ボタン（EXIT）
ひとつ前の OSD 画面に戻ります。

⓰ ダウンボタン（▼）
OSD 画面が表示されているとき、▼ボタンで調節項目を選択します。PIP 機能が選択されているときは、▼ボタンで子画面を下に動かします。

⓱ ミュートボタン（MUTE）
音声を消します。もう一度押すと音声が出ます。

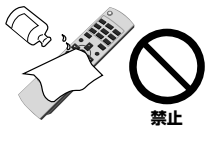
⓲ 音量ボタン（VOL）
＋を押すと音量が大きくなります。
ーを押すと音量が小さくなります。

お 願 い　リモコンの取り扱い

落としたり衝撃を与えない。

水をかけたり、濡れたものの上に置かない。

ベンジン、シンナーなど揮発性の液体で拭かない。



リモコンの使用範囲

リモコンの先を本機のリモコン受光部に向けてください。
リモコンは、ディスプレイ正面から 7 m 以内、左右 30° では、3.5 m 以内でご使用ください。

リモコンの取り扱い

基本的な使い方
リモコンはディスプレイ本体のリモコン受光部へ向けて操作してください。

⚠注意

● リモコン使用上の注意
- 本機専用のリモコンです。他のディスプレイやテレビなどの操作はできません。
- リモコンの動作範囲は真正面からの直線距離で約 7 m ですが、操作する環境によっては反応が遅かったり、動作しないこともありますので、この場合、画面に近づくか、より真正面に近い角度で操作してください。
- リモコンを落としたり衝撃を与えないでください。
  また、水に濡らしたり、温度の高い所に置かないでください。故障の原因になります。
- リモコンを直射日光の当たる場所に放置しないでください。熱により変形することがあります。
- リモコンを操作しても本機が動作しなくなったら乾電池の交換時期です。新しい乾電池と交換してください。
- 本体のリモコン受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。

ご使用の前に

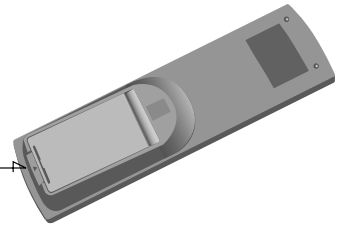
付属品の単 4 形乾電池をリモコンの電池室にセットしてください。

乾電池の交換方法

お知らせ

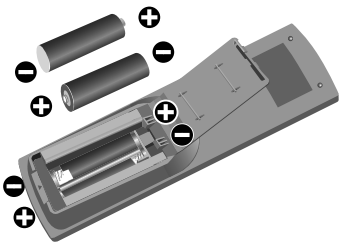
● 付属品の乾電池は保存状態により短時間で消耗することがありますので、早めに新しい乾電池と交換してください。
● リモコンが動作しなくなったり、操作できる距離が短くなったときは、2 個とも新しい乾電池と交換してください。
● 長時間使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出して保管してください。

1 電池室開口部の▲マーク部を押しながら引き上げて蓋を開きます。
電池室を開いたら、古い乾電池を取り外してください。



2 使用する乾電池は単 4 形マンガン乾電池です。
それ以外の電池は使用しないでください。

交換するときは、必ず電池室の＋マーク側と乾電池の＋マーク側を合わせて入れ換えてください。



3 新しい乾電池と交換したら、電池室の蓋を元に戻してください。

⚠警告

使用している乾電池は、使用形態や使用環境、保存環境などによって、漏液・発熱・破裂したり、けがや機器故障の原因になります。
「安全のために必ずお守りください。」→ P9 をご覧になり、取り扱いには十分に注意してください。

⚠注意

● 乾電池を入れるときは、プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きを正しく入れてください。
● 長期間リモコンを使用しない場合や使い切った場合は乾電池をすぐにリモコンから取り出してください。
  長期間放置すると乾電池から発生するガスにより漏液、発熱、破損したり、リモコンを損傷する恐れがあります。
● 交換用乾電池は品番を確認して、同じものを使用してください。
● 付属品の乾電池は充電用ではありませんので充電しないでください。

これらの使い方を誤ると漏液・発熱・破裂により、けがの原因になります。

使用の準備

使用するための流れ

[準備 1] **設置する前に** →P18
設置条件
通気の確保と使用環境温度
転倒防止

必要に応じて

[準備 2] **設置する** →P19
専用スタンドを取り付ける
壁掛けや天吊りで使用する
ハンドルが壁にぶつかるときは
スタンドガイドフレームを取り外す
壁掛け用スペーサーを使用する
縦置きや上向きに設置する
ベゼルを外して使うときは
コーナー保護カバーを取り付ける

必要に応じて

[準備 3] **専用ステレオスピーカー（オプション）を接続する** →P23

[準備 4] **外部機器を接続する** →P24
簡単接続図
HDMI ケーブルの脱落防止
コンピューターを接続する (・アナログ接続　・デジタル接続)
ビデオ機器（コンポーネントビデオ／ HDMI 機器）を接続する
ビデオ機器（コンポジットビデオ／ S ビデオ機器）／ステレオアンプを接続する

必要に応じて

[準備 5] **拡張モジュールを取り付ける** →P30
拡張モジュールを取り付ける
SDI で長距離接続や複数接続をする
OPS 対応コンピューターを装着する

必要に応じて

[準備 6] **RS-232C を接続する** →P32

必要に応じて

[準備 7] **LAN を接続する** →P33

必要に応じて

[準備 8] **USB 機器を接続する** →P34
USB ハブ機能で複数の USB 機器を接続する

[準備 9] **電源コードを本機に接続する** →P35
電源を接続する

[準備 10] **電源プラグのアース線を接続する** →P36

[準備 11] **電源プラグを AC100 V 電源コンセントに接続する** →P36

これで使用前の準備は完了です。

使用方法 →P37

[準備 1] 設置する前に

設置条件

お 願 い

お客様による設置はしないでください。
設置する際は、お買い上げの販売店までご相談ください。

お知らせ

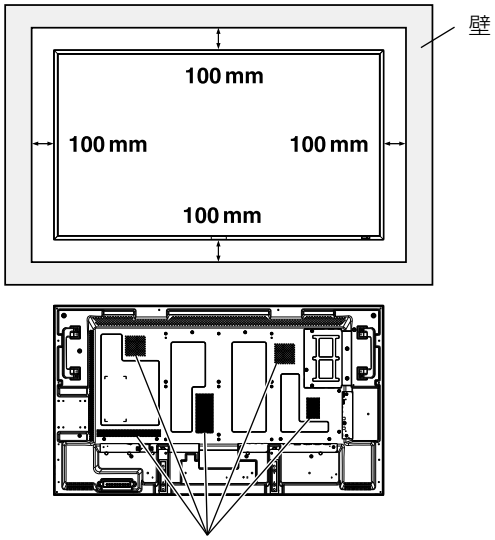
- 直射日光の当たる場所への設置はしないでください。表示不具合をおこす場合があります。
- ディスプレイを上下逆さまや下向きにした状態でのご使用については、保証しておりません。

⚠注意

移動や設置および取り付けは、必ず 2 名以上でおこなってください。落下してけがの原因になる場合があります。

通気の確保と使用環境温度

熱がこもるのを防ぐため、ディスプレイの周囲は下図のように壁から離してください。



この部分の穴はふさがない。

⚠注意

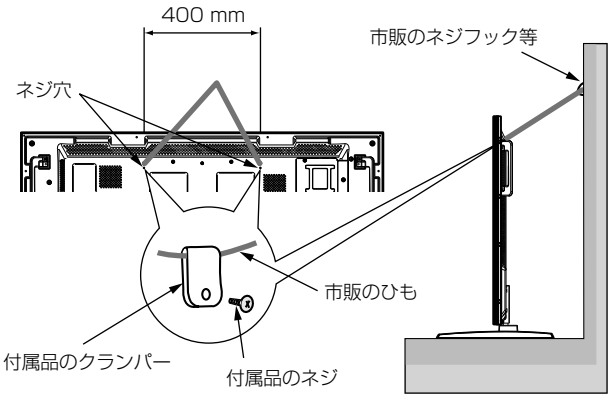
- 本体背面の指示部分は穴をふさがないでください。内部に熱がこもり、故障の原因になります。
- 本機を横置きした場合に保証する使用環境温度の上限は 40℃です。ケース等に入れてご使用される場合は、ケースの内部温度が 40℃以下になるようにケースに冷却ファンを取り付ける、通風口を設ける等の処置をおこなってください。縦置き、上向きの場合の上限は 35℃です。
- 使用環境温度が保証範囲を大きく超えるとき、画面上に「TEMPERATURE WARNING」の警告が表示されます。警告が表示された環境での使用は故障の原因になりますので、電源を切ってください。→P68

冷却ファン

本機内蔵の冷却ファンは使用される環境温度に応じて自動的に動作するほかに、スクリーンセーバー機能 →P58 で常時動作するように設定することができます。
ケース内への設置や、液晶画面の表面にアクリル板などをつけてご使用になる場合は、内部温度上昇を HEAT STATUS 機能 →P62 で確認の上、必要に応じて冷却ファンの動作設定を変更してください。また、OPS 対応コンピューター（市販）装着時は、冷却ファンをオンにしてください。

転倒防止

専用スタンド（オプション）を使って設置する場合、地震等が原因で本機が転倒した場合の危害を軽減するために、転倒防止対策をおこなってください。
図のように、ディスプレイを壁や柱などの堅牢な場所へディスプレイの質量に耐えられる強度の丈夫なひも（市販）で転倒防止対策を施し、倒れないようにしてください。（専用スタンド装着時　約 30.1 kg）
なお、ネジフック（市販）などをご使用になる場合は「口開き (C 字)」タイプは使用しないでください。「丸環状」のものをお使いください。



⚠注意

- 転倒防止金具を取り付ける壁や台の強度によっては、転倒防止効果が大幅に減少します。その場合は、適切な補強を施してください。
- また、転倒防止対策は、けがなどの危惧の軽減を意図したものですが、すべての地震に対してその効果を保証するものではありません。
- 万一、地震などで転倒・落下の恐れがある場所では就寝しないでください。
- ディスプレイを移動するときには事前に「ひも」を取り外してください。

[準備 2] 設置する

[必要に応じて]

専用スタンドを取り付ける

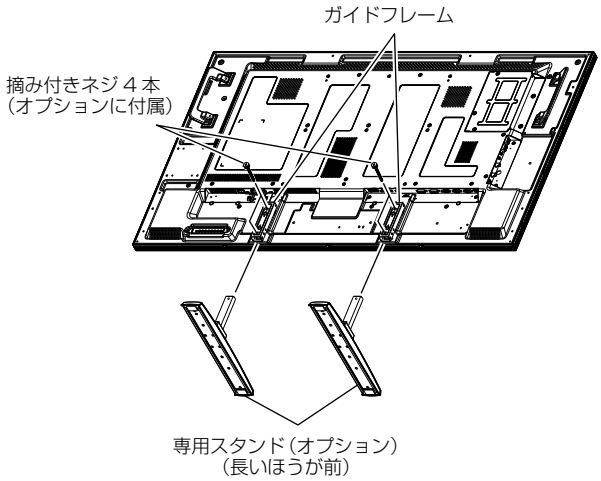
お知らせ

専用スタンドは、別売りオプションです。お買い求めの販売店にご相談し、ご用意ください。

1 机の上のような平らな場所で、ディスプレイをマットや毛布など柔らかいものの上に置きます。

2 左右の専用スタンドをガイドフレームの奥まで差し込みます。

左右の専用スタンドを、専用スタンドに付属の摘み付きネジでしっかり締め付けて固定します。



3 傾いていない平らで安定した場所に設置します。

⚠注意

- 本機の内部を破損する可能性があります。必ず付属の摘み付きネジを使用してください。
- 専用スタンドを取り付けるときは、本体と専用スタンドの間に手を挟まないように注意してください。

壁掛けや天吊りで使用する

1 机の上のような平らな場所で、ディスプレイをマットや毛布など柔らかいものの上に置きます。

⚠注意

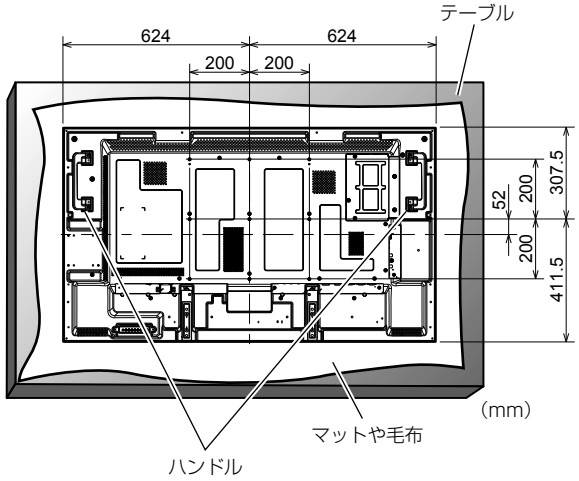
専用スタンドを装着している場合は、必ず取り外してください。

2 壁掛けや天吊り用として使用する場合は、適切な取り付け金具を使用してください。

また、取り付けには鉄製 M6 ネジ（緩み止めスプリングワッシャー付き、長さは取り付け金具の板厚プラス 10 mm）を使用し、しっかり固定してください。

お 願 い

本体背面の取り付け穴を使用し、ネジでしっかり固定してください。
取り付け穴は背面に 9 箇所あります。取り付けの際には上下左右均等に取り付けてください。（下図を参照ください。）



⚠注意

落下防止のために

- 金具（市販）への取り付けは、お客様の責任においておこなってください。取り付け方法の詳細は、壁掛け用や天吊り用金具（市販）の取扱説明書を参照ください。
- また、地震等での本機の落下によるけがなどの危惧を軽減するために設置場所などは必ず金具メーカーにご相談ください。
- 落下の危険を軽減するために、左右のハンドルに市販のひもなどを通して、壁掛け用や天吊り用金具に固定してください。ディスプレイの質量の 6 倍 (約 171 kg) に耐えられる強度のひもを使用してください。
- 万一、地震などで落下の恐れがある場所では就寝しないでください。

取り付け金具について

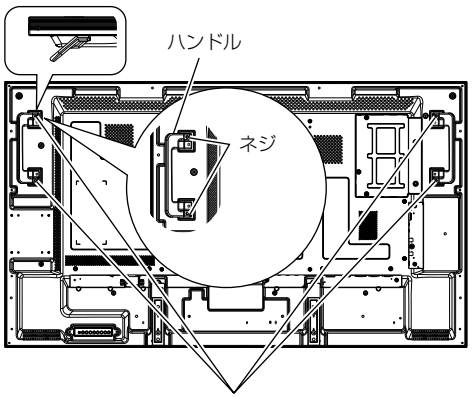
- 必ず VESA 規格に準拠した取り付け金具を使用してください。
- 金具取り付け面の強度を十分確認してから設置してください。
- 取り付け金具（市販）は、本機を支えるのに十分なものを使用してください。
- 取り付ける前に、強度など安全性の確認をおこなってください。
- 金具の一部がディスプレイの放熱穴をふさがないようにしてください。→P18
- 取り付け方法や安全な設置方法の詳細は、市販の取り付け金具の取扱説明書を参照ください。
- 取り付け金具や取り付け場所に不具合が起きた場合を想定し、複数の取り付け金具を使用する、複数の場所で支える、転倒·落下防止の処置をするなどの対応をおこなってください。

ハンドルが壁にぶつかるときは

ハンドルを反対向きに取り付けることで、奥行きを少なくできます。

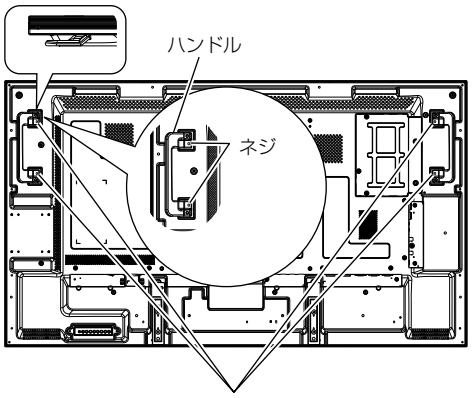
1 ハンドルを固定しているネジを取り外します。

通常時のハンドル位置



2 ハンドルの向きを前後反対にし、手順 1 で取り外したネジでハンドルをしっかり締め付けて固定します。

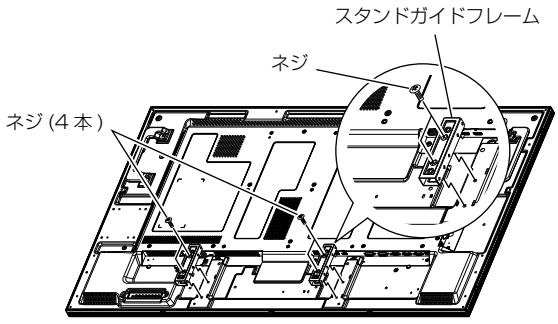
薄型時のハンドル位置



スタンドガイドフレームを取り外す

スタンドガイドフレームを取り外すことで、奥行きを少なくできます。

1 スタンドガイドフレームを固定しているネジを取り外します。



2 スタンドガイドフレームを少しスライドさせて取り外します。

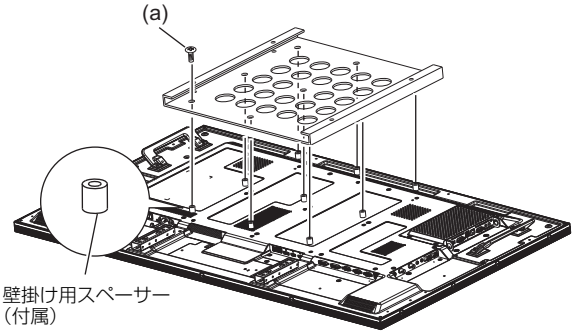
お 願 い

取り外したスタンドガイドフレームとネジは、専用スタンドを取り付けて設置するときに再度取り付けますので、大切に保管してください。

壁掛け用スペーサーを使用する

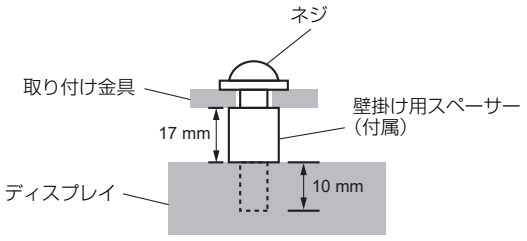
オプションスロット用カバーやスタンドガイドフレームが壁にぶつかったり、壁がディスプレイ背面の放熱穴をふさいだりする場合は、壁掛け用スペーサー（付属）を使って取り付け金具（市販）を取り付けてください。

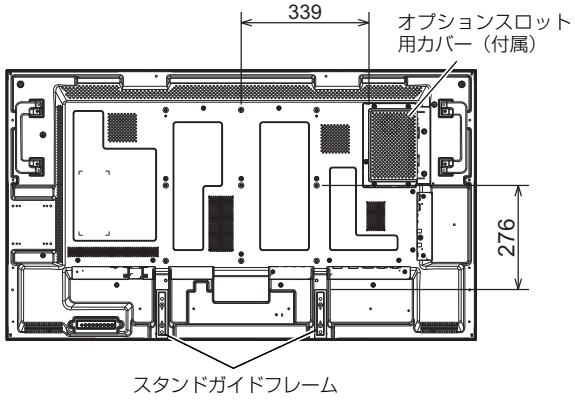
1 適切な取り付け金具とディスプレイの壁掛け用ネジ穴の間に壁掛け用スペーサー（9 個）を挟んで、ネジ (a) で取り付けます。



(a)：壁掛け用スペーサー取り付けネジ（M6、9 本）

取り付けるときは鉄製 M6 ネジ（緩み止めスプリングワッシャー付き、長さは取り付け金具の板厚と付属の壁掛け用スペーサーの厚み（17 mm）とネジ深さ（10 mm）を満足するもの）を使用し、しっかり固定してください。





縦置きや上向きに設置する

本機は、縦置きや上向きに設置できます。
以下に示すとおりの画面の上下関係を必ず守って使用してください。

お知らせ

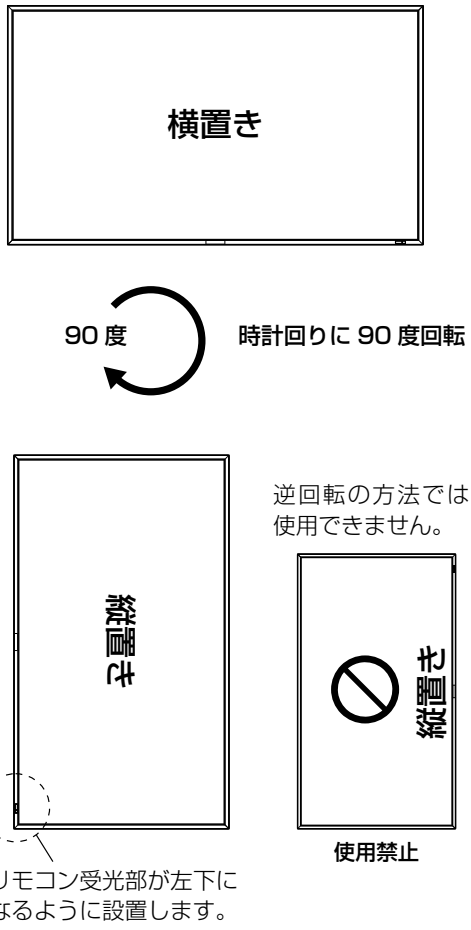
- 縦置きや上向きでの使用環境条件（温度）は、0℃～35℃になります。
- 下記に示す方法以外での設置方法（上下逆さま、下向きなど）は保証していません。
- OPS 対応コンピューター（市販）を装着したときは、OSD 機能の「詳細設定 1」のスクリーンセーバーで、冷却ファンを必ずオンにして使用してください。AUTO にして使用した場合、オンの場合と比較してコンピューターの寿命が短くなったり、故障したりする恐れがあります。
- 本機を縦置きや上向きに設置した場合、横置きと比較してバックライトの寿命が短くなります。
- 本機を上向きに設置したときは、OSD 機能の「詳細設定 1」のスクリーンセーバーで、冷却ファンを必ずオンにして使用してください。

縦置きに設置する場合

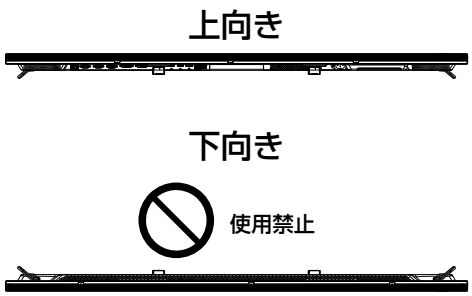
下図に示すとおり、時計回りに 90 度回転させ、リモコン受光部が左下になるように設置してください。

お知らせ

- 本機には映像を回転する機能がないため、縦形表示にしたい場合は、回転した映像をご用意ください。



上向きに設置する場合



縦置きや上向き設置時の使用環境

縦置きや上向きでご使用の場合、以下に示す条件を超えないように注意して設置してください。

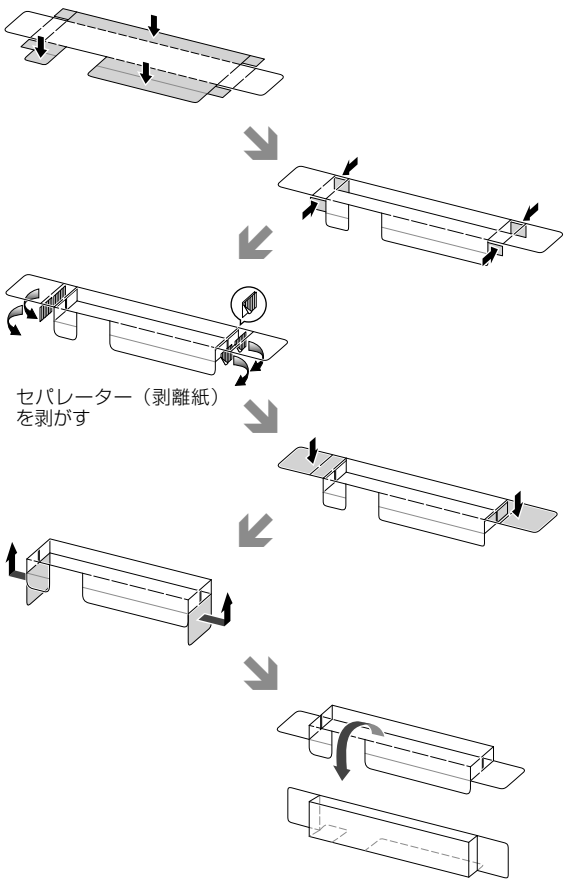
使用環境条件	
温度	0℃ ～ 35℃
湿度	20% ～ 80%（結露のないこと）

ベゼルを外して使うときは

⚠注意

静電気による基板の破損を防ぐために、LCD パネルに保護カバーを取り付けてください。

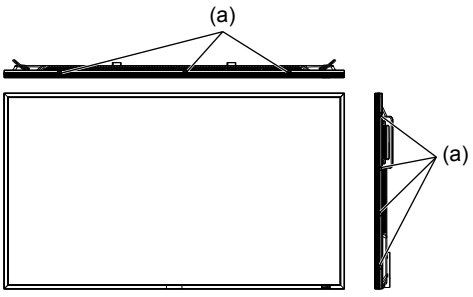
1 以下の手順にしたがって、付属の保護カバーを組み立てます。



2 ベゼルを固定しているネジ (a) を取り外して、ディスプレイからベゼルを取り外します。

⚠注意

(a) 以外のネジを取り外すとベゼルがばらばらになります。ベゼルが落下してけがをする原因になったり、ディスプレイが傷付く恐れがあります。

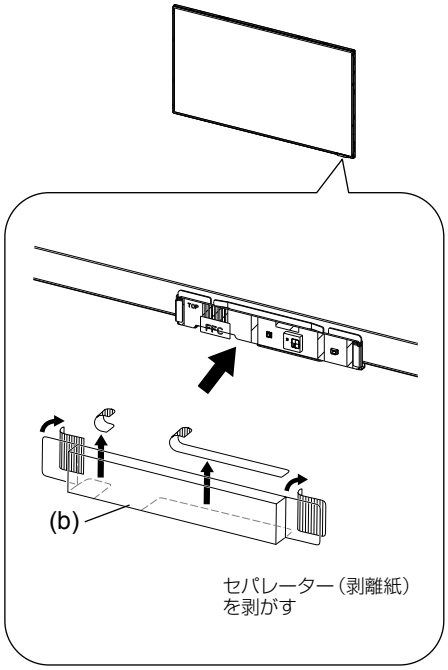


(a)：ベゼル固定用ネジ（M3、14 本）

3 手順 1 で組み立てた保護カバー (b) のセパレーター（剥離紙）を剥がして、LCD パネルに貼り付けます。

⚠注意

基板には触れないでください。故障の原因になります。



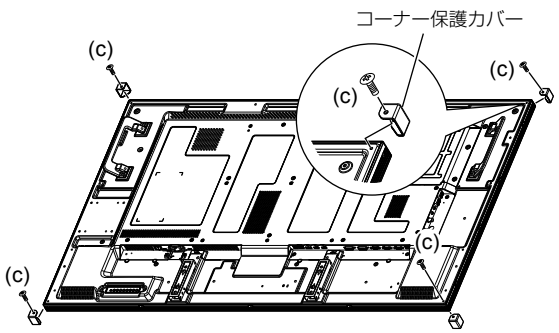
コーナー保護カバーを取り付ける

⚠注意

コーナー保護カバー（付属）を取り付けることを推奨します。

設置する際は、ディスプレイをしっかりと持ってください。コーナー保護カバーを持って移動すると、コーナー保護カバーからディスプレイが外れて落下し、けがをする原因になります。

1 付属しているネジ (c) で、コーナー保護カバーを取り付けます。



(c)：コーナー保護カバー取り付けネジ（M3、4 本）

[準備 3] 専用ステレオスピーカー（オプション）を接続する [必要に応じて]

1 専用ステレオスピーカー（オプション）を本機に取り付ける

取り付け金具とネジは、専用ステレオスピーカー（オプション）に付属されているものをご使用ください。
詳しい取り付け方法は、専用ステレオスピーカー（オプション）に付属しているセットアップガイドをご覧ください。

2 スピーカーケーブルで本機のスピーカー出力コネクターとスピーカーを接続する

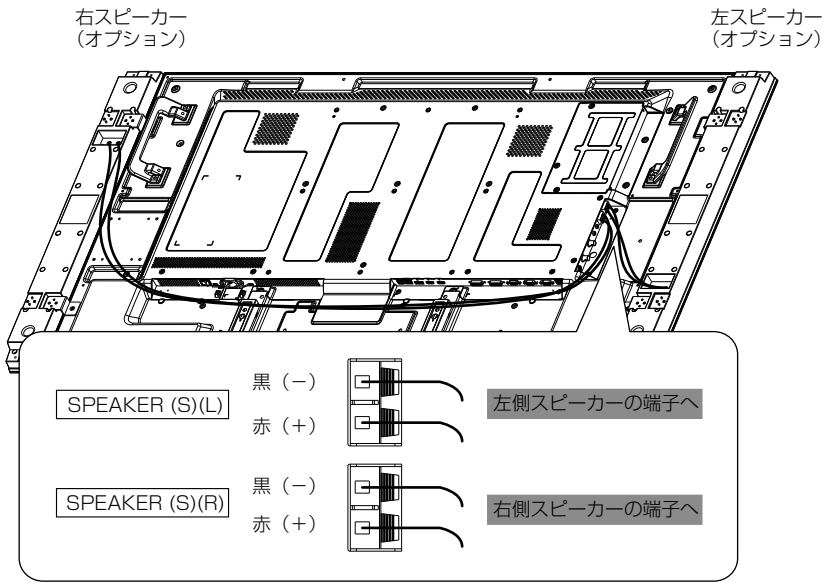
左側スピーカーケーブルは、本機の SPEAKER（S)(L）へ、右側スピーカーケーブルは、本機の SPEAKER（S)(R）へ差し込んでください。

お 願 い

スピーカーケーブルとコネクターの極性（＋(赤)／－(黒)）を合わせて接続してください。
極性が合わないと、音声が正常に聞こえない場合があります。

お知らせ

内蔵スピーカーから専用ステレオスピーカー（オプション）への切り換えは、電源を入れてからの設定になります。
使用方法のページ → P44 をご覧ください。



⚠警告

スピーカーを持って本機を移動しないでください。
落下したとき、けがの原因になります。

[準備 4] 外部機器を接続する

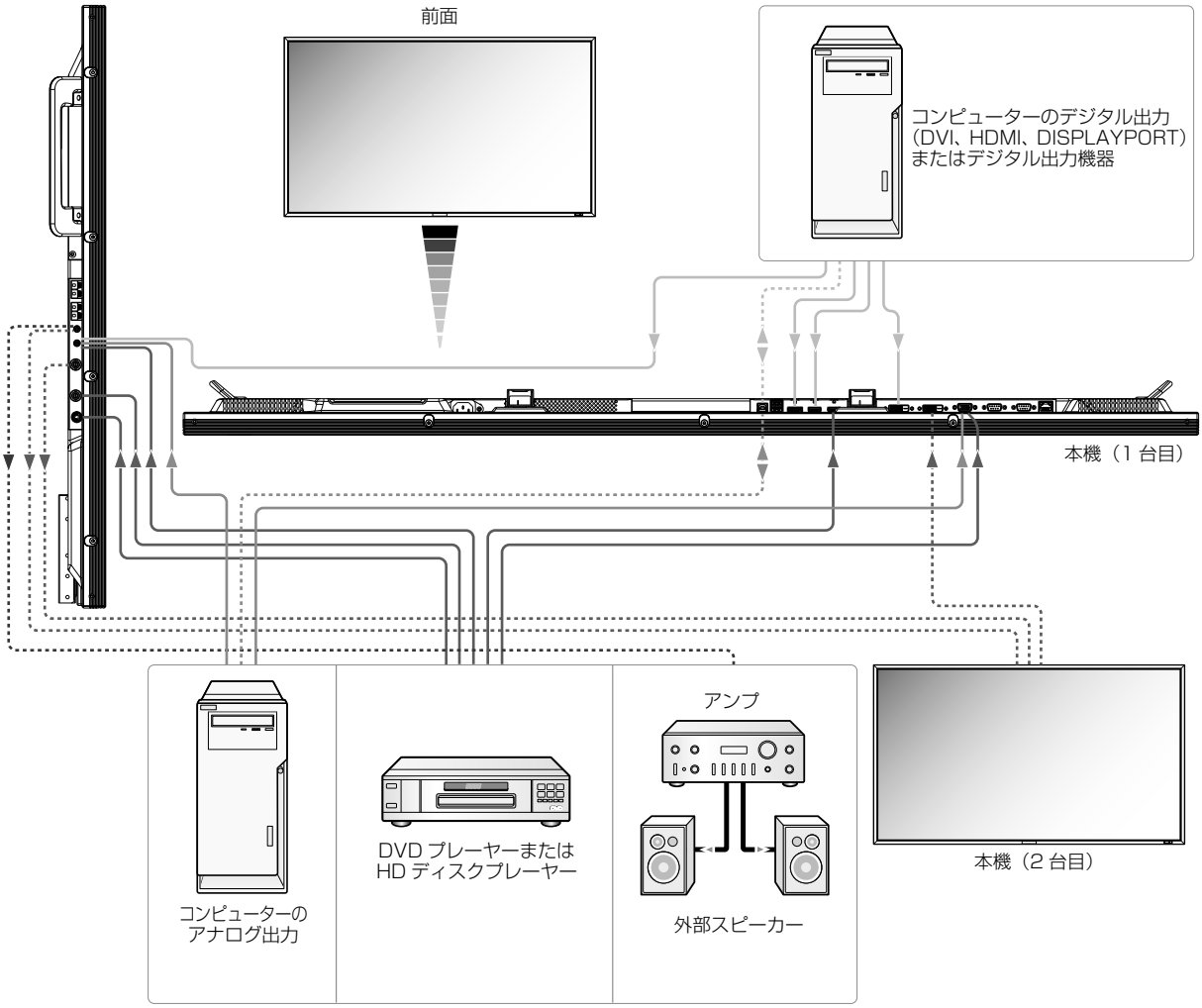
接続する前に

- 本機・コンピューターおよび周辺機器の電源は切ってください。
- それぞれの機器の取扱説明書を参照ください。

お知らせ

接続するオーディオ機器やコンピューターの音声出力端子の形状がステレオミニジャックの場合は、抵抗なしのオーディオケーブルをご使用ください。抵抗入りのオーディオケーブルを使用した場合、音量が大きくならなかったり、音声が出ない場合があります。

簡単接続図



HDMI ケーブルの脱落防止

HDMI ケーブルを本機のコネクターに接続するときは、不用意に抜けないようにするために、付属のクランパーで固定することを推奨します。

1 本機のコネクターに HDMI ケーブルを接続する

2 クランパー（付属）と結束バンド（付属）で HDMI ケーブルを固定する

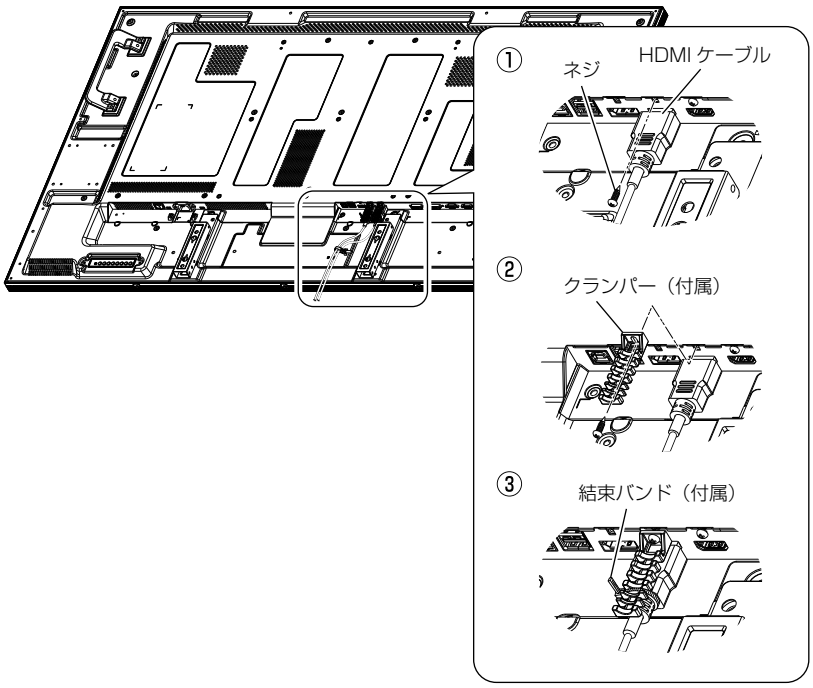
① 本機のネジ（1 本）を取り外します。

② ①で取り外したネジ（1 本）で、本機にクランパーを取り付けます。

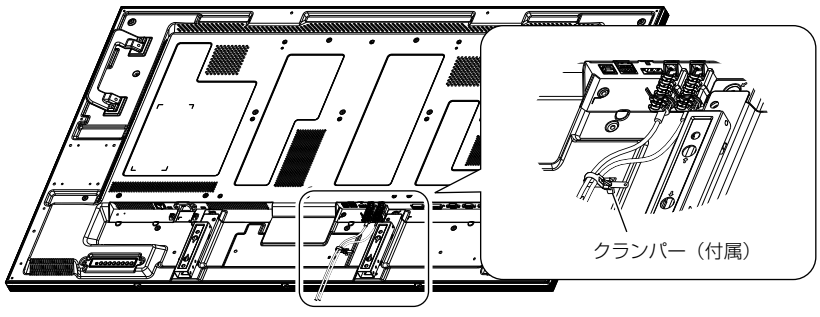
③ 結束バンド（1 本）で、HDMI ケーブルとクランパーを固定します。

お知らせ

結束バンドは、一度使用したら再利用できません。予備で 2 本は付属しております。
この結束バンドを再度取り付ける場合は、使用した結束バンドを切って外し、同一形状の結束バンド（市販、幅 2.5 mm×長さ 約 100 mm）を取り付けてください。



3 クランパー（付属）で HDMI ケーブルを固定する



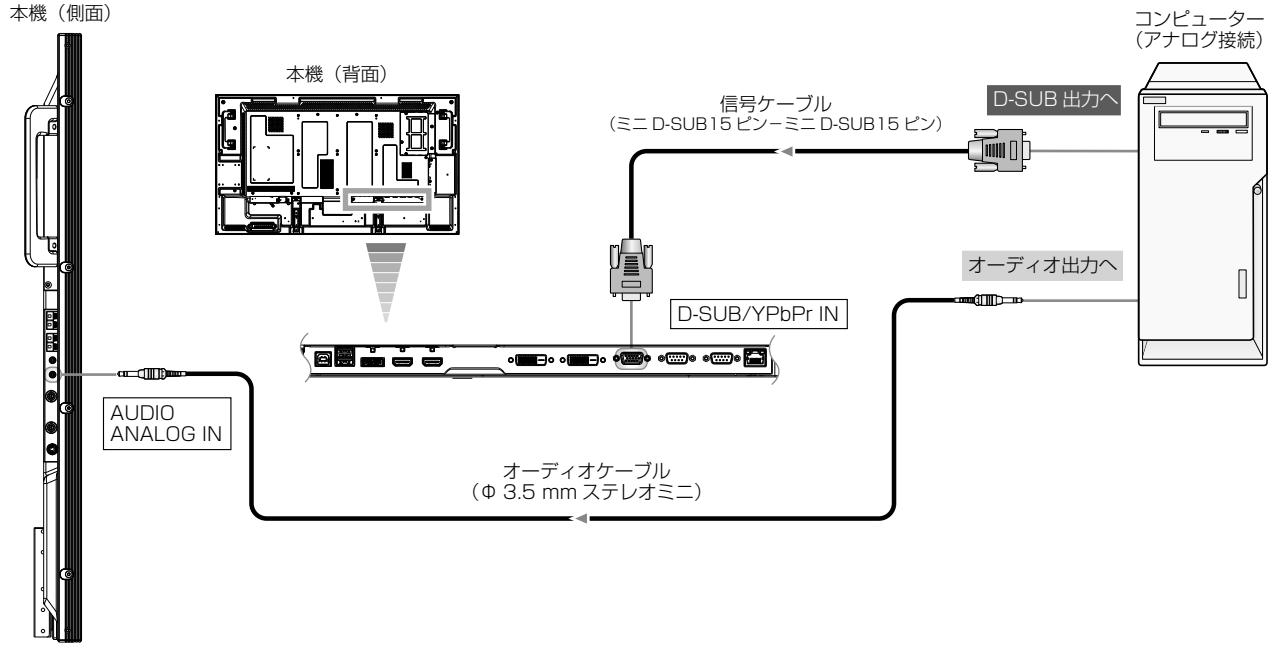
コンピューターを接続する（アナログ接続）

アナログ接続するとき

● 信号ケーブル（ミニ D-SUB15 ピン−ミニ D-SUB15 ピン）（付属品）で D-SUB/YPbPr IN コネクターに接続します。
本体の INPUT ボタンまたはリモコンの D-SUB ボタンで [D-SUB] を選択します。選択した時点で、音声は自動的に [ANALOG] になります。

オーディオ接続するとき

● オーディオケーブル（φ 3.5 mm ステレオミニ）（市販）で AUDIO ANALOG IN コネクターに接続します。
[D-SUB] 選択時に音声は自動的に [ANALOG] になっていますので、ケーブル接続のみで音声が出力されます。



本機は、下の表に示す種類のタイミングについて自動判別をおこない画面情報を設定します。したがって、コンピューターなどに接続すると自動的に適切な画面を表示します。

<工場プリセットタイミング>

	解像度	走査周波数		備　考		解像度	走査周波数		備　考
		水平	垂直				水平	垂直	
1	640 × 480	31.5 kHz	60 Hz		9	1280 × 1024	64.0 kHz	60 Hz	
2	800 × 600	37.9 kHz	60 Hz		10	1400 × 1050	65.3 kHz	60 Hz	
3	1024 × 768	48.4 kHz	60 Hz		11	1680 × 1050	64.7 kHz	60 Hz	
4	1280 × 720	45.0 kHz	60 Hz		12	1600 × 1200	75.0 kHz	60 Hz	
5	1280 × 768	47.8 kHz	60 Hz		13	1920 × 1080	56.2 kHz	50 Hz	
6	1280 × 800	49.7 kHz	60 Hz		14	1920 × 1080	67.5 kHz	60 Hz	推奨信号タイミング
7	1360 × 768	47.7 kHz	60 Hz		15	1920 × 1200	74.0 kHz	60 Hz	CVT Reduced Blanking
8	1440 × 900	55.9 kHz	60 Hz						

お知らせ

解像度 1920 × 1080 以外の信号を入力した場合は、文字がにじんだり図形が歪んだりすることがあります。
ビデオカードまたはドライバーによっては映像を正しく表示できない場合があります。

コンピューターを接続する（デジタル接続）

デジタル接続するとき

- HDMI IN コネクターを使用するとき
  HDMI ケーブル（市販）で HDMI1 IN または HDMI2 IN コネクターに接続します。
  本体の INPUT ボタンまたはリモコンの HDMI1 あるいは HDMI2 ボタンを押して、接続したコネクターにあわせて [HDMI1] または [HDMI2] を選択します。
- DVI-D IN コネクターを使用するとき
  DVI-D ケーブル（市販）で DVI-D IN コネクターに接続します。
  本体の INPUT ボタンまたはリモコンの DVI-D ボタンで [DVI-D] を選択します。
- DISPLAYPORT IN コネクターを使用するとき
  DisplayPort ケーブル（市販）で DISPLAYPORT IN コネクターに接続します。
  本体の INPUT ボタンまたはリモコンの DISPLAYPORT ボタンで [DISPLAYPORT] を選択します。

2 台目のディスプレイを接続するとき

- DVI-D ケーブル（市販）で 1 台目の DVI-D OUT コネクターと 2 台目の DVI-D IN コネクターを接続します。

お知らせ

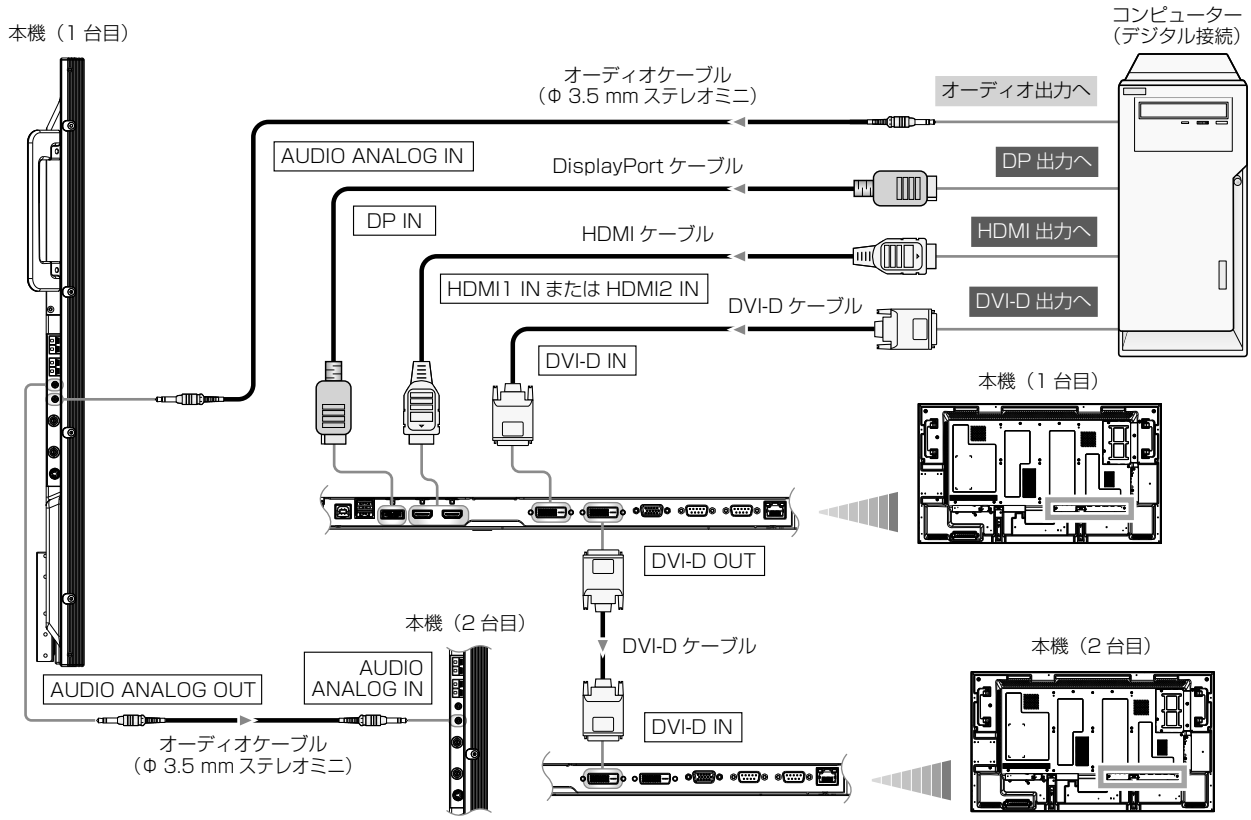
- デイジーチェーン接続をおこなう場合の最大接続可能数は、4 台（2 m ケーブル使用時）となります。
  ただし、接続可能な台数が制限を受ける場合がありますので、設置環境での事前検証を推奨します。
- DVI-D でデイジーチェーン接続をおこなう場合は、OSD 機能の「詳細設定 1」のパワーセーブで、RGB の設定をオフにして使用してください。

オーディオ接続するとき

- オーディオケーブル（φ 3.5 mm ステレオミニ）（市販）で AUDIO ANALOG IN コネクターに接続します。
  HDMI ケーブル接続時は、本体の INPUT ボタンまたはリモコンの HDMI1 あるいは HDMI2 ボタンを押して、接続したコネクターにあわせて [HDMI1] または [HDMI2] を選択します。このとき、HDMI1、HDMI2 または ANALOG の音声を選択できます。（HDMI の音声は、映像入力が [HDMI1] または [HDMI2] のときのみ選択できます。選択された入力の音声のみが出力され、表示は HDMI となります。）
  DVI-D ケーブル接続時は、本体の INPUT ボタンまたはリモコンの DVI-D ボタンで [DVI-D] を選択します。選択した時点で、音声は自動的に [ANALOG] になります。
  DisplayPort ケーブル接続時は、本体の INPUT ボタンまたはリモコンの DISPLAYPORT ボタンで [DISPLAYPORT] を選択します。このとき、DISPLAYPORT または ANALOG の音声を選択できます。
- 2 台目のディスプレイに音声を出力するときは、オーディオケーブル（φ3.5 mm ステレオミニ）（市販）で 1 台目の AUDIO ANALOG OUT コネクターと 2 台目の AUDIO ANALOG IN コネクターに接続します。
  1 台目にて、HDMI や DISPLAYPORT が選択されている場合も、選択されている音声が AUDIO ANALOG OUT から出力されます。

お知らせ

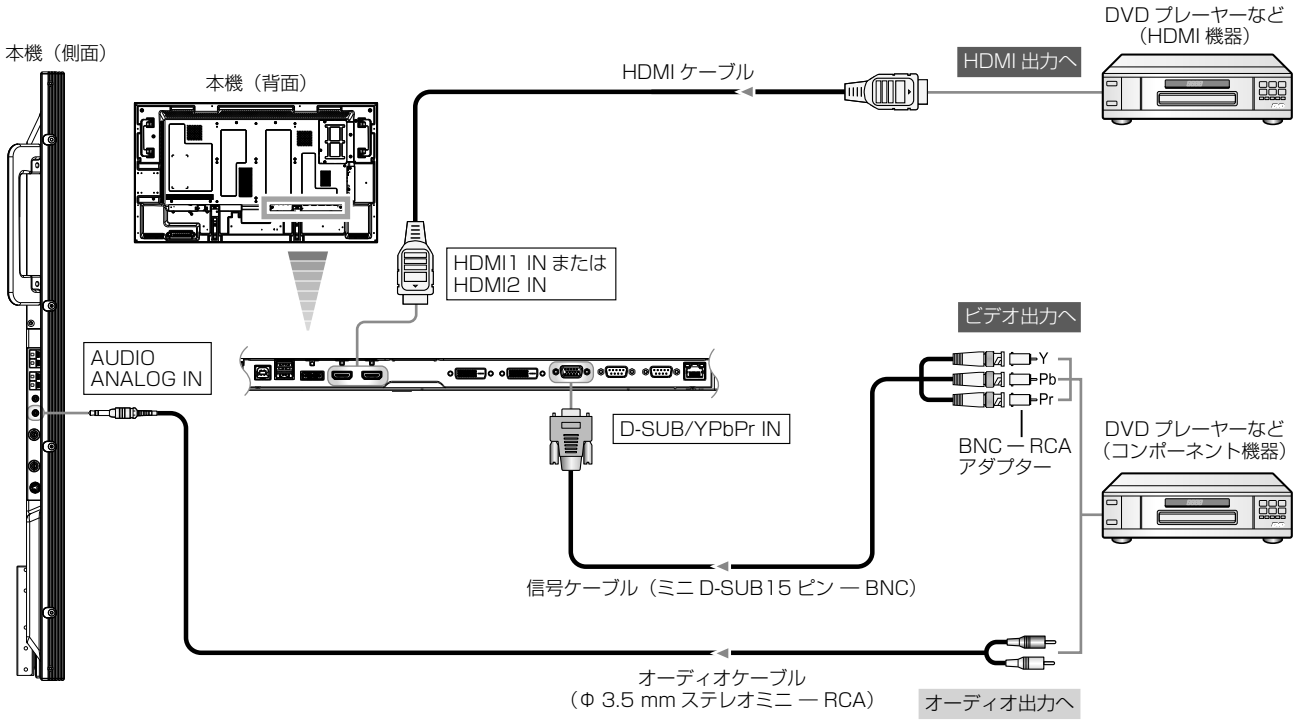
- HDMI ケーブルや DisplayPort ケーブル接続時の音声入力切換については、「音声入力切換」→ P64 を参照ください。



ビデオ機器（コンポーネントビデオ／ HDMI 機器）を接続する

本機は、コンポーネント出力付き DVD プレーヤーなどと接続して使用することができます。
詳しくは、DVD プレーヤーなどの取扱説明書を参照ください。（下図に示すケーブルは市販です。）

- コンポーネント出力付き DVD プレーヤーなどを本機の D-SUB/YPbPr IN コネクターに接続する場合は、信号ケーブル（ミニ D-SUB15 ピン ー BNC）と BNC ー RCA アダプター（市販）を使います。
  本体の INPUT ボタンまたはリモコンの YPbPr ボタンで [YPbPr] を選択してください。選択した時点で、音声は自動的に [ANALOG] になります。
- オーディオ接続するときは、オーディオケーブル（φ3.5 mm ステレオミニー RCA）で AUDIO ANALOG IN コネクターに接続します。
  [YPbPr] 選択時に音声は自動的に [ANALOG] になっていますので、ケーブル接続のみで音声が出力されます。
- HDMI 出力付き DVD プレーヤーなどを本機の HDMI1 IN または HDMI2 IN コネクターに接続する場合は、HDMI ケーブルを使います。
  本体の INPUT ボタンまたはリモコンの HDMI1 あるいは HDMI2 ボタンを押して、接続したコネクターにあわせて [HDMI1] または [HDMI2] を選択します。
- HDMI ケーブル接続時は、HDMI1、HDMI2 または ANALOG の音声を選択できます。
  （HDMI の音声は、映像入力が [HDMI1] または [HDMI2] のときのみ選択できます。）



ビデオ機器（コンポジットビデオ／ S ビデオ機器）／ステレオアンプを接続する

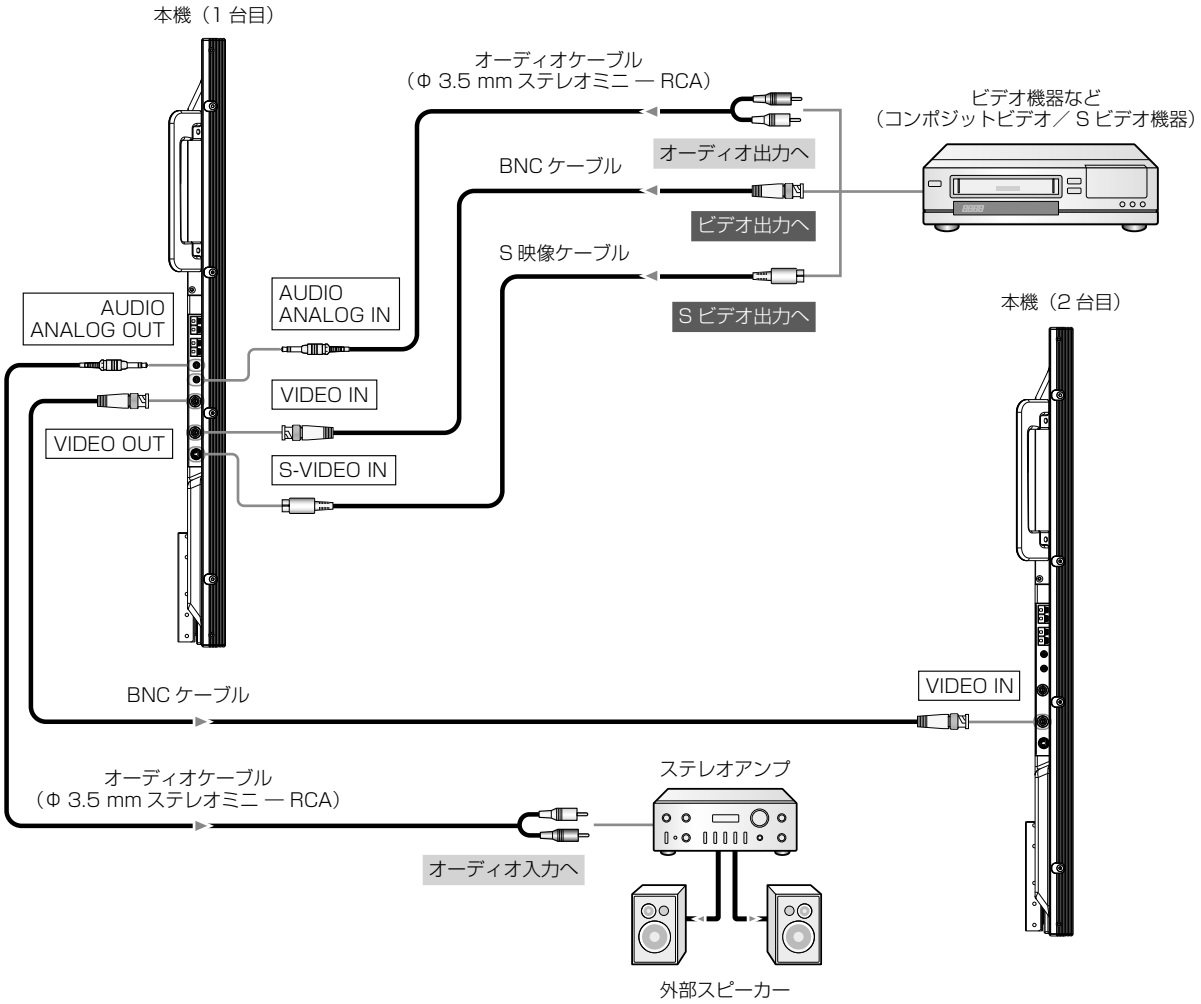
本機は、コンポジットビデオや S ビデオ機器、ステレオアンプを接続して使用することができます。
詳しくは、コンポジットビデオや S ビデオ機器、ステレオアンプの取扱説明書を参照ください。（下図に示すケーブルは市販です。）

- ビデオ機器を本機の VIDEO IN コネクター（VIDEO IN または S-VIDEO IN）に接続する場合は、BNC ケーブルまたは S 映像ケーブルを使います。オーディオケーブル（φ3.5 mm ステレオミニ ― RCA）を使って、本機の AUDIO ANALOG IN コネクターに接続します。オーディオケーブル（RCA）の左右を正しく接続してください。VIDEO IN に接続した場合は、本体の INPUT ボタンまたはリモコンの VIDEO ボタンで [VIDEO] を選択してください。S-VIDEO IN に接続した場合は、本体の INPUT ボタンまたはリモコンの S-VIDEO ボタンで [S-VIDEO] を選択してください。
- 2 台目のディスプレイを接続する場合は、1 台目の本機の VIDEO OUT コネクターと 2 台目の本機の VIDEO IN コネクターを BNC ケーブルで接続します。

お知らせ

- デイジーチェーン接続をおこなう場合の最大接続可能数は、5 台（5 m ケーブル使用時）となります。
  ただし、接続機器によっては接続可能な台数が制限を受ける場合がありますので、設置環境での事前検証を推奨します。
- アナログ信号を使用してデイジーチェーン接続する場合は、後段にて輝度低下やシャープネスの劣化などの画質劣化が発生します。
- マルチスクリーン表示など、ディスプレイ間の色あいを合わせる必要がある場合には、信号分配器（市販）のご使用を推奨します。

- ステレオアンプを本機に接続する場合は、ステレオアンプの電源を必ず切にしてください。オーディオケーブル（φ3.5 mm ステレオミニ ― RCA）を使って、本機の AUDIO ANALOG OUT コネクターに接続します。オーディオケーブル（RCA）の左右を正しく接続してください。必ず本機の電源を入れた後に、ステレオアンプの電源を入にしてください。
- 入力切換で選択されたオーディオ入力の信号が、AUDIO ANALOG OUT コネクター（ →P14 ⑫）より出力されます。



[準備 5] 拡張モジュールを取り付ける

[必要に応じて]

拡張モジュールを取り付ける

拡張モジュールの説明書に記載されている注意と手順にしたがって、本機のオプションスロットへ取り付けてください。

対応する拡張モジュール例：

・SDI 受信 BOX（DP-1SDI-3G）
・OPS 対応コンピューター（市販）
推奨コンピューター（市販）：
アドバンテック社 ARK-DS220F-MTSA1E

お 願 い

各モジュールの対応状況は、使用するモジュールのメーカーにお問い合わせください。

【ミニ解説】

Intel® OPS（Open Pluggable Specification）は、Intel® 社が提唱する、デジタルサイネージ向けディスプレイに装着するプラガブルモジュール（Pluggable Module）とディスプレイのインターフェースに関する規格です。

サポートしている OPS 対応機能：

・DVI-D　・電源制御
・UART　・USB
・デジタル音声　・アナログ音声
・DDC

お知らせ

オプションスロットに拡張モジュールを装着した場合は、OSD 機能の「詳細設定 1」のパワーセーブを「オン」に設定しても、本機はスリープモードになりません。他の映像入力に切り換えても、スリープモードになりません。

→ P39、P58

SDI で長距離接続や複数接続をする

1 SDI 受信 BOX をディスプレイへ取り付ける

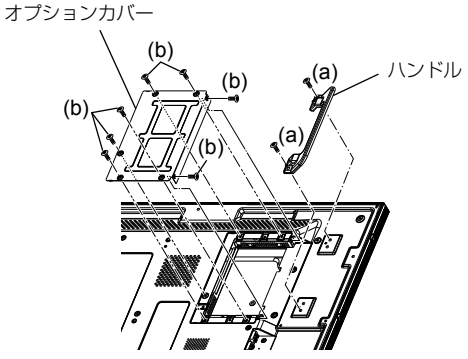
1. ディスプレイの主電源スイッチを切り、電源コードを抜きます。

⚠警告

必ず、電源コードを抜いてください。故障や感電の原因になることがあります。

2. ネジ 2 本（a）を取り外して、ハンドルを取り外します。

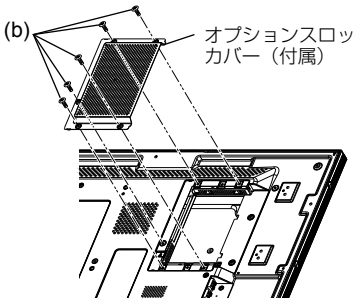
ネジ 7 本（b）を取り外して、オプションカバーを取り外します。



お 願 い

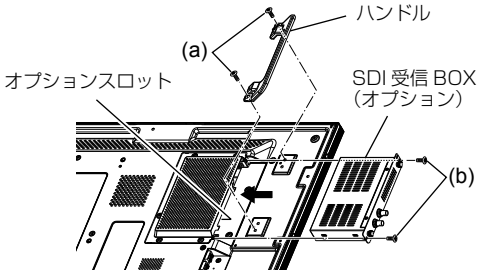
取り外したオプションカバーは、SDI 受信 BOX を使用しないときに再度取り付けますので、大切に保管してください。

3. 手順 2 で取り外したネジ 5 本（b）で、オプションスロット用カバー（付属）を取り付けます。



4. SDI 受信 BOX（オプション）をオプションスロットに挿入し、手順 2 で取り外したネジ 2 本（b）で本機に取り付けます。

手順 2 で取り外したネジ 2 本（a）で、ハンドルを取り付けます。



お 願 い

オプションスロット用カバーを取り付けた後、SDI 受信 BOX の位置や向きを十分に確認して、最後まで挿入してください。位置や向きを間違えると、機器が破損する恐れがあります。

2 SDI で接続する

接続方法には、主に 2 つの方法があります。

1）1 台のディスプレイと接続する場合

1. 映像機器と SDI 受信 BOX（オプション）を SDI ケーブル（BNC）（市販）で接続します。

お知らせ

SDI 信号にも使用可能な高性能の BNC ケーブルを SDI ケーブルと呼び、他の BNC ケーブルと区別しています。

2）複数のディスプレイと接続する場合

1. *2-*1）の接続の追加で、市販の SDI ケーブル（BNC）を使用して、1 台目の SDI 出力コネクターと 2 台目の SDI 入力コネクターを接続します。

お知らせ

接続できるケーブルの長さ（SDI 受信 BOX（DP-1SDI-3G）装着時）は、以下のとおりです。

● 1 台の場合：100 m（3G-SDI）*
*当社推奨ケーブルを用いた実測結果に基づきます。
（推奨ケーブル：Belden 社 1694A）

お知らせ

SDI 受信 BOX の接続方法と仕様は、SDI 受信 BOX のカタログや取扱説明書をご覧ください。

SDI 受信 BOX の取り外し方

SDI 受信 BOX は、SDI 受信 BOX のハンドルを持って取り外します。

⚠注意

SDI ケーブル（BNC）を引っ張って取り外すと、SDI ケーブル（BNC）や SDI 受信 BOX が破損または故障する恐れがあります。

OPS 対応コンピューターを装着する

すべての OPS 対応コンピューターの動作を保証するものではありません。

推奨コンピューター（市販）：
　アドバンテック社 ARK-DS220F-MTSA1E

お 願 い

OPS 対応コンピューター装着時は、冷却ファンをオンにしてください。→ P58

1 OPS 対応コンピューターをディスプレイへ取り付ける

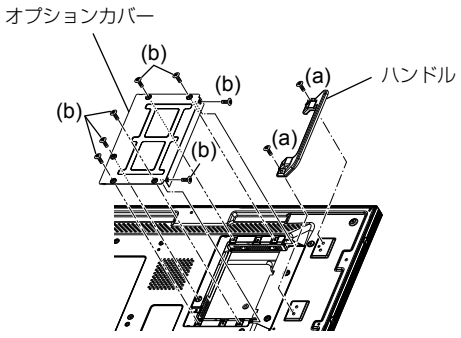
1. ディスプレイの主電源スイッチを切り、電源コードを抜きます。

   ### ⚠警告

   必ず、電源コードを抜いてください。故障や感電の原因になることがあります。

2. ネジ 2 本（a）を取り外して、ハンドルを取り外します。

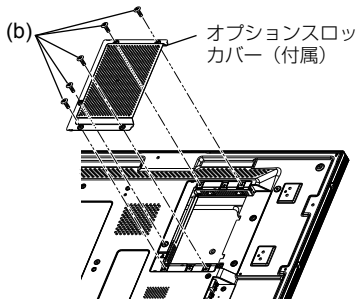
   ネジ 7 本（b）を取り外して、オプションカバーを取り外します。



お 願 い

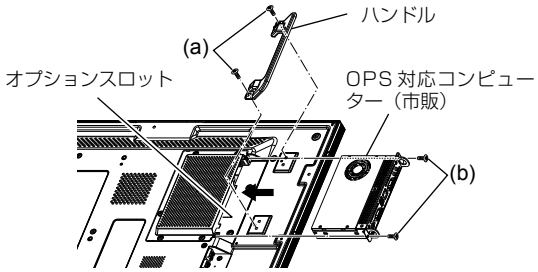
取り外したオプションカバーは、OPS 対応コンピューターを使用しないときに再度取り付けますので、大切に保管してください。

3. 手順 2 で取り外したネジ 5 本（b）で、オプションスロット用カバー（付属）を取り付けます。



4. OPS 対応コンピューター（市販）をオプションスロットに挿入し、手順 2 で取り外したネジ 2 本（b）で本機に取り付けます。

   手順 2 で取り外したネジ 2 本（a）で、ハンドルを取り付けます。



お 願 い

オプションスロット用カバーを取り付けた後、OPS 対応コンピューターの位置や向きを十分に確認して、最後まで挿入してください。位置や向きを間違えると、機器が破損する恐れがあります。

OPS 対応コンピューターの取り外し方

OPS 対応コンピューターは、OPS 対応コンピューターのハンドルを持って取り外します。

⚠注意

OPS 対応コンピューターに接続されたケーブルを引っ張って取り外すと、ケーブルや OPS 対応コンピューターが破損または故障する恐れがあります。

[準備 6] RS-232C を接続する

[必要に応じて]

RS-232C を接続する

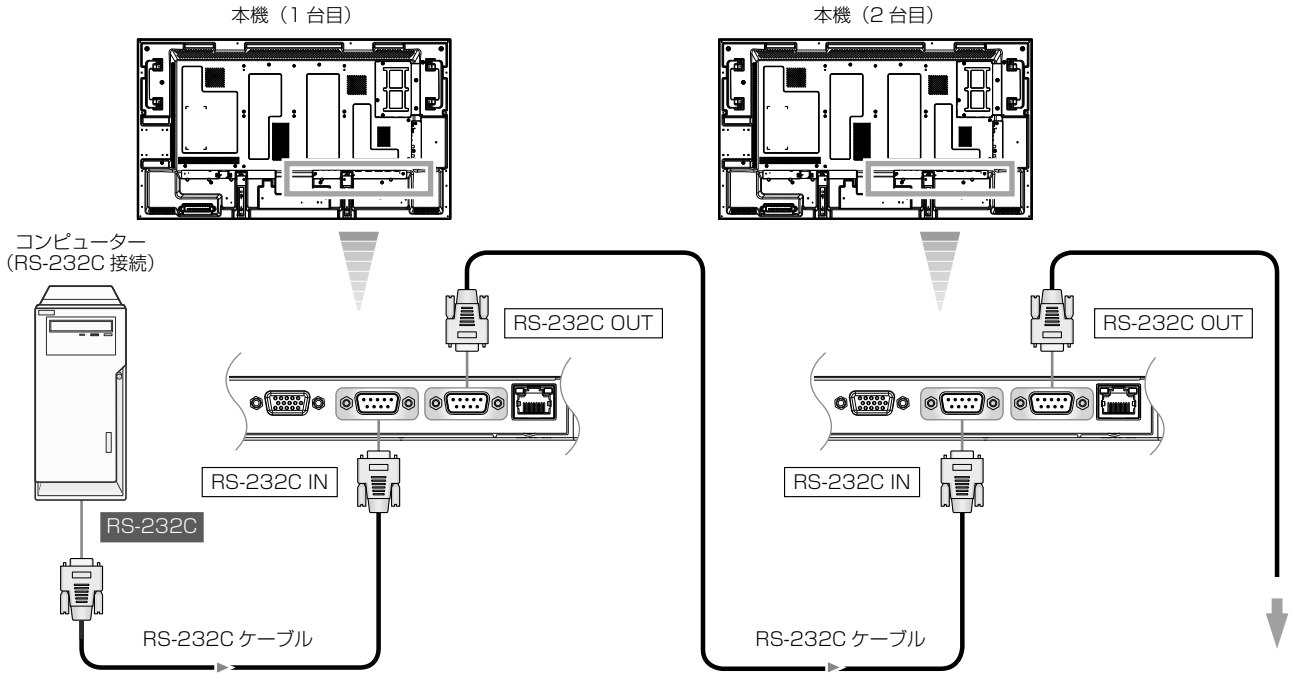
本機をコンピューターから通信制御するために、本機とコンピューターを RS-232C ケーブル（市販）で接続します。

接続方法

- コンピューターと本機の主電源スイッチを切ってください。電源を入れたまま作業すると、各機器の故障の原因になります。
- コンピューターと本機を、リバースタイプの RS-232C ケーブル (市販) で接続します。
- 更に、下図のように、本機を 2 台以上用いる場合、まず、1 台目の本機の RS-232C OUT コネクターと 2 台目の本機の RS-232C IN コネクターを、リバースタイプの RS-232C ケーブル (市販) で接続します。順次同じように接続して、デイジーチェーン接続できます。

お知らせ

- ディスプレイは最大 26 台まで接続可能ですが、設置環境によっては制限を受ける場合があります。



お知らせ

コンピューターのシリアル通信ポートが 25 ピンシリアルポートのみの場合には、接続するために変換アダプター（市販）が必要です。

[準備 7] LAN を接続する

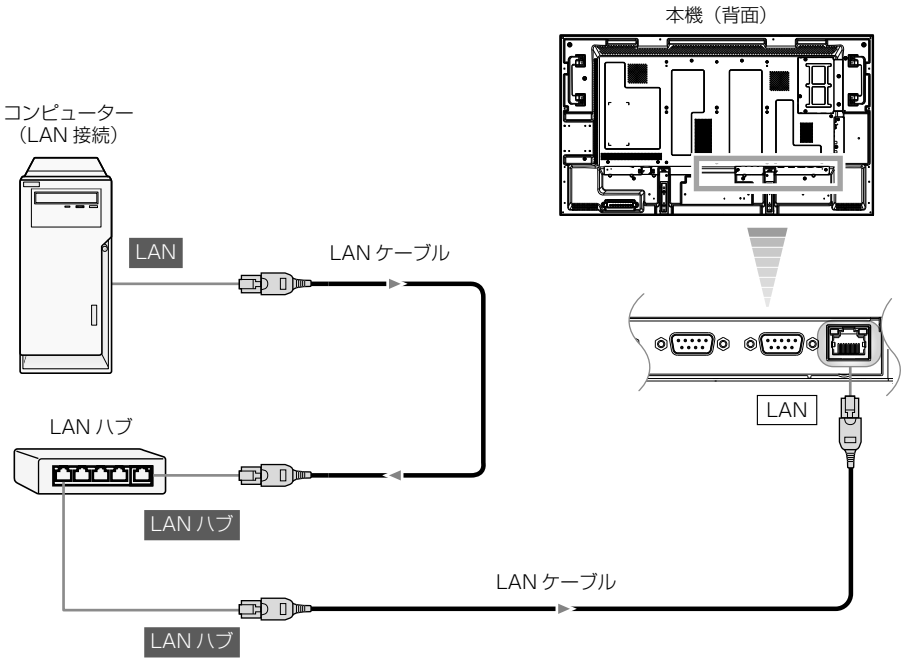
[必要に応じて]

LAN を接続する

下図のように、LAN ハブを経由して、本機とコンピューターをネットワーク接続できます。本機と LAN ハブはストレートタイプの LAN ケーブル（市販）で接続します。

接続方法

- コンピューターと本機の主電源スイッチを切ってください。電源を入れたまま作業すると、各機器の故障の原因になります。
- コンピューターと LAN ハブを、ストレートタイプの LAN ケーブル（市販）で接続します。
- 本機と LAN ハブを、ストレートタイプの LAN ケーブル（市販）で接続します。
- 本機を 2 台以上用いる場合、上記同様に本機と LAN ハブをストレートタイプの LAN ケーブル（市販）で接続します。



お知らせ

- クロスタイプの LAN ケーブル (市販) を用いると、LAN ハブを介さずに本機とコンピューターを 1 対 1 で接続できますが、コンピューターが対応していない場合があります。事前に動作確認されることを推奨します。
- LAN を介した映像伝送機能には対応していません。他のディスプレイを制御するホスト機能はありません。

[準備 8] USB 機器を接続する

[必要に応じて]

USB ハブ機能で複数の USB 機器を接続する

本機の USB ハブには、アップストリームポートが 2 個搭載されています。1 個は外部機器のコンピューターに接続します。もう 1 個は、内部で OPS 対応コンピューターに接続されます。2 個のアップストリームポートのうち、選択した 1 個のアップストリームポートがダウンストリームポートに接続されます。使用するアップストリームポートは、OSD 機能で選択します。
→ P51、P62

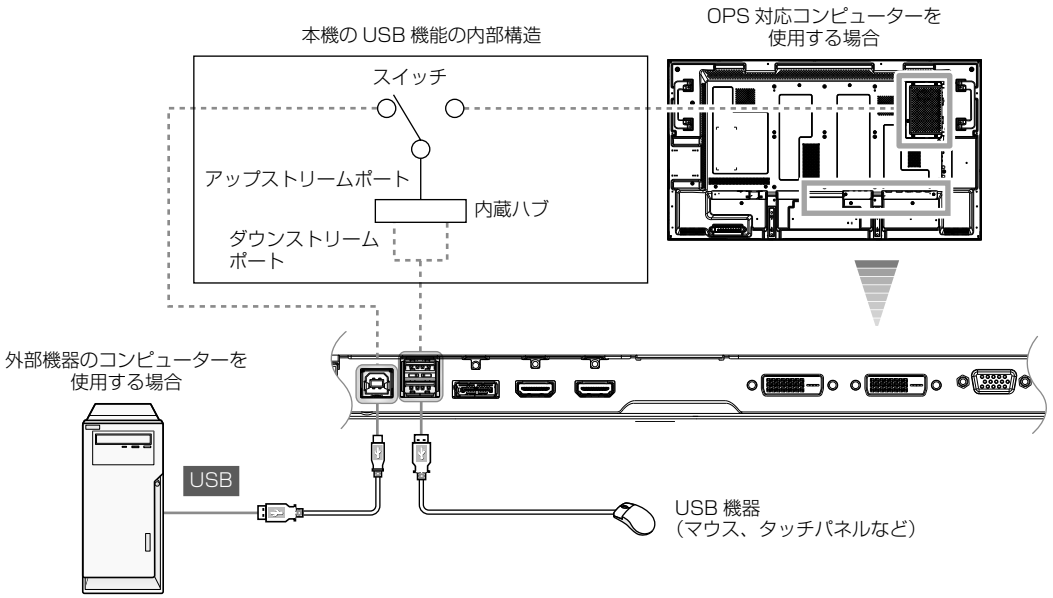
1 【外部機器のコンピューターを使用する場合】

コンピューターの USB ポート（標準 A）と本機の USB アップストリームポート（標準 B）を USB ケーブル（市販）で接続する

【OPS 対応コンピューターを使用する場合】

OPS 対応コンピューターを装着する（内部で接続されます。）

2 USB 機器を本機のダウンストリームポートに接続する



お知らせ

- USB ハブ機能では本機を制御できません。
- 本機のハブ機能の多段接続は 5 台までです。USB 規格に準じた装置を接続される場合も、事前に動作確認をしてください。

[準備 9] 電源コードを本機に接続する

電源を接続する

お 願 い

- コンピューター本体の電源コンセントに接続するときは、電源容量を確認してください。（1.8 A 以上必要です。）
- 電源コードは本体に接続してから電源コンセントに差し込んでください。
- 電源コードの抜き差しは短時間に繰り返さないでください。

1 主電源スイッチが「切」（○）の状態になっていることを確認する

⚠注意

OPS 対応コンピューターを装着している場合、本機の主電源スイッチが「入」（ I ）になっていると、電源の接続によってコンピューターの電源が起動することがあるため、OS やハードディスクなどが破損または故障する恐れがあります。

2 電源コードの電源コネクター側を、本機の電源入力コネクターに差し込む

奥までしっかりと差し込んでください。

3 ケーブルホルダー（付属）で電源コネクターを固定する

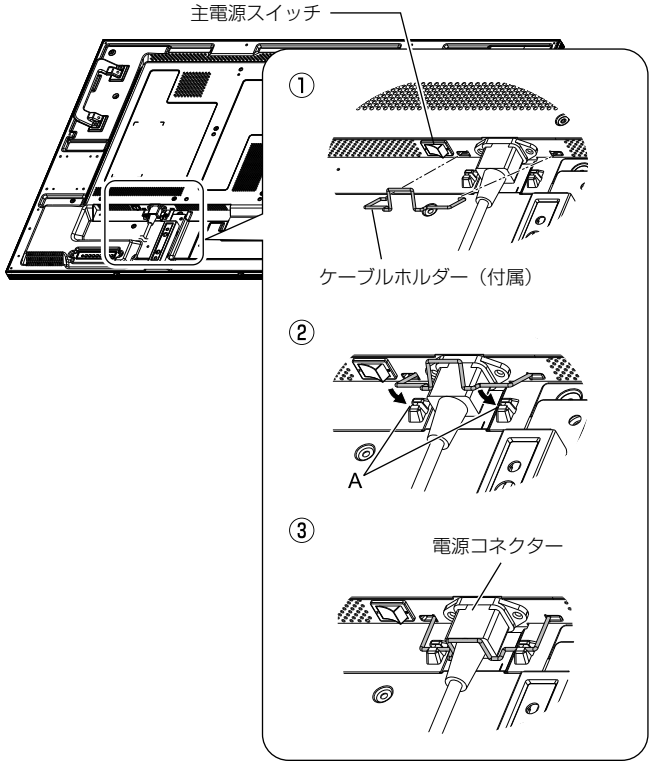
⚠注意

ケーブルホルダーは、電源コンセントなどに差し込まないでください。感電の原因になります。

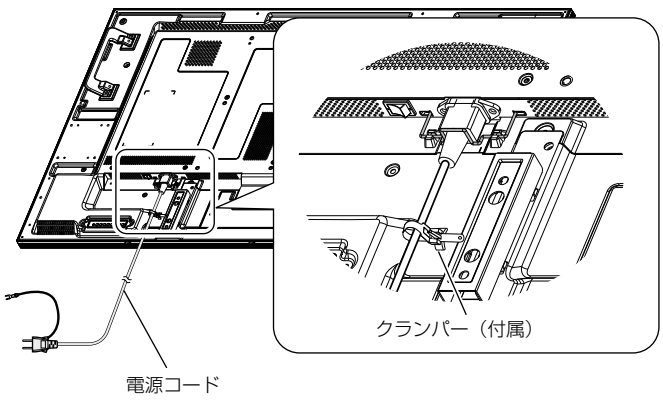
① ケーブルホルダーの両端を本機に取り付けます。

② ケーブルホルダーを A 部で固定します。

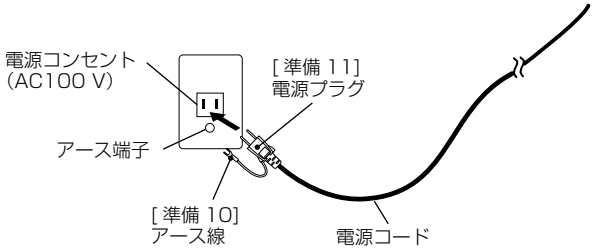
③ ケーブルホルダーで電源コネクターを固定します。



4 クランパー（付属）で電源コードを固定する



[準備 10] 電源プラグのアース線を接続する
[準備 11] 電源プラグを AC100 V 電源コンセントに接続する



お 願 い

● 電源コンセントの周辺は、電源プラグの抜き差しが容易なようにしておいてください。

⚠警告

● **表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**
● **本機には一般の電源コンセント（AC100 V）でお使いいただくための電源コードを付属しております。**
AC100 V 以外（最大 AC240 V）でご使用の際には、お使いになる電圧に適した電源コードをご準備の上お使いください。
● **本機に付属している電源コードは本機専用です。安全のため、他の機器には使用しないでください。**
● **電源プラグのアース線は必ず電源コンセントのアース端子などへ接続してください。**
なお、アース線をアース端子から外す場合は、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いてからおこなってください。
また、電源プラグのアース線は電源コンセントに挿入または接触させないでください。火災・感電の原因になります。
● **電源コンセントの近くにアース端子がないときは、専門の資格を持つ電気工事事業者へ工事を依頼してください。アース線をガス管に接続すると爆発したり、水道管に接続すると十分アースされずに感電したりするなどの事故が発生する恐れがあります。**

使用方法

使用方法の流れ

[使用 1] すべての機器の電源を「入」にする → P38

↓

[使用 2] 映像入力を選択する → P40
リモコンまたは本体の入力切換ボタン（INPUT）で、表示したい映像入力を選択します。

↓

[使用 3] 外部機器を操作する → P41
接続した外部機器の映像を画面に映します。

↓

[使用 4] 言語を選択する → P41
OSD 機能の「詳細設定 1」の言語選択で、使用する言語を選択します。

↓ D-SUB 入力の場合のみ。

[使用 5] オートセットアップをする → P42
リモコンのオートセットアップボタンを押すか OSD 機能を使って、画面サイズ、水平／垂直位置、クロック、クロック位相、ホワイトレベル、ブラックレベルを適切に自動調節します。

↓

[使用 6] ピクチャーモードを選択する → P43
リモコンの PICTURE MODE ボタンで、表示したい映像に適切なピクチャーモードを選択します。

↓

[使用 7] 画面を調節する → P43
OSD 機能を使って、画面位置や文字のにじみがないように調節します。

↓

[使用 8] 映像を調節する → P44
OSD 機能を使って、ブライトネスやコントラストを調節します。

必要に応じて

[使用 9] スピーカーを選択する → P44
内蔵スピーカーまたは外部の専用ステレオスピーカー（オプション）を選択します。

[使用 10] 音量、バランスや音質を調節する → P45
リモコンまたは OSD 機能を使って音量、バランスや音質を調節します。

[使用 11] スケジュールを設定する → P46
OSD 機能を使って、ディスプレイの電源の入／切や入力切換の時刻設定をします。

[使用 12] 通信制御をする → P48
RS-232C や LAN で接続したコンピューター、または OPS 対応コンピューター（市販）で、電源の入／切や映像入力の切り換えを操作します。

[使用 13] USB ハブを設定する → P51
外部機器のコンピューターまたは OPS 対応コンピューターを選択します。

[使用 1] すべての機器の電源を「入」にする

外部機器の電源を入れる

1 接続しているコンピューターや DVD プレーヤーなどの電源スイッチを「入」にする

本機の電源を入れる

⚠注意

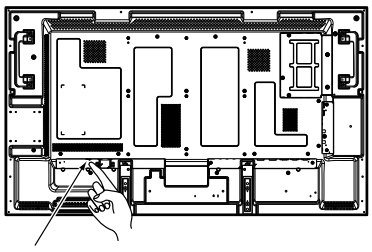
装着した拡張モジュールが OPS 対応コンピューターの場合は、本機の電源を入れるとコンピューターの電源が自動的に入り、起動します。
本機の電源を入れた後は、すぐに電源を切らないでください。コンピューターが起動中の場合があります。映像入力を［OPTION］に切り換えて、コンピューターの OS が起動するまでお待ちください。

お知らせ

一定時間内（1 分程度）にコンピューターが起動しない場合、「OPERATION ERROR」とエラーメッセージが表示されます。コンピューターの取扱説明書を参照ください。
→P70

2 主電源スイッチを「入」（ I ）にする

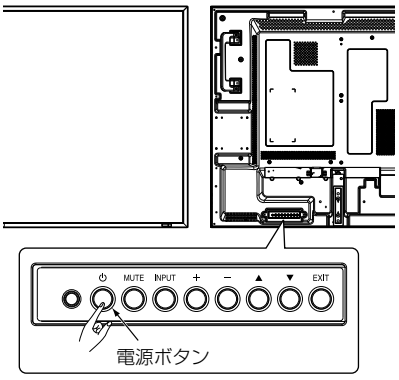
電源ランプ（ →P13 ）が緑色に点灯し、電源が入ります。
本体背面の操作ボタンやリモコン、スケジュールの設定は、主電源スイッチが「切」（○）のとき（電源ランプが消灯）は機能しません。
主電源スイッチが「入」（ I ）になっていること（電源ランプが点灯）を確認してから操作してください。



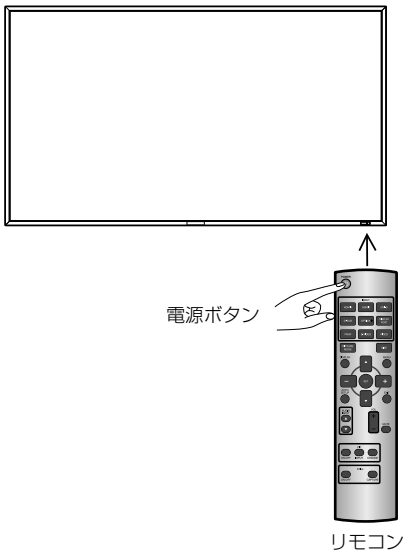
主電源スイッチ

3 電源ランプが赤色点灯のときは、本機の電源ボタン（⏻）を押す

電源ランプが緑色に点灯します。



または



お 願 い

リモコンの電源ボタン、本体の電源ボタンや通信コマンドで電源を切った後、2 秒以内は主電源スイッチを切ったり、電源コードを抜いたり、ブレーカーを落としたりしないでください。電源「切」の操作直後に AC 電源が切られると、次に電源を入れたときに言語選択を含めすべての OSD 設定が工場設定の状態に戻る恐れがあります。
上記の操作で工場設定の状態に戻ったときは、以下の手順で OSD を再設定してください。

1. リモコンなどで本機の電源を「切（オフモード）」にする
2. 2 秒以上待つ
3. リモコンなどで本機の電源を「入」にする
4. OSD の内容を確認し、再設定する

パワーマネージメント機能

本機の電源を入れたままでも、コンピューターを使用しないときに本機の消費電力を減少させる機能です。
本機の画面が暗くなるとともに電源ランプ（ →P13 ）は緑色と赤色の同時点灯になります。
この機能は VESA DPM 対応パワーマネージメント機能を搭載しているコンピューターと接続して使用する場合のみ機能します。 →P58
OSD メニューのパワーセーブで「オン」を選択すると、パワーマネージメント機能が動作します。
[RGB]： コンピューター入力（HDMI1、HDMI2、DVI-D、D-SUB、DISPLAYPORT）の同期信号がなくなると、数秒後にスリープモードになります。
[VIDEO]：ビデオ入力（YPbPr、S-VIDEO、VIDEO）の同期信号がなくなると、約 10 分後にスリープモードになります。

モード	消費電力	電源ランプ
標準	186 W	緑色点灯
スリープモード時	0.8 W 以下	緑色＋赤色点灯

【ミニ解説】
DPM：Display Power Management の略です。

お知らせ

- 工場出荷時は「パワーマネージメント設定（パワーセーブ）」を RGB、VIDEO ともにオンに設定しています。
- オプションスロットに拡張モジュールを装着した場合は、OSD 機能の「詳細設定 1」のパワーセーブを「オン」に設定しても、本機はスリープモードになりません。他の映像入力に切り換えても、スリープモードになりません。

電源ランプ

状態	LED
電源入モード時	緑色点灯
電源切モード時	赤色点灯
スケジュール待機時	赤色点灯、緑色点滅
スリープモード時	緑色と赤色が同時点灯
主電源スイッチ切	消灯
異常検出時（自己診断機能）	赤色点滅（ →P68 ）

[使用2] 映像入力を選択する

リモコンまたは本体の入力切換ボタン（INPUT）で、表示したい機器が接続されている映像入力を選択します。

リモコンの入力切換ボタン（INPUT）で選択する

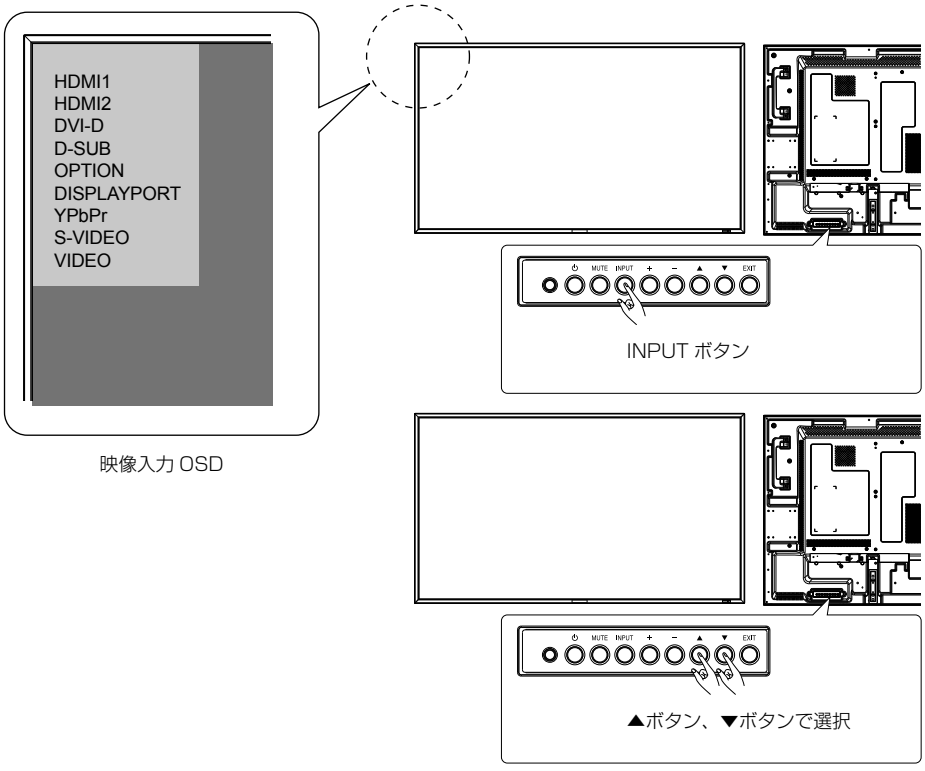
リモコンの INPUT ボタンの中から、表示したい映像入力をワンボタンで選択することができます。
映像入力は、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[D-SUB]、[OPTION]*、[DISPLAYPORT]、[YPbPr]、[S-VIDEO]、[VIDEO] です。
* OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

本体の INPUT ボタンで選択する

本体の INPUT ボタンを押すと映像入力 OSD が表示され、（▲）、（▼）ボタンで映像入力を選択することができます。
映像入力は、[HDMI1]、[HDMI2]、[DVI-D]、[D-SUB]、[OPTION]*、[DISPLAYPORT]、[YPbPr]、[S-VIDEO]、[VIDEO] です。再度 INPUT ボタンを押すと、選択した映像入力が表示されます。
* OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

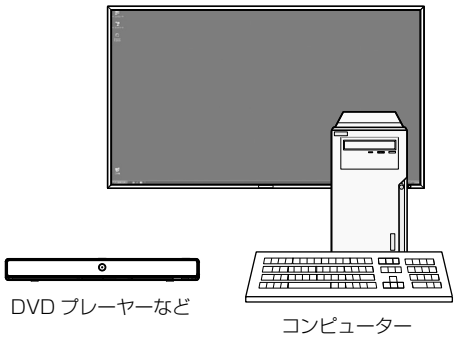
お知らせ

映像入力 OSD が表示されている時間内に INPUT ボタンを押さないと、設定は完了しません。映像入力 OSD の表示時間は、インフォメーション OSD の表示時間と同じになります。→ P60



[使用 3] 外部機器を操作する

接続した外部機器を操作して、映像を画面に映します。



[使用 4] 言語を選択する

リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「詳細設定 1」の言語選択で、使用する言語を選択します。 → P58

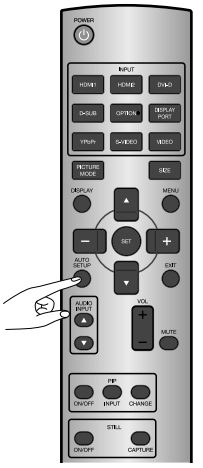
[使用5] オートセットアップをする

アナログ入力のみ

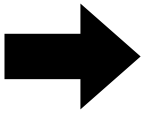
リモコンの AUTO SETUP ボタンを押して OSD 画面のオートセットアップメニューを直接呼び出します。
または、リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出し、「詳細設定 1」のオートセットアップでオートセットアップメニューを呼び出します。
SET ボタンを押して、画面サイズ、水平／垂直位置、クロック、クロック位相、入力信号レベルを適切に自動調節します。

お知らせ

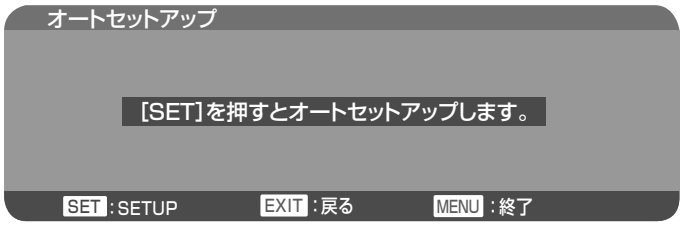
D-SUB のアナログ入力のみ機能します。

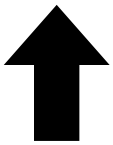


オートセットアップ
直接呼び出し

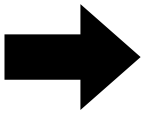


オートセットアップメニュー画面



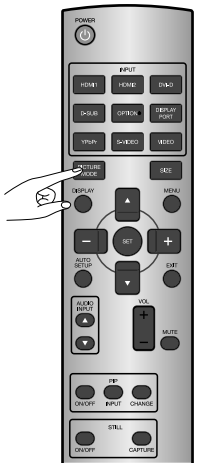


OSD 画面
呼び出し



[使用 6] ピクチャーモードを選択する

リモコンの PICTURE MODE ボタンで、表示したい映像に適切なピクチャーモードを選択します。



HIGHBRIGHT：ブライトネスを最も明るくします。
STANDARD　：工場出荷時の標準的な設定です。
sRGB　　：sRGB 規格対応機器との色合わせに適します。
CINEMA　　：映画を見るのに適します。

お知らせ

- [sRGB] は、コンピューター入力（HDMI1*、HDMI2*、DVI-D、D-SUB、OPTION（OPS 対応コンピューター装着時）、DISPLAYPORT）のときに選択できます。
- [CINEMA] は、ビデオ入力（HDMI1*、HDMI2*、OPTION（SDI 受信 BOX 装着時）、YPbPr、VIDEO、S-VIDEO）のときに選択できます。

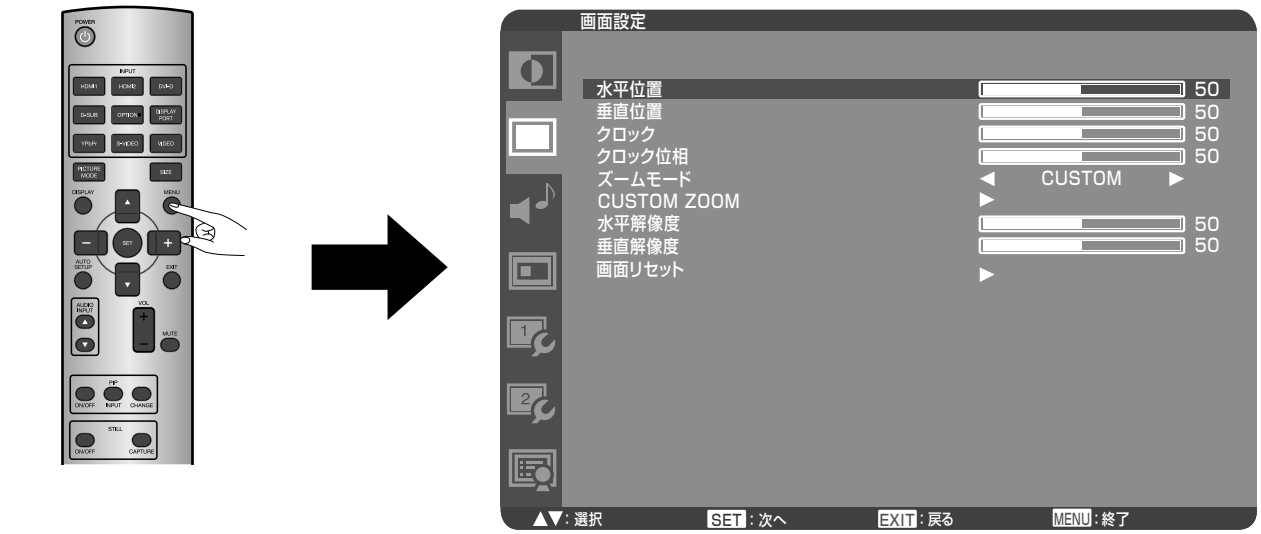
*入力信号に応じて切り換わります。

[使用 7] 画面を調節する

オートセットアップをおこなってもうまく表示されない場合は、画面設定を調節します。
リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「画面設定」で、画面の水平／垂直位置、クロック、クロック位相、ズームモード、CUSTOM ZOOM、水平解像度、垂直解像度を調節して適切な画面の状態にします。

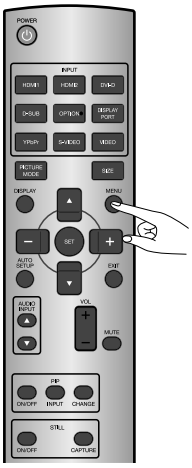
お知らせ

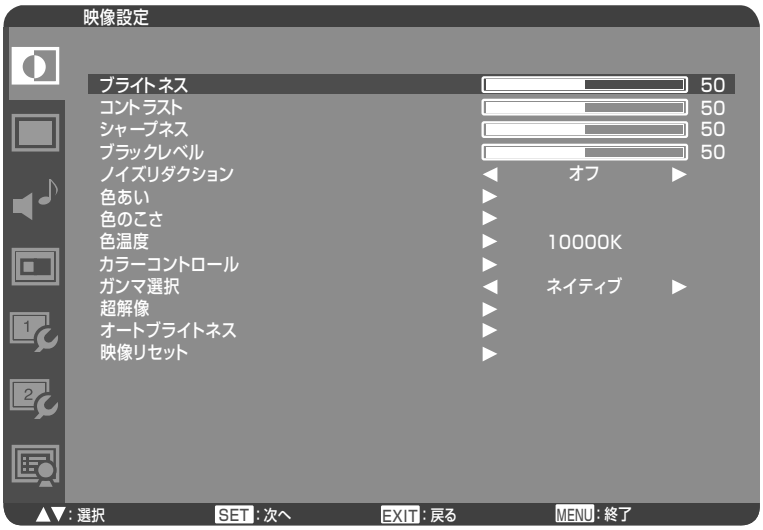
位置調節は、D-SUB、YPbPr、S-VIDEO または VIDEO のみ機能します。
クロック調節と解像度調節は、D-SUB のみ機能します。
ズーム調節は、全映像入力で機能します。



[使用 8] 映像を調節する

リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「映像設定」で、ブライトネス、コントラスト、シャープネスなどをお好みの表示状態に調節します。

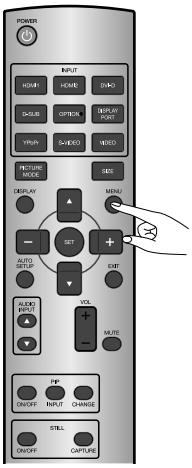




[使用 9] スピーカーを選択する

[必要に応じて]

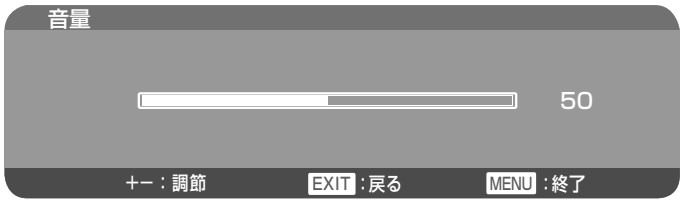
内蔵スピーカーまたは外部の専用ステレオスピーカー（オプション）を選択できます。
リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「オーディオ設定」の SPEAKER で、使用するスピーカーを選択してください。



[使用 10] 音量、バランスや音質を調節する　[必要に応じて]

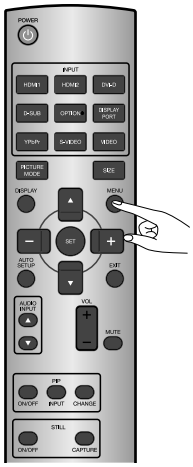
音量調節

リモコンの VOL ボタンで音量の増減ができます。



バランスや音質の調節

OSD 機能の「オーディオ設定」で、左右のバランス／高音／低音の調節ができます。
リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出し、調節してください。



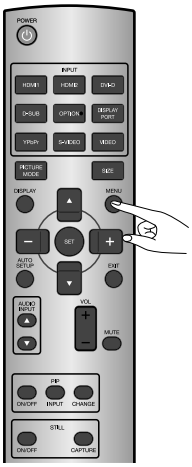
お知らせ

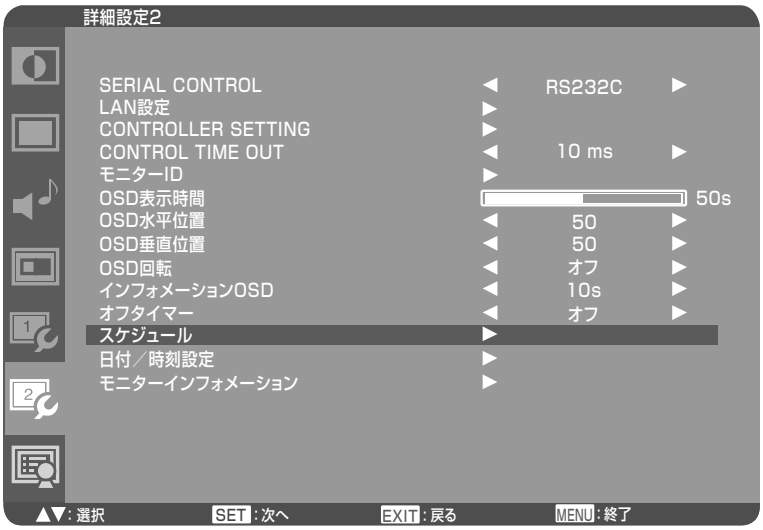
OPS 対応コンピューターを使用しているときに音声が出ない場合は、コンピューターの OS で音声出力の設定が本機になっているか確認してください。設定方法については、コンピューターの OS またはオーディオデバイスのドライバーのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

[使用 11] スケジュールを設定する

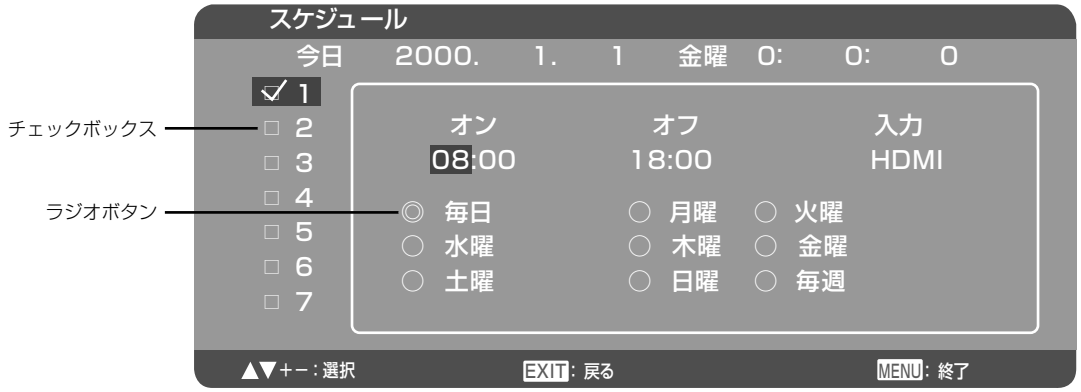
[必要に応じて]

リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の EXIT ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「詳細設定 2」のスケジュールで、電源の入／切や入力切換の時刻設定ができます。





スケジュールの設定・操作方法について



プログラム番号の選択

左端のプログラム番号 1 ～ 7 のチェックボックスにカーソルがあるとき、▲▼ボタンでカーソルを上下に移動して、設定したいプログラム番号を選びます。
選択したプログラム番号を有効にするときは、SET ボタンでチェックボックスにチェックを付けます。無効にするときは、チェックを外します。

各プログラムのスケジュール設定

上記のプログラム番号にカーソルがあるときは、＋ボタンを押すと右の白枠内へカーソルが移動します。
白枠内の各項目にカーソルがあるときは、＋ボタンで右へ、－ボタンで左へカーソルが移動します。
▲▼ボタンで電源オン／オフの時刻と入力を設定したり解除したりできます。また、SET ボタンでラジオボタンにチェックを付けたり、外したりできます。

オン	：スケジュールで電源をオンする時刻を設定します。オン時刻を指定しない場合は「－－」を設定してください。
オフ	：スケジュールで電源をオフする時刻を設定します。オフ時刻を指定しない場合は「－－」を設定してください。
入力	：電源オン時の入力を設定します。電源オンが実行される以前に選択されていた入力で電源オンする場合は、「－－」を選択してください。オン時刻と入力を設定することで、入力のみ切り換えることもできます。
毎日	：設定したスケジュールを毎日実行する場合、毎日のラジオボタンにチェックを付けます。毎日を選択した場合は曜日設定・毎週の設定はできません。
月曜～日曜	：スケジュールを実行する曜日のラジオボタンにチェックを付けます。「毎週」を設定しない場合、一度スケジュールを実行すると、ラジオボタンのチェックは自動的に外れます。
毎週	：毎週同じ曜日にスケジュールを実行する場合は、毎週のラジオボタンにチェックを付けます。

スケジュールの確定

リモコンの MENU ボタンまたは本体背面の EXIT ボタンでスケジュールの OSD 画面を消して、スケジュールを確定します。
スケジュールの OSD 画面を消す前に電源を切ると、設定がキャンセルされることがあります。

お知らせ

- 「スケジュール」を設定する前に、必ず「日付／時刻設定」で現在日時を設定してください。
- スケジュール画面を閉じると設定したプログラムが保存されます。
- 複数のスケジュールが設定されている場合は、プログラム番号の大きいスケジュールを優先し、最後に実行したスケジュールで電源オフします。
- 同時刻の複数のスケジュールが重なった場合は、プログラム番号の大きいほうが優先されます。
- オン時刻とオフ時刻を同一時刻には設定できません。
- オフタイマーが「オン」に設定されている場合は、スケジュール設定を無視します。
- 主電源スイッチやブレーカー、停電などで AC 電源が切れている状態では、設定したスケジュールは実行されません。

[使用 12] 通信制御をする

[必要に応じて]

RS-232C リモートコントロールについて

本機とコンピューターを RS-232C ケーブル（市販）で直接接続すると、次のような操作を通信で制御できます。シリアル通信機能に使用する通信インターフェース（RS-232C）の選択が必要です。→ P59

・電源の入切　・入力の切り換え　・音量調節／ミュート　・オートセットアップ　・本機の内部温度の確認　など

お知らせ

コンピューターの 25 ピンシリアルポートと接続する場合は変換アダプター（市販）が必要です。

1）インターフェース

プロトコル	RS-232C
ボーレート	9600 [bps]
データ長	8 [bit]
パリティビット	なし
ストップビット	1 [bit]
フローコントロール	なし

・ RS-232C の直接接続では、RXD、TXD および GND ラインを使用します。

2）コントロールコマンド

コマンドは下表のようにアドレスコード、ファンクションコード、データコードおよびエンドコードで構成され、操作機能ごとにコマンドの長さが異なります。

	アドレスコード	ファンクションコード	データコード	エンドコード
HEX アスキー	30h 30h '0' '0'	ファンクション	データ	0Dh '↵'

[アドレスコード]　30h 30h（アスキーコードの場合、'0' '0'）固定
[ファンクションコード]　各制御動作固有のコード
[データコード]　各制御動作固有のデータ（数値などで指定しない場合もあります。）
[エンドコード]　0Dh（アスキーコードの場合、'↵'）固定

お知らせ

- このコマンド例は、コンピューターとディスプレイを 1 対 1 のシングル接続で使用する場合の基本コマンドです。ディスプレイをマルチ接続したり、より高度に操作したい場合は、お買い上げの販売店へ通信仕様をお問い合わせください。
- ターミナルソフトウェアを使用してキータイピングによるコマンド送信をする場合は、OSD メニューの「詳細設定 2」の CONTROL TIME OUT で「2s」や「30s」を選択してください。（LAN 制御も同様です。）

3）制御シーケンス

（1） コマンドをコンピューターから本機へ送信します。（コマンドとコマンドの間隔を 600 ms 以上あけてください。）
（2） 本機はエンドコード受信後 600 ms 以内 * にリターンコマンドを送信します。正常に受信できていないときは、リターンコマンドを送信しません。(* 電源入切や入力切り換えなどの処理中は、リターンコマンドの送信が 600 ms よりも遅れることがあります。)
（3） コンピューターは、送信したコマンドが受信されたかどうかを確認するためにリターンコマンドをチェックします。必ずリターンコマンドを受信してから次のコマンドを送信してください。
（4） 本機からはリターンコマンド以外にもコマンドとは異なるコードが返信されます。RS-232C による制御シーケンスをおこなっている場合は、他のコードをコンピューター側で受け付けないでください。

[例] 電源を「入」にする。(' ' はアスキーコードの場合)

コンピューターから送信するコントロールコマンド	本機からコンピューターへ返信するリターンコマンド	コマンドの意味
30 30 21 0D '0' '0' '!' '↵'		電源を「入」にするコマンドを送信
	30 30 21 0D '0' '0' '!' '↵'	本機がコマンドを受信 （コマンドエコーバック）

4）操作コマンド

操作コマンドは本機の基本操作の設定をおこないます。ただし、信号の切り換え時には動作しない場合があります。
操作コマンドにはデータコードはありません。

操作	アスキー	HEX	操作	アスキー	HEX
電源を「入」にする。	!	21h	映像入力を [DISPLAYPORT] に切り換える。	_r6	5Fh 72h 36h
電源を「切」にする。	"	22h	映像入力を [VIDEO] に切り換える。	_v1	5Fh 76h 31h
電源を強制的に「切」にする。*	" "	22h 22h	映像入力を [YPbPr] に切り換える。	_v2	5Fh 76h 32h
映像入力を [HDMI1] に切り換える。	_r1	5Fh 72h 31h	映像入力を [S-VIDEO] に切り換える。	_v3	5Fh 76h 33h
映像入力を [HDMI2] に切り換える。	_r7	5Fh 72h 37h	音量を大きくする。	r06	72h 30h 36h
映像入力を [DVI-D] に切り換える。	_r2	5Fh 72h 32h	音量を小さくする。	r07	72h 30h 37h
映像入力を [D-SUB] に切り換える。	_r3	5Fh 72h 33h	オートセットアップをする。	r09	72h 30h 39h
映像入力を [OPTION]** に切り換える。	_r5	5Fh 72h 35h	音声をミュートする。	ra6	72h 61h 36h

* OPS 対応コンピューターが応答しないときに使用します。
** OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

- 電源の「入」または「切」コマンドと次のコマンドとの間隔は、14 秒以上あけてください。
- 映像入力の各切り換えコマンドと次のコマンドとの間隔は、5 秒以上あけてください。600 msec 以内に応答しない場合があります。
- ホスト側の制御機器のタイムアウト設定は、30 秒以上にしてください。
- 電源切モードのときは、電源「入」の操作コマンドと、次項に示す電源状態の読み出しコマンドのみ動作します。
- スリープモードのときは、電源「入」および電源「切」の操作コマンドと、次項に示す電源状態の読み出しコマンドのみ動作します。
  ・拡張モジュールを装着していないときは、電源を強制的に「切」にする操作コマンドは使用できません。
  ・拡張モジュールを装着しているときは、すべての入力コネクターはスリープモードにはなりません。
- 電源「切」の操作コマンドと主電源スイッチやブレーカーで AC 電源を切る操作との間隔は、2 秒以上あけてください。OSD 設定が工場設定の状態に戻る恐れがあります。

5）状態の読み出し方法

コンピューターからは、データコードを付加せずに送信します。
一方、コマンドを受け取った本機は現在の動作状態をデータコードとして付加し、送信します。

[例] 電源の状態を確認すると、電源が「入」であった場合。

コンピューターから送信する コントロールコマンド	本機からコンピューターへ 返信するリターンコマンド	コマンドの意味
30 30 76 50 0D '0' '0' 'v' 'P' '↵'		電源状態を確認するコマンドを送信
	30 30 76 50 31 0D '0' '0' 'v' 'P' '1' '↵'	本機の電源状態が電源「入」である

読み出しコマンドの構成

			ASCII		HEX	
			ファンクション	データ（受信）	ファンクション	データ（受信）
電源	ON		vP	1	76 50	31
	OFF（Sleep）		vP	0	76 50	30
入力	HDMI1		vI	r1	76 49	72 31
	HDMI2		vI	r7	76 49	72 37
	DVI-D		vI	r2	76 49	72 32
	D-SUB		vI	r3	76 49	72 33
	OPTION*		vI	r5	76 49	72 35
	DISPLAYPORT		vI	r6	76 49	72 36
	VIDEO		vI	v1	76 49	76 31
	YPbPr		vI	v2	76 49	76 32
	S-VIDEO		vI	v3	76 49	76 33
内部温度	Main ボード付近の温度	分解能 1℃	tc1	（例）+ 25	74 63 31	2B 20 32 35
	電源付近の温度	分解能 1℃	tc2	（例）+ 31	74 63 32	2B 20 33 31

* OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着したときに使用可能です。

お知らせ

OPS 対応コンピューターからの電源「入」／「切」の操作コマンドに応答はしますが、電源「入」／「切」の動作はしません。これは故障ではありません。自動運転する場合は、OSD 機能の「詳細設定 2」のスケジュールをご活用ください。

LAN リモートコントロールについて

本機とコンピューターを LAN ハブ (HUB) および LAN ケーブルで接続 → P33 し、OSD 機能の「詳細設定 2」の LAN 設定でネットワークを設定 → P59 すると、RS-232C と同じコマンドを用いて、遠隔操作できます。

1．設定手順
(1) シリアル通信機能に使用する通信インターフェースとして LAN を選択します。→ P59
(2) OSD メニューで、以下のネットワークパラメーターを設定します。→ P59
・DHCP クライアント、IP アドレス、サブネットマスク、DEFAULT GATEWAY
(3) コンピューターのアプリケーションソフトウェアでソケット通信をするために、上記の IP アドレスとポート番号（63007 または 3007）をアプリケーションに設定します。
(4) コンピューターから、RS-232C と同じ操作コマンドを TCP/IP プロトコル通信で送信します。
(5) ディスプレイから送信されるリターンコマンドをコンピューターで受信して確認し、正常に受信できれば完了です。

[使用 13] USB ハブを設定する

[必要に応じて]

お知らせ

- USB 機能は、使用するコンピューターの BIOS 設定や OS、USB 機器によっては動作しない場合があります。この場合は、各機器の取扱説明書を確認してから、各機器のメーカーにお問い合わせください。
- 本機のハブ機能の多段接続は 5 台までです。USB 規格に準じた装置を接続される場合も、事前に動作確認をしてください。
- USB ハブ機能では本機を制御できません。

1 使用するコンピューターを選択する

リモコンの MENU ボタンを押すか本体背面の操作ボタンを押して OSD 画面を呼び出します。
OSD 機能の「アドバンストオプション」の USB UPSTREAM で、使用するコンピューター（EXTERNAL ／ OPS）を選択してください。

EXTERNAL：外部機器のコンピューターに設定します。
OPS　　：OPS 対応コンピューターに設定します。

2 本機の USB ハブが認識されたことを確認する

本機の USB ハブがコンピューターに検出され、OS 標準のデバイスドライバーが自動的にインストールされます。
コンピューターによっては、接続しても USB ハブと検出されない場合があります。その場合はコンピューターの取扱説明書にしたがって、USB ハブ用のデバイスドライバーをインストールしてください。

お 願 い

本機がコンピューターに認識されるまで数秒程度かかります。認識される前に USB ケーブルを引き抜いたり、瞬間的な抜き差しを繰り返したりしないでください。

3 USB 機器が認識されたことを確認する

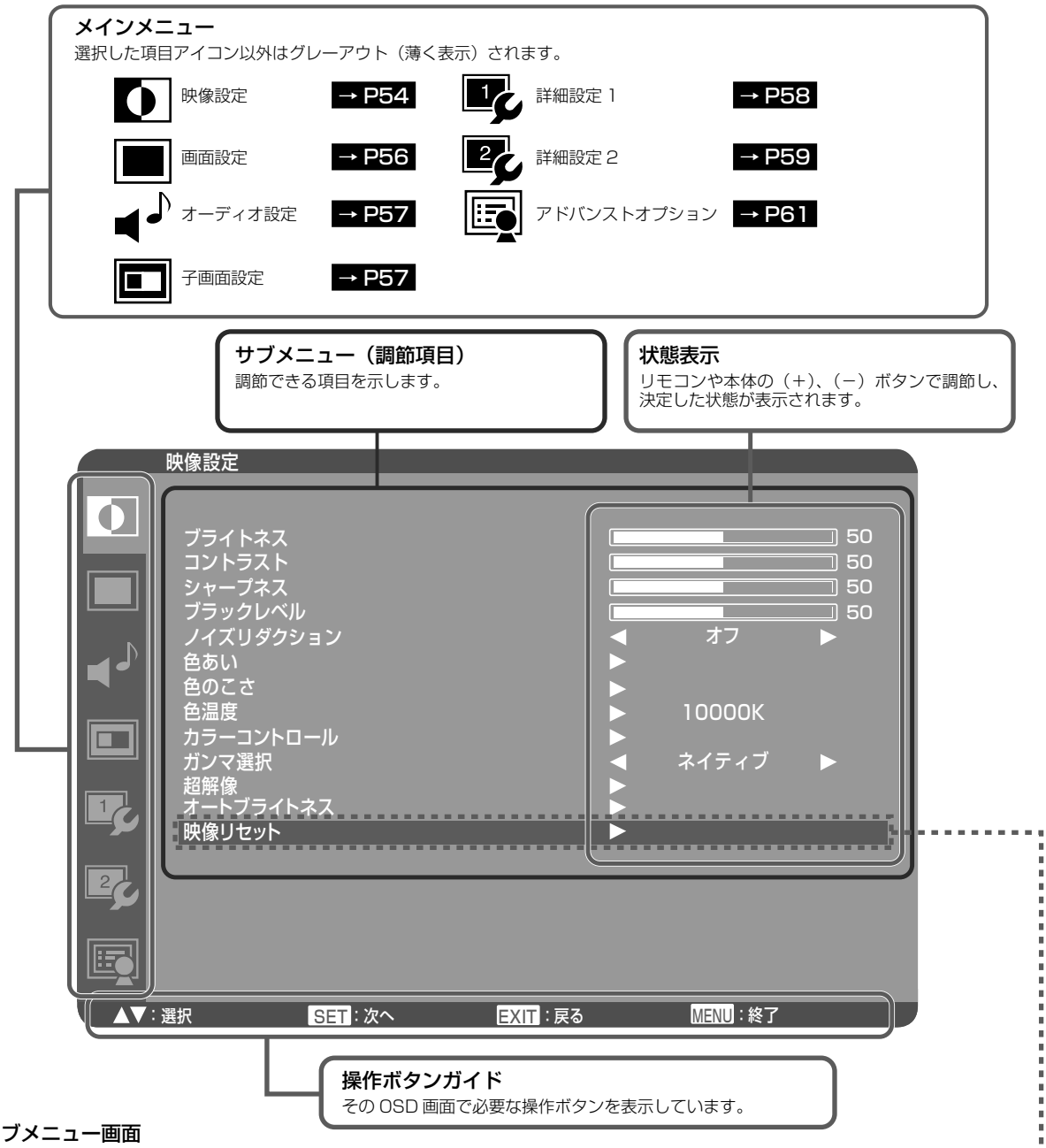
USB 機器がコンピューターに検出されたら、USB 機器のデバイスドライバーをインストールします。OS 標準のデバイスドライバーが自動的にインストールされる場合もあります。
コンピューターによっては、接続しても USB 機器を検出しない場合があります。その場合は USB 機器の取扱説明書にしたがってください。

OSD 画面の構成と基本操作

OSD 画面の構成

本機には画面の調節が簡単にできる OSD（On Screen Display）機能がついています。OSD 機能により画面上に表示されるメニューを操作し、明るさなどの画面調節や、その他の設定をおこないます。
OSD 画面は、以下に示すような構成になっています。

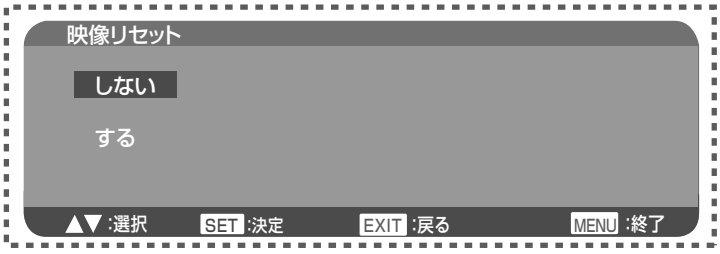
メインメニュー画面



サブメニュー画面

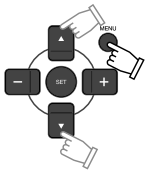
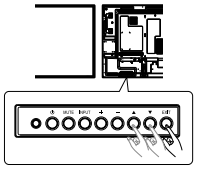
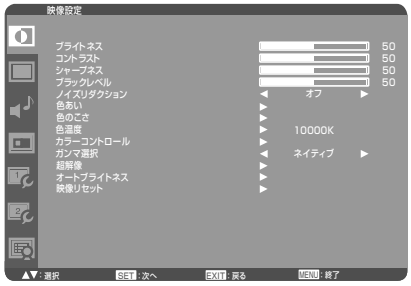
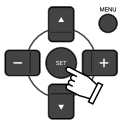
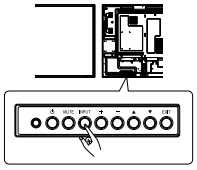
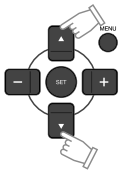
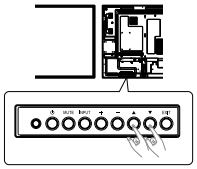
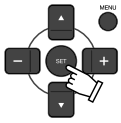
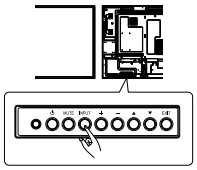
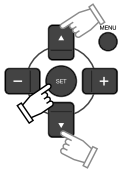
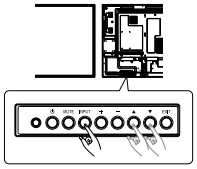
サブメニューを選択すると、表示される OSD 画面です。
情報画面や調節メニュー画面および下図のような選択メニュー画面などで構成されています。

サブメニュー画面：映像リセットの例



OSD の基本操作

電源ランプが緑色に点灯し、本機の電源が入っていることを確認してください。

手順	リモコン操作	本体ボタン操作	OSD 画面の状態
1	 MENU ボタンを押して OSD 画面を表示し、▲▼ボタンを押してメインメニューを選択する	 EXIT ボタンを押して OSD 画面を表示し、▲▼ボタンを押してメインメニューを選択する	
2	 SET ボタンを押してメインメニューを決定すると、サブメニューの先頭が選択される	 INPUT ボタンを押してメインメニューを決定すると、サブメニューの先頭が選択される	
3	 ▲▼ボタンを押してサブメニューを選択する	 ▲▼ボタンを押してサブメニューを選択する	
4	 SET ボタンを押してサブメニューを決定する	 INPUT ボタンを押してサブメニューを決定する	
5	 ▲▼ボタンを押して選択し、SET ボタンで決定する	 ▲▼ボタンを押して選択し、INPUT ボタンで決定する	

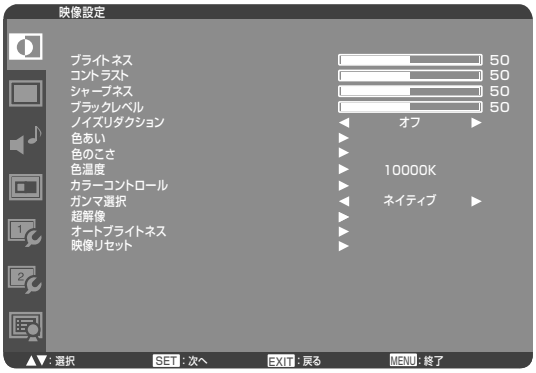
手順 5 の後にリモコンの MENU ボタンを 1 回または本体の EXIT ボタンを 3 回押すと、OSD 画面が消えます。

お知らせ

上記の例以外にも、＋－ボタンで選択および調節する項目があります。
OSD 画面下側の操作ボタンガイドにしたがって操作してください。

OSD 画面と機能

映像設定



■ ブライトネス

明るさを調節します。
＋ボタンを押すと明るくなります。
－ボタンを押すと暗くなります。

注）「詳細設定 1」のスクリーンセーバーでブライトネスをオンにしている場合は、調節できません。
→ P58

■ コントラスト

コントラストを調節します。
＋ボタンを押すと明るくなります。
－ボタンを押すと暗くなります。

お知らせ

ブライトネスはバックライトの発光輝度を変えます。コントラストは信号レベルを変えるので、白くつぶれることがあります。

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ シャープネス

シャープネスを調節します。
＋ボタンを押すとシャープになります。
－ボタンを押すとソフトになります。

お知らせ

設定を上げすぎて画像が二重になった場合は、設定値をやや下げてください。

■ ブラックレベル

映像の暗い部分の明るさを調節します。
＋ボタンを押すと映像の暗い部分が明るくなります。
－ボタンを押すと映像の暗い部分が更に暗くなります。

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ ノイズリダクション

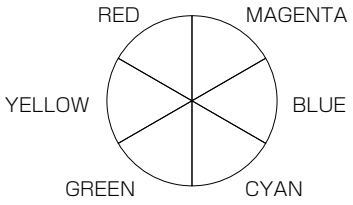
＊ RGB フォーマットの入力信号の場合は機能しません。

ノイズリダクションレベルを調節します。
＋ボタンを押して、調節値を大きくするとノイズが少なくなります。

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ 色あい

リモコンの SET ボタンで決定すると、色あい設定画面になり、以下が調節できます。
【色あい】：全色を同時に調節します。＋ボタンを押すと緑がかった色になります。－ボタンを押すと紫がかった色になります。
【RED（赤色）】、【MAGENTA（紫色）】、【BLUE（青色）】、【CYAN（水色）】、【GREEN（緑色）】または【YELLOW（黄色）】：各色を個別に調節します。＋ボタンを押すと色彩チャート上の各選択色が右回りの隣の色に近づきます。－ボタンを押すと左回りの隣の色に近づきます。



色彩チャート

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ 色のこさ

リモコンの SET ボタンで決定すると、色のこさ設定画面になり、以下が調節できます。
【色のこさ】：全色を同時に調節します。＋ボタンを押すと色が濃くなります。－ボタンを押すと色が薄くなります。
【RED（赤色）】、【MAGENTA（紫色）】、【BLUE（青色）】、【CYAN（水色）】、【GREEN（緑色）】または【YELLOW（黄色）】：各色を個別に調節します。＋ボタンを押すと色が濃くなります。－ボタンを押すと色が薄くなります。

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ 色温度

色温度を調節します。
色温度を低くすると画面が赤っぽくなり、高くすると画面が青っぽくなります。

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ カラーコントロール

赤色、緑色、青色のレベルをカラーバーで調節します。
R：赤　G：緑　B：青

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

■ ガンマ選択

ガンマを選択します。
ネイティブ／S ガンマ／ 2.2 ／ 2.4 ／オプション／プログラマブル

プログラマブル：外部制御により設定されたガンマ

お知らせ

- ピクチャーモードの sRGB では、2.2 固定となります。
- プログラマブルが選択されているときは、色温度設定は 10,000K（ネイティブ）に固定されます。
- プログラマブルのガンマデータを設定するためのソフトウェアは、お客様にて作成していただく必要があります。制御ソフトウェア作成のための通信コマンド仕様については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 超解像

注）ピクチャーモードの sRGB では機能しません。
→ P43

【超解像レベル】

静止画／自然画および動画コンテンツをより解像度感を高めた画像に変換し、美しい映像を表示します。
調節バー（0 ～ 100）で 10 ステップの 10 レベルが調節できます。

【解像度判別】

入力される映像の解像度に応じて適切な効果を適用できます。
超解像レベルを 0%（オフ）以外に調節すると選択できます。

AUTO：自動で入力映像の解像度を判別し、判別した解像度に応じた効果を適用します。
HD：　高解像度の映像に適した効果を適用します。
SD：　中解像度の映像に適した効果を適用します。
LD：　ストリーム動画コンテンツなど、低解像度の映像に適した効果を適用します。

お知らせ

- 超解像技術の効果は入力画像の種類や解像度によって異なります。コンテンツによってはノイズやちらつきが発生する場合があります。

■ オートブライトネス

本機の周辺の明るさに応じて、画面の輝度を変化させて画面を見やすくします。
また、本機の周辺の明るさや表示内容に応じて、画面の輝度や彩度を変化させて不要な電力の消費を抑えます。

注）ピクチャーモードの sRGB、CINEMA では機能しません。→ P43

【オートブライトネス】

AUTO：　オートブライトネスの設定を自動でおこないます。
　注）AUTO を選択した場合は、【CONTROL】以外の各項目は個別には調節できません。
LOCAL：　オートブライトネス機能が有効になり、【CONTROL】以下の各項目が個別に調節できます。
REMOTE：オートブライトネス機能が有効になります。更に、複数のディスプレイをまとめて制御する相互通信状態になります。
→ P65
オフ：　本機能をオフします。

【CONTROL】

PRIMARY：　複数のディスプレイをまとめて制御するときに、マスターディスプレイとして設定する場合。
SECONDARY：ディスプレイを単独で使用する場合。または複数のディスプレイをまとめて制御するときに、スレーブディスプレイとして設定する場合。

【LIGHT FROM BACK】

【REAR SENSOR】が「オン」のときのみ有効です。
本機背面に照明や窓などの光源がある場合に、背面のセンサーを優先します。

する：　本機背面側に照明や窓などの光源がある場合。
しない：本機背面側に照明や窓などの光源がない場合。

【BACK WALL】

【REAR SENSOR】が「オン」のときのみ有効です。
本機背面と、壁面または窓との距離にしたがって以下のとおり設定ください。

FAR：　距離が 5 m 以上ある場合。
NEAR：距離が 5 m 以下の場合。

【FRONT SENSOR】

通常は「オン」に設定してください。
オフ：本機前面のセンサーが、なんらかの理由で遮光されている場合。

【REAR SENSOR】

通常は「オン」に設定してください。
オフ：本機背面のセンサーが、なんらかの理由で遮光されている場合。

【色のこさ】

オン：周辺の明るさに応じて表示の彩度を調節したい場合。
オフ：表示の彩度を調節しない場合。

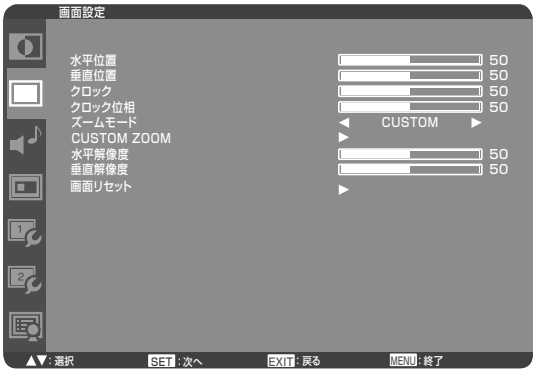
【VIDEO DETECT】

オン：表示内容に応じて画面の明るさを変化させ、ディスプレイの消費電力を低減する場合。
オフ：明るさの変化や消費電力の低減をしない場合。

■ 映像リセット

映像設定がすべて工場設定の状態に戻ります。

画面設定



■ 水平位置

画面の水平位置を調節します。
＋ボタンを押すと画面が右へ移動します。
－ボタンを押すと画面が左へ移動します。

■ 垂直位置

画面の垂直位置を調節します。
＋ボタンを押すと画面が上へ移動します。
－ボタンを押すと画面が下へ移動します。

■ クロック

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

コンピューターの画面サイズや文字のにじみを調節します。
＋ボタンを押すと画面が右へ拡がります。
－ボタンを押すと画面が左へ縮みます。

■ クロック位相

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

画面のちらつきが周期的に変化するレベルを調節します。

■ ズームモード

画面に合うように映像を拡大する方式を設定できます。
HDMI1、HDMI2、DVI-D、D-SUB、DISPLAYPORT の場合は、FULL、ノーマル、CUSTOM、リアルが選択可能です。
YPbPr、S-VIDEO、VIDEO の場合は、FULL、ノーマル、ダイナミック、CUSTOM、リアルが選択可能です。

FULL	：映像のアスペクトとは無関係に画面の上下左右最大に映像を拡大表示します。
ノーマル	：映像のアスペクトを維持しながら、画面の上下最大に映像を拡大表示します。
ダイナミック	：画面中央部と外側で拡大比率を変えて、自然なワイド表示にできます。
CUSTOM	：CUSTOM ZOOM 項目で上下左右お好みに調節できます。
リアル	：拡大／縮小しないで表示します。

注）解像度 1920 × 1080 などのアスペクト比が 16:9 の映像のダイナミック表示は、FULL 表示と同じです。

■ CUSTOM ZOOM

ズームモードで CUSTOM を選択した場合、CUSTOM ZOOM が選択可能になります。

ズーム	：水平／垂直を同時に拡大します。
水平ズーム	：水平のみが拡大します。
垂直ズーム	：垂直のみが拡大します。
水平位置	：＋で右へ移動、－で左へ移動します。
垂直位置	：＋で上へ移動、－で下へ移動します。

■ 水平解像度

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

オートセットアップやオートアジャストをしても入力信号の水平解像度に合わない場合に、調節します。
＋ボタンを押すと、解像度が高くなります。
－ボタンを押すと、解像度が低くなります。

■ 垂直解像度

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

オートセットアップやオートアジャストをしても入力信号の垂直解像度に合わない場合に、調節します。
＋ボタンを押すと、解像度が高くなります。
－ボタンを押すと、解像度が低くなります。

■ 画面リセット

画面設定が工場設定の状態に戻ります。

オーディオ設定

■ バランス

左右の音声バランスを調節します。
＋ボタンを押すと左側の音が小さくなります。
－ボタンを押すと右側の音が小さくなります。

■ 高音

高音域の音量を調節します。
＋ボタンを押すと高い音が強くなります。
－ボタンを押すと高い音が弱くなります。

■ 低音

低音域の音量を調節します。
＋ボタンを押すと低い音が強くなります。
－ボタンを押すと低い音が弱くなります。

■ SPEAKER

内蔵スピーカーと外部の専用ステレオスピーカー（オプション）を切り換えます。
INTERNAL： 内蔵スピーカーから出力するとき
（最大出力　10 W + 10 W）
EXTERNAL：外部の専用ステレオスピーカーから出力するとき
（最大出力　10 W + 10 W）

■ オーディオリセット

オーディオ設定が工場設定の状態に戻ります。

子画面設定

お知らせ

画面サイズが「CUSTOM」、「リアル」の場合、PIP、POP は機能しません。

詳しい制限は → P66 の PIP、POP 機能を確認してください。

■ 子画面モード　→ P66

＋／－ボタンで、「PIP」→「POP」→「SBS ASPECT」→「SBS FULL」→「オフ」の順に切り換えて選択します。

■ 子画面サイズ

子画面モードが「PIP」のときに、子画面のサイズを選択します。
そのとき、リモコンの▲／▼／＋／－ボタンで子画面の位置を移動できます。

■ 音声選択

子画面モードを使用しているときの音声を選択します。
「親画面音声」を選ぶと親画面の音声、「子画面音声」を選ぶと子画面の音声になります。

■ 子画面水平位置

子画面モードが「PIP」のときに、子画面の水平表示位置を＋／－ボタンで移動調節します。

■ 子画面垂直位置

子画面モードが「PIP」のときに、子画面の垂直表示位置を＋／－ボタンで移動調節します。

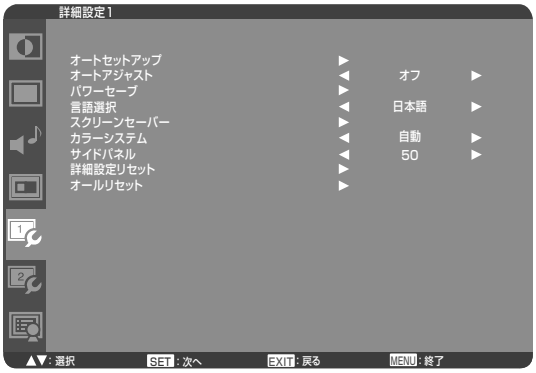
■ サブ入力

子画面映像入力端子を＋／－ボタンで選択します。

■ 子画面リセット

子画面設定が工場設定の状態に戻ります。

詳細設定 1



■ オートセットアップ

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

画面サイズ、水平／垂直位置、クロック、クロック位相、ホワイトレベル、ブラックレベルを自動調節します。

■ オートアジャスト

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

「オン」を選択すると、タイミング切り換え時に水平／垂直位置、クロック位相を自動的に調節します。

■ パワーセーブ

「オン」を選択すると、パワーマネージメント機能（パワーセーブ）が動作します。

[RGB]： コンピューター入力（HDMI1、HDMI2、DVI-D、D-SUB、DISPLAYPORT）の同期信号がなくなると、数秒後にスリープモードになります。

[VIDEO]：ビデオ入力（YPbPr、S-VIDEO、VIDEO）の同期信号がなくなると、約 10 分後にスリープモードになります。

お知らせ

オプションスロットに拡張モジュールを装着した場合は、「オン」に設定しても、本機はスリープモードにならず、無効です。他の映像入力に切り換えても、スリープモードになりません。

■ 言語選択

OSD に使用する言語を選択します。

英語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、イタリア語、スウェーデン語、中国語、日本語のいずれかが設定できます。

■ スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定します。

本機能は液晶パネルにかかる負担を軽減させるものです。

お知らせ

「長くご使用いただくために」→ P73 をご覧ください。

【ガンマ】

（残像軽減機能）「オン」を選択すると残像になりにくいガンマに切り換わります。

【冷却ファン】

「オン」を選択すると内蔵ファンが常時動作します。

「AUTO」を選択すると使用される環境温度に応じて、自動的に内蔵ファンが動作します。 → P71

【ブライトネス】

「オン」を選択するとブライトネスを下げます。

【モーション】

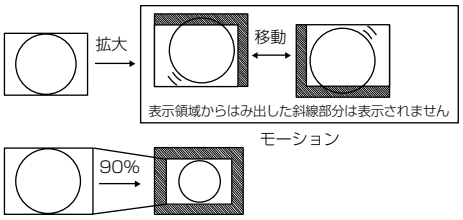
設定した時間で画面がわずかに上下左右に周期的に移動することにより液晶パネルの残像を軽減させます。

お知らせ

●アドバンストオプションの「TILING」機能を使用している場合は、モーションを「オン」に設定できません。

●モーションで時間を設定した場合は、画面を拡大し、上下左右に移動するため、表示領域からはみ出した部分は表示されません。

常に表示したい内容は、画面中心の 90%程度の範囲におさまるように作成願います。



■ カラーシステム

＊ S-VIDEO、VIDEO 入力の場合のみ有効です。

使用するビデオ機器の映像信号フォーマットを選択します。

自動	：NTSC、PAL、SECAM、4.43 NTSC あるいは PAL-60 のビデオ入力方式により自動的に選択します。
NTSC	：NTSC フォーマット
PAL	：PAL フォーマット
SECAM	：SECAM フォーマット
4.43 NTSC	：4.43 NTSC フォーマット
PAL-60	：PAL-60 フォーマット

お知らせ

海外で購入されたビデオ機器を使用する場合は、カラーシステムメニューを設定してください。

■ サイドパネル

4：3 画面をズームモードのノーマルや子画面モードの POP などで表示するときの画像がない部分の明るさを調節します。

■ 詳細設定リセット

詳細設定 1 と詳細設定 2 で設定した内容がすべて工場設定の状態に戻ります。

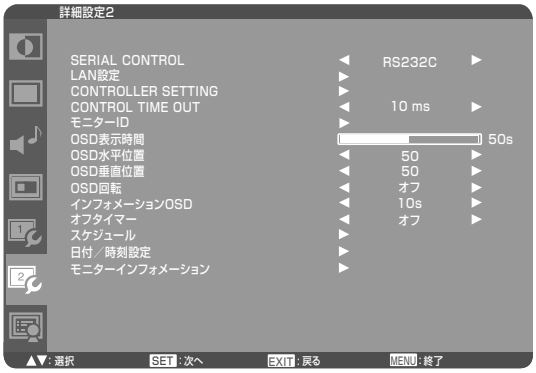
ただし、言語選択、モニター ID、スケジュール、日付／時刻設定はリセットされません。

■ オールリセット

映像設定、画面設定、オーディオ設定、詳細設定 1、詳細設定 2、アドバンストオプションの設定と、リモコンのピクチャーモードの設定が工場設定の状態に戻ります。

ただし、言語選択、CONTROL TIME OUT、モニター ID、スケジュール、日付／時刻設定、DDC/CI はリセットされません。

詳細設定 2



■ SERIAL CONTROL

シリアル通信機能に使用する通信インターフェース（RS-232C、OPS（OPS 対応コンピューター装着時）または LAN）を選択します。
信号ケーブルの接続については、→ P30 ～ P34 をご覧ください。

■ LAN 設定

LAN ネットワークの通信パラメーターを設定します。

【DHCP クライアント】
DHCP クライアントの使用要否を設定します。オフで不使用、オンで使用に設定します。

【IP アドレス】
DHCP クライアントがオフのとき、本機の IP アドレスを設定します。
DHCP クライアントがオンのとき、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。

【サブネットマスク】
DHCP クライアントがオフのとき、GATEWAY（ゲートウェイ）のマスクを設定します。通常は、255.255.255.0 を設定します。
DHCP クライアントがオンのとき、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。

【DEFAULT GATEWAY】
DHCP クライアントがオフのとき、本機を含めたローカルエリアから外につながるゲートウェイルーターの IP アドレスを設定します。
DHCP クライアントがオンのとき、DHCP サーバーが設定した値を確認できます。

【PORT】
本機のポート番号（3007 と 63007）を確認できます。

【リセット】
LAN 設定をリセットします。

■ CONTROLLER SETTING

Crestron 社の“2 シリーズコントロールプロセッサー”を使用して本機をネットワーク制御するときに、通信パラメーターを設定します。

【CONTROLLER IP】
コントロールプロセッサーの IP アドレスを設定します。

【PORT NUMBER】
通信に使用するポート番号を設定します。

【IP ID】
IP 識別番号を設定します。

お知らせ

設定方法の詳細は、Crestron 社のコントロールプロセッサーの取扱説明書をお読みください。

■ CONTROL TIME OUT

通信制御をするときに、コントロールコマンド内での各コード間の送信間隔のタイムアウトを設定します。
10 ms：タイムアウトの間隔を 10 ミリ秒に設定します。
2 s：　タイムアウトの間隔を 2 秒に設定します。
30 s：　タイムアウトの間隔を 30 秒に設定します。

■ モニター ID

RS-232C を使ってマルチ接続した LDT552V にコントロール用の ID 番号を与えます。
ID 番号は 1 ～ 26 の間で選べます。

■ OSD 表示時間

OSD 表示時間の設定をします。
5 秒～ 120 秒の間で設定ができます。

■ OSD 水平位置

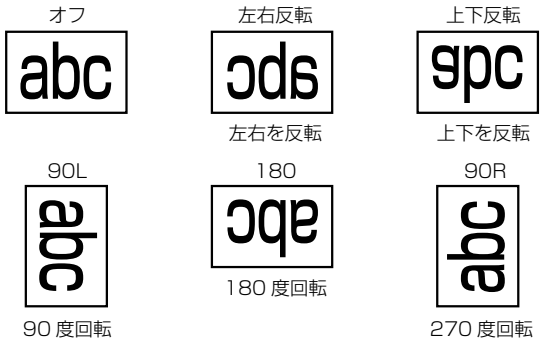
OSD メニューの水平の表示位置を調節します。

■ OSD 垂直位置

OSD メニューの垂直の表示位置を調節します。

■ OSD 回転

OSD 画面を回転します。



■ インフォメーション OSD

インフォメーション OSD 表示の「オン」「オフ」を設定します。
3 ～ 10 秒間の表示時間設定ができます。

＊ インフォメーション OSD 表示は入力の切り換えや入力信号の状態が変化したとき、または入力信号が異常なときに画面に表示されるメッセージです。

■ オフタイマー

オフタイマーを設定します。
自動的に電源オフするまでの時間を設定します。
設定可能時間は 1 ～ 24 時間（1 時間単位）です。

お知らせ

オフタイマーをオンにすると、スケジュール →P47 は動作しません。

■ スケジュール

液晶ディスプレイの動作スケジュールをプログラムします。→P47

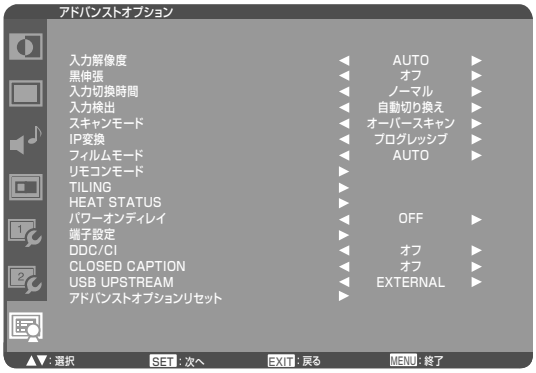
■ 日付／時刻設定

現在の日付と時刻を設定します。
スケジュール機能を使用する場合は、必ず設定してください。
設定後は必ずリモコンの SET ボタン（→P15 ❺ボタン）を押してください。本体ボタンの場合は、INPUT ボタン（→P13 ❺ボタン）です。

■ モニターインフォメーション

本機のモデル名とシリアルナンバーを表示します。
LAN の MAC アドレスを表示します。

アドバンストオプション



■ 入力解像度

＊ D-SUB 入力の場合のみ有効です。

入力信号の解像度がうまく自動判定されなかったら、手動で適切な解像度を選択できます。
以下の 3 系列のタイミングに近い信号が入力されたときのみ、系列ごとの選択値が現れます。
系列 1：AUTO、1024 × 768、1280×768、
1360 × 768、1366 × 768
系列 2：AUTO、1400 × 1050、1680×1050
系列 3：AUTO、1600 × 1200、1920×1200

■ 黒伸張

＊ HDMI1-HD、HDMI2-HD、DVI-D-HD、DISPLAYPORT（YCbCr 信号）、OPTION（YCbCr 信号）、YPbPr、S-VIDEO、VIDEO の入力の場合のみ有効です。

黒伸張のレベル「オフ」、「中」、「高」を選択します。

■ 入力切換時間

入力切換時間の設定を切り換えます。
[クイック]、[ノーマル] 設定を選択できます。

お知らせ

クイックを選択した場合、若干ノイズが見えることがあります。

■ 入力検出

映像信号の有無を検知して、複数の入力を自動的に切り換えられます。
優先順位は同時入力の場合であり、信号表示中に上位の信号を入力しても切り換わりません。

【自動切り換え】
DVI-D と D-SUB の入力が対象です。選択している入力の信号がなくなったときに他方の入力を確認し、入力があれば自動的に切り換えを実施します。
どちらの入力にも信号がない状態が 5 秒間継続するとスリープモードになります。
オプションスロットに SDI 受信 BOX などの拡張モジュールを装着しているときは、DVI-D でなく OPTION が対象になります。
入力信号の優先順位は、
DVI-D ＞ D-SUB
です。

お知らせ

- DVI-D、OPTION、D-SUB 以外の入力は選択できなくなります。
- 拡張モジュール装着時は、スリープモードになりません。

【ビデオ検出優先】
HDMI1、YPbPr、S-VIDEO、VIDEO、D-SUB の入力が対象です。
HDMI1、YPbPr、S-VIDEO、VIDEO 入力に映像信号を検知すると、その入力に自動的に切り換わります。
表示していた映像信号がなくなると、D-SUB 入力に自動的に戻ります。
入力信号の優先順位は、
HDMI1 ＞ YPbPr ＞ VIDEO ＞ S-VIDEO
です。

お知らせ

- HDMI2、DVI-D、OPTION、DISPLAYPORT は選択できなくなります。
- 拡張モジュール装着時は、スリープモードになりません。

【オフ】
入力の自動切り換えをおこないません。

■ スキャンモード

＊ D-SUB 入力の場合は機能しません。

映像表示エリアを選択します。
オーバースキャン： 入力信号の約 95% を表示します。
アンダースキャン： 入力信号の約 100% を表示します。

■ IP 変換

＊ D-SUB 入力の場合は機能しません。
また、インターレース信号のみ有効です。

IP 変換モードを選択します。

【プログレッシブ】
インターレース信号をプログレッシブ信号に変換して表示します。通常はこちらを選択してください。

【インターレース】
インターレース信号をそのまま表示します。この機能は動画に適していますが、静止画では映像が綺麗に表示されなくなります。

■ フィルムモード

＊ D-SUB 入力の場合は機能しません。
また、インターレース信号のみ有効です。

フィルムモード機能を選択します。
AUTO ：24 フレーム／秒の映像を検出し、補間処理して表示します。
オフ ：入力映像信号をそのまま表示します。

お知らせ

フィルムモードを AUTO に設定した場合は、IP 変換をプログレッシブに設定してください。→ P61

■ リモコンモード

以下の 4 モードの選択画面が表示されます。▲▼ボタンで選択し、SET ボタンで決定します。

ノーマル　：リモコン操作が有効になります。
PRIMARY　：リモコンからの制御コマンドを、他の LDT552V へ分配するモードです。先頭の LDT552V に設定します。
→ P67
SECONDARY：リモコンからではなく PRIMARY からの制御コマンドを受けて、他の LDT552V へも分配するモードです。先頭以外の LDT552V に設定します。
→ P67
LOCK　：リモコンをロックします。すべてのリモコン操作が無効になります。

お知らせ

リモコンの「DISPLAY」ボタンを 5 秒以上押し続けると「ノーマル」状態に戻ります。本体背面の操作ボタンのロックとは独立しています。→ P63

■ TILING

TILING は、画面を分割拡大してマルチスクリーンで表示する機能です。同一の入力映像を水平および垂直に最大 5 分割し、25 台（5 × 5）までの複数の本機をタイル状に並べて単一画面を表示できます。

お知らせ

- 同一の映像信号を各々のディスプレイ（本機）へ接続することが必要です。ディスプレイ間の色あいを合わせる必要がある場合には、信号分配器（市販）のご使用を推奨します。

  TILING 画面が表示されると PIP、POP、SBS、STILL は解除されます。
  画面サイズが「リアル」の場合、TILING は機能しません。
- TILING 画面が表示されている場合は、詳細設定 1 の「スクリーンセーバー」のモーション機能はオンに設定できません。

H MONITORS　：水平分割数を設定します。
V MONITORS　：垂直分割数を設定します。
POSITION　：拡大表示したい部分を選択します。
FRAME COMP.：画面を複数のディスプレイに分割して表示する場合、より自然に見えるようにディスプレイの繋ぎ目の表示方法を変更する機能を選択します。
ENABLE　：「オン」を選ぶと選択された位置の画面が拡大表示されます。

■ HEAT STATUS

冷却ファン、明るさ、内部温度の状況のお知らせです。

お知らせ

- 冷却ファンは使用される環境温度に応じて、またはスクリーンセーバーの冷却ファンでオンを選択したときに動作します。
- 使用環境温度が保証範囲を大きく超えるとき、画面上に「TEMPERATURE WARNING」の警告が表示されます。→ P68、P71

■ パワーオンディレイ

スリープモードからの復帰時や電源オン時に、電源入モードになるまでの遅延時間を調節します。
遅延時間は OFF、2 秒、4 秒、6 秒、8 秒、10 秒、20 秒、30 秒、40 秒、50 秒から選択できます。

■ 端子設定

端子設定は HDMI1、HDMI2 または DVI-D の映像入力で、映像機器からの出力信号形式にあわせて適切に表示するための設定です。

HDMI 信号モード：HDMI1、HDMI2 または OPTION（OPS 対応コンピューター装着時）を表示するとき設定します。
（FULL）→　0 ～ 255 のフル階調を使用した信号を表示するときに選択します。
主に、コンピューター入力のとき選択します。
（LIMITED）→ RGB 各 256 階調中、16 ～ 235 階調のみを使用した信号を表示するときに選択します。
主に、ビデオ機器入力のとき選択します。
HDMI モード：　HDMI1、HDMI2 を表示するとき設定します。
（HDMI-HD）→ビデオ機器入力のとき選択します。
（HDMI-PC）→コンピューター入力のとき選択します。
DVI モード：　DVI-D を表示するとき設定します。
（DVI-PC）→　コンピューター入力のとき選択します。
（DVI-HD）→　ビデオ機器入力のとき選択します。

■ DDC/CI

DDC/CI 通信機能のオン／オフ設定です。通常はオンで使用してください。

■ CLOSED CAPTION

字幕の表示と非表示を設定できます。

オフ　：字幕非表示
CC1　：第 1 音声の同期表示
CC2　：（第 1 音声）関連情報の非同期表示
CC3　：第 2 音声の同期表示
CC4　：（第 2 音声）関連情報の非同期表示
TT1/TT2/TT3/TT4：映像と無関連な 4 種類の情報表示（例：ニュース、天気予報など）

お知らせ

本機は、米国 EIA-608-A 規格に対応します。
映像ソフトや外部映像機器が EIA-608-A 規格に適合しているか、それぞれの販売元へ事前確認してください。
実際の映像信号が適合しない場合、うまく表示されないことがあります。

【ミニ解説】

クローズドキャプション（Closed Caption）は、字幕の公開（open）と非公開（closed）を選択できる表示方式です。
反対語→オープンキャプション：映像に文字が直接描かれ、非公開にできません。

■ USB UPSTREAM

2 個のアップストリームポートから 1 個を選択して、2 個のダウンストリームポートに分配します。

EXTERNAL：外部機器のコンピューターに設定します。
OPS：　OPS 対応コンピューターに設定します。

■ アドバンストオプションリセット

アドバンストオプションで設定した内容がすべて工場設定の状態に戻ります。
ただし、HDMI モード、DVI モード、DDC/CI はリセットされません。

その他の機能

ピクチャーサイズ

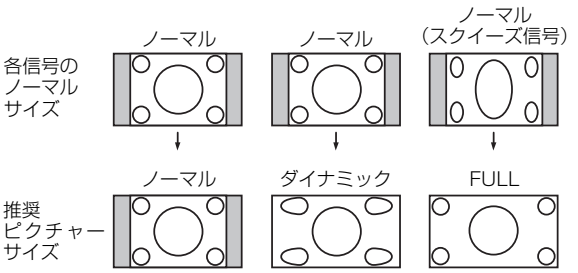
SIZE ボタンで画面サイズを選択することができます。

HDMI1、HDMI2、DVI-D、D-SUB、OPTION（OPS 対応コンピューター装着時）、DISPLAYPORT 選択時

FULL → ノーマル → CUSTOM → リアル

OPTION（SDI 受信 BOX 装着時）、YPbPr、VIDEO、S-VIDEO 選択時

FULL → ノーマル → ダイナミック → CUSTOM → リアル



元の信号と異なる画面サイズで使用する場合は、画面に歪みが発生します。

（例）4：3 信号を FULL で表示した場合は、横長画面になります。

お知らせ

営利目的または公衆に視聴されることを目的として飲食店、ホテル等においてピクチャーサイズ機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等をおこないますと、著作権法上で保護されている著作権者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意ください。

ピクチャーモード

PICTURE MODE ボタンで、お好みの表示モードを選択することができます。

HDMI1*、HDMI2*、DVI-D、D-SUB、OPTION（OPS 対応コンピューター装着時）、DISPLAYPORT 選択時

HIGHBRIGHT → STANDARD → sRGB

HDMI1*、HDMI2*、OPTION（SDI 受信 BOX 装着時）、YPbPr、VIDEO、S-VIDEO 選択時

HIGHBRIGHT → STANDARD → CINEMA

＊ 入力信号に応じて切り換わります。

コントロールロックモード

本体の操作ボタンを触っても調節した画面が変わらないように操作ボタンをロックする機能です。

本体の▼と▲ボタンを 3 秒以上の間、同時に押すとロックできます。

本体の▼と▲ボタンを 3 秒以上の間、再度同時に押すとロックを解除します。

インフォメーション OSD

リモコンの DISPLAY ボタンを押すと、選択されている映像入力端子、音声入力端子、画面サイズ等の情報が表示されます。

HDMI1、HDMI2、DVI-D、D-SUB、DISPLAYPORT 選択時

```
DVI-D                    ← DVI-D 選択時
1024 x 768               ← 解像度
48kHz  60Hz              ← 水平／垂直周波数
AUDIO : ANALOG           ← 音声情報
SIZE : FULL              ← ピクチャーサイズ
```

OPTION 選択時（SDI 受信 BOX 装着時）

```
OPTION : SDI (3G)        ← 3G-SDI フォーマット時
1920 x 1080              ← 解像度
67kHz  60Hz              ← 水平／垂直周波数
AUDIO : SDI              ← 音声情報
SIZE : FULL              ← ピクチャーサイズ
```

OPTION 選択時（OPS 対応コンピューター装着時）

```
OPTION : PC              ← OPTION 選択時（OPS 対応コンピューター装着時）
1920 x 1080              ← 解像度
67kHz  60Hz              ← 水平／垂直周波数
AUDIO : OPS DIGITAL      ← 音声情報
SIZE : FULL              ← ピクチャーサイズ
```

YPbPr 選択時

```
YPbPr                    ← YPbPr 選択時
AUDIO : ANALOG           ← 音声情報
SIZE : FULL              ← ピクチャーサイズ
```

S-VIDEO、VIDEO 選択時

```
S-VIDEO                  ← S-VIDEO 選択時
NTSC                     ← カラーシステム
AUDIO : ANALOG           ← 音声情報
SIZE : FULL              ← ピクチャーサイズ
```

PIP、POP 選択時
親画面：DVI-D
子画面：S-VIDEO

```
DVI-D                    ← 親画面情報
1024 x 768
48kHz  60Hz
AUDIO : ANALOG           ← 音声情報
S-VIDEO                  ← 子画面情報
NTSC
SIZE : FULL              ← メインピクチャーサイズ
```

音声入力切換

音声入力切換ボタンで音声入力を選択できます。
ただし、選択している映像信号入力端子によって選択できる音声は異なります。

映像信号入力端子選択		動作
HDMI1 または HDMI2		ANALOG ⟷ HDMI* ↺
DVI-D		ANALOG のみ
D-SUB		ANALOG のみ
OPTION**	PC（OPS 対応コンピューター）	ANALOG ⟷ OPS ANALOG ⟷ OPS DIGITAL ↺
	SDI（SDI 受信 BOX）	ANALOG ⟷ SDI ↺
DISPLAYPORT		ANALOG ⟷ DISPLAYPORT ↺
YPbPr		ANALOG のみ
S-VIDEO		ANALOG のみ
VIDEO		ANALOG のみ

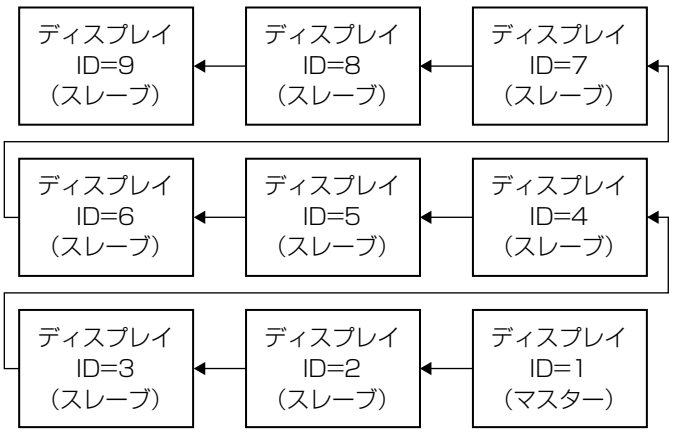
* HDMI の音声は、選択している HDMI1 または HDMI2 の音声が出力されます。
** OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着した場合のみ設定可能です。

オートブライトネスの補足説明

複数のディスプレイをまとめて制御したい場合

TILING（タイリング）機能を使用する場合など、1 台のディスプレイに搭載の明るさセンサーの検出結果を複数のディスプレイで共有し、オートブライトネス機能の制御をおこなうことができます。

1）下図の例のように、RS-232C ケーブル（市販）を使用してディスプレイをマルチ接続します。



マスター： 外光を検出するマスターディスプレイ
（モニター ID を「1」に設定）
スレーブ： マスターディスプレイから制御される
ディスプレイ
（モニター ID を「1」以外に設定）

2）モニター ID でマルチ接続された各々の LDT552V へ任意の ID を設定します。→ P59
モニター ID は 1 ～ 26 まで設定することができます。
マスターディスプレイのモニター ID は「1」に、スレーブディスプレイの ID は「1」以外に設定してください。
先頭から、順番に 1,2,3..... と連続で ID を設定されることを推奨します。

3）OSD 画面（映像設定）のオートブライトネスの設定を、次のように設定します。

	オートブライトネス	CONTROL
マスターディスプレイ	LOCAL	PRIMARY
スレーブディスプレイ	REMOTE	SECONDARY

コンピューターをコントロールに使う場合

コンピューターをオートブライトネスの制御に用いると、お客様が作成する制御アプリケーションソフトウェアによって、より高度で自由な制御が可能になります。通信で任意のディスプレイから明るさセンサーの値を読み出して、すべてのディスプレイに配信するソフトウェアを作成すると、コンピューターで集中制御できます。

1）RS-232C ケーブルを使用して、上図のマスターディスプレイの RS-232C IN コネクターにコンピューターの RS-232C 端子を接続します。
ディスプレイのみの場合は LAN での通信制御機能に非対応ですが、コンピューターを使うと LAN で通信制御できます。

2）モニター ID でマルチ接続された各々の LDT552V へ任意の ID を設定します。（上の 2) を参照ください。）

3）OSD 画面（映像設定）のオートブライトネスの設定を、次のように設定します。

	オートブライトネス	CONTROL
マスターディスプレイ	REMOTE	SECONDARY
スレーブディスプレイ	REMOTE	SECONDARY

4）お客様が作成した制御アプリケーションで、あるディスプレイから明るさセンサーの値を読み出し、他のディスプレイへ配信します。通信コマンドの仕様は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

PIP、POP 機能

子画面表示機能の親画面と子画面の制限

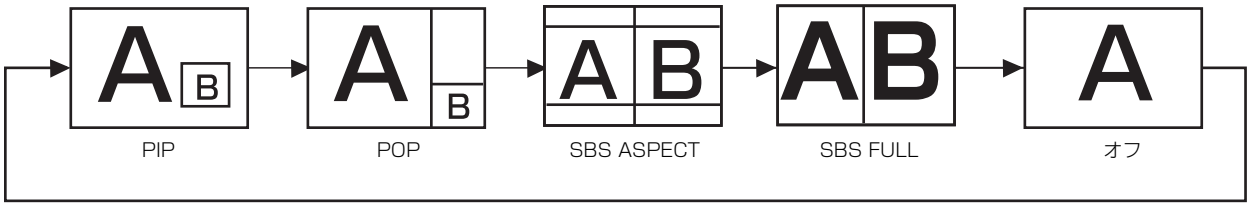
下表に示す信号入力の組み合わせのときに子画面表示機能を使用することができます。
ただし、画面サイズを「CUSTOM」、「リアル」に設定した場合は機能しません。

○：表示可能
×：表示不可

親画面＼子画面	HDMI1	HDMI2	DVI-D	D-SUB	OPTION*	DISPLAY PORT	YPbPr	S-VIDEO	VIDEO
HDMI1	×	×	×	×	×	×	×	○	○
HDMI2	×	×	×	×	×	×	×	○	○
DVI-D	×	×	×	×	×	×	×	○	○
D-SUB	×	×	×	×	×	×	×	○	○
OPTION*	×	×	×	×	×	×	×	○	○
DISPLAYPORT	×	×	×	×	×	×	×	○	○
YPbPr	×	×	×	×	×	×	×	○	○
S-VIDEO	○	○	○	○	○	○	○	×	×
VIDEO	○	○	○	○	○	○	○	×	×

*OPTION は、オプションスロットに拡張モジュールを装着した場合のみ設定可能です。

リモコンの「PIP ON ／ OFF」ボタンを押すと、PIP･POP･SIDE BY SIDE（サイドバイサイド）が下図のように切り換わります。
また、OSD のメインメニュー「子画面設定」の子画面モードでも切り換えられます。 → P57



子画面の解像度について

PIP と SBS FULL の解像度は以下のとおりです。

子画面サイズ	PIP SIZE	▷小◁	450 画素 × 338 画素
		▷中◁	675 画素 × 450 画素
		▷大◁	900 画素 × 675 画素
	SBS FULL		960 画素 × 1080 画素

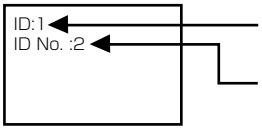
お知らせ

PIP と SBS FULL の場合、子画面は、入力映像のアスペクトにかかわらず、常に上記の子画面サイズにフィットして表示されます。

リモコンナンバリング機能

RS-232C ケーブルで複数台の LDT552V をマルチ接続することにより、1 台のリモコンで希望の 1 台またはすべての LDT552V をコントロールすることができます。

1. モニター ID でマルチ接続された各々の LDT552V へ任意の ID を設定します。
   モニター ID は 1 ～ 26 まで設定することができます。
   先頭から、順番に 1,2,3..... と連続で ID を設定されることを推奨します。
2. 先頭に接続された LDT552V のリモコンモードを PRIMARY に設定し、他は SECONDARY に設定します。
3. PRIMARY に設定した LDT552V のリモコン受光部に向けてリモコンの DISPLAY ボタンを押すと、画面の左上に ID 選択 OSD が表示されます。



自分の ID を表示します。

コントロールしたい液晶ディスプレイの ID をリモコンの＋ / －ボタンで選択します。
ID が一致した LDT552V の左上に ID が表示されます。
ALL を選択すると、接続されているすべての LDT552V を制御できます。

4. PRIMARY に設定した LDT552V のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。
   OSD は選択された ID の LDT552V に表示されます。

お 願 い

PRIMARY の LDT552V に ID 選択 OSD が表示されている場合は、もう一度リモコンの DISPLAY ボタンを押して ID 選択 OSD を消してから操作をおこなってください。

お知らせ

リモコンモードを間違って設定しリモコン操作ができなくなったときは、本体背面の操作ボタンを押して OSD 画面を表示し、「アドバンストオプション」でリモコンモードを変更してください。また、リモコンの DISPLAY ボタンを 5 秒以上連続で押し続けると、リモコンモードを初期設定のノーマルに戻すことができます。

困ったとき

故障かな？と思ったら

このようなときは	お調べください
画面に何も映らない（映像も音も出ない） **● 電源ランプが点灯しない**	● 電源コードを正しく接続していますか。 ● 主電源スイッチは入（｜）になっていますか。 ● 電源コンセントに電気が正常に供給されているか、別の機器で確認してください。
リモコンで操作できない	● リモコンの乾電池が消耗していませんか。 ● リモコンの乾電池の ⊕ ⊖ が逆に入っていませんか。 ● ディスプレイ本体の受光部に正しく向けていますか。→P15、P16 ● リモコンモードが設定されていませんか。→P62
画面上に黒点（点灯しない点）や輝点（点灯したままの点）がある	● 液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。 液晶パネルは非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯するものがありますのでご了承ください。
画面が暗くなった、ちらつく、表示しなくなった	● OSD 画面が正常に表示される場合は、信号ケーブルが抜けかかっていないか確認してください。 ● 液晶パネルは LED バックライトを使用しているため、使用時間の経過に伴い表示状態が少しずつ変化します。また、周囲の温度によっては画面の表示状態が影響を受けることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。 ● 液晶ディスプレイに使用している LED バックライトには寿命があります。 画面が暗くなったり、表示しなくなった場合は、新しい液晶パネルとの交換が必要です。販売店または「修理相談窓口」→P72 にご相談ください。
映像は出るが、音は出ない	● 片方のスピーカーから音が出ない場合は、音声入力端子の接続ケーブルが外れていないか、バランスの調節が右または左に片寄っていないかを調べてください。 ● 差し込まれた入力端子と音声入力の設定が異なっていませんか。 ● 消音（MUTE）になっていませんか。→P13、P15 ● 音量が最小になっていませんか。 ● スピーカーケーブルは外れていませんか。 ● 音声用ケーブルは断線していませんか。 お知らせ ● 音声入力の切り換えは、映像入力ごとに異なった設定が可能です。ただし、S-VIDEO、VIDEO は同一音声となります。
電源ランプが、赤色に点滅している	● 本機の自己診断機能が動作し、異常を検出すると、電源ランプが赤色に点滅します。故障の可能性がありますので、販売店または「修理相談窓口」→P72 にお問い合わせください。
自動的に電源が切れてしまう	● オフタイマーまたはスケジュール機能が設定されていませんか。→P60
スケジュール機能で設定したとおりに動作しない	● オフタイマーが設定されていませんか。→P60 オフタイマーが「オン」に設定されている場合は、スケジュール機能は動作しません。
TILING が動作しない **PIP、POP が動作しない** **（PIP IS NOT AVAILABLE の表示が出る）**	● 画面サイズ設定が「CUSTOM」または「リアル」になっていませんか。 ● SIZE ボタン（ →P15 ⓫ボタン）を押して「FULL」または「ノーマル」に変更してください。
PIP、POP の入力切り換えができない	● 選択しようとしている入力の画面サイズ設定が「CUSTOM」または「リアル」になっていませんか。 ● 選択しようとしている入力に切り換えた後、SIZE ボタン（ →P15 ⓫ボタン）を押して「FULL」または「ノーマル」に変更してください。
画面に「警告」が表示された TEMPERATURE WARNING	● 本機の周囲温度 (使用環境温度) が保証範囲を大きく超えた状態になっています。→P71 故障の原因になりますので、電源を切ってください。

コンピューターを使うとき

このようなときは	お調べください
画面に何も映らない **● 電源ランプが緑色に点灯している**	● OSD 画面でコントラストおよびブライトネスを調節してください。
● 電源ランプの緑色と赤色が同時に点灯している	● パワーマネージメント機能（パワーセーブ）が作動していると、画面が表示されません。キーボードの適当なキーを押すかマウスを動かしてください。 ● 信号ケーブルを正しく接続していますか。 ● 変換アダプターは正しく接続していますか。 ● コンピューターの電源が「切」になっていませんか。
画面がちらつく	● 分配器を使用していませんか。 コンピューターと直接接続してください。 ● OSD 画面でクロックとクロック位相を調節してください。
画面の周囲が表示されない	● HDMI1、HDMI2、DISPLAYPORT、YPbPr、S-VIDEO、VIDEO 入力の場合、スキャンモードをオーバースキャンに設定していませんか。→ P61
表示色がおかしい	● 色温度を調節してください。
画面を切り換えても前の画面の像が薄く残っている	● 長時間同じ静止画面を表示すると、このような残像が起こることがあります。 電源を切るか、変化する画面を表示していれば、残像は 1 日程度で自然に消えます。 長時間にわたって静止画面を表示すると、残像が消えなくなる場合がありますが、故障ではありません。使用しないときには電源を切ることを推奨します。
画面に「注意」が表示された **● パワーセーブ設定オフ時** 注意！ 入力信号がありません 接続を確認してください	● コンピューターの映像出力端子と本機の映像入力端子が信号ケーブルで正しく接続されていますか。 ● 信号ケーブルが断線していませんか。
● パワーセーブ設定オン時 注意！ 入力信号がありません 接続を確認してください **約 5 秒間表示後** パワーセーブ	● コンピューターの映像出力端子と本機の映像入力端子が信号ケーブルで正しく接続されていますか。 ● 信号ケーブルが断線していませんか。 ● パワーマネージメント機能（パワーセーブ）が作動していませんか。 （マウスを動かすか、キーボードのキーを押してください。）
注意！ 入力周波数または解像度の範囲外です 入力周波数または解像度を変更してください	● 本機に適切な信号が入力されているかを確認してください。 **お知らせ** ● コンピューターによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、左の画面が表示されることがあります。しばらく待って画面が正常に表示されれば、入力信号の走査周波数は正常です。 ● 左図のような注意画面が表示されて消えない場合は、コンピューターの設定を本機に適切な入力周波数または解像度へ変更してください。→ P71
映像は出るが、音は出ない	● コンピューターの音声出力設定を正しく選択していますか。不明な場合は、コンピューター OS のヘルプで、サウンドとオーディオデバイスの設定方法を確認してください。

拡張モジュールを装着しているとき

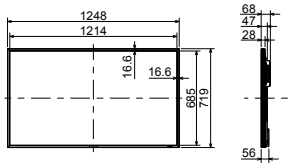
このようなときは	お調べください
画面にメッセージが表示された **● OPS 対応コンピューター装着時** PROCEEDING OPS MODULE POWER ON...	● コンピューターが起動中です。本機の電源は切らないでください。故障ではありません。映像入力を［OPTION］に切り換えて、コンピューターが起動するまでお待ちください。
OPERATION ERROR	● 一定時間内（1 分程度）にコンピューターが起動しませんでした。ご使用のコンピューターの取扱説明書を参照ください。
PROCEEDING OPS MODULE POWER OFF... DO NOT AC POWER OFF NOW!	● コンピューターが電源「切」（シャットダウン）の処理中です。本機の主電源スイッチを切らないでください。また、ブレーカーなどの AC 電源を切らないでください。

USB 機器を接続しているとき

このようなときは	原因	対応のしかた
接続している USB 機器が認識されない正常に動作しない	● USB 機器のデバイスドライバーが正常に組み込まれていない（ドライバーインストールが必要な USB 機器のみ）可能性があります。	● USB 機器のデバイスドライバーを組み込んでください。デバイスマネージャーで「不明なデバイス」と表示される場合は、「不明なデバイス」をデバイスマネージャー上で削除し、USB 機器のデバイスドライバーを組み込んでください。 ● USB 機器の取扱説明書を参照ください。
複数の USB 機器を接続すると、USB 機器が正常に動作しない	● USB 機器が、同時の複数台接続に対応していない可能性があります。	● 1つ1つの USB 機器を単独で動作させてください。 ● USB 機器の取扱説明書を参照ください。
USB ハブを多段接続（複数台の連結接続）した後に USB 機器を接続すると、USB 機器が正常に動作しない	● USB 機器が、USB ハブの多段接続に対応していない可能性があります。 ● コンピューターの OS にて USB ハブの接続段数の制限がある可能性があります。 ● 本機のハブ機能の多段接続は 5 台までです。	● USB 機器をコンピューターに近い USB ハブに接続してください。 ● USB 機器や OS の取扱説明書を参照ください。

● Windows® 3.1 や Windows NT® 3.5.1、Windows® 95（OSR1 など）では USB 機器をご利用できません。

仕様

形名			LDT552V
外形寸法（mm）			
液晶パネル	サイズ（表示サイズ）		54.6 型（138.8 cm）
	液晶方式		VA
	有効表示領域		1209.6（H）× 680.4（V）mm
	表示画素数		1920 × 1080
	画素ピッチ		0.630 mm
	表示色		約 10.6 億色
	視野角		左右 178°、上下 178°（コントラスト比 10）
	輝度（標準値）		450 cd/m^2
	コントラスト比		4000：1
	応答速度		6.5 ms（GTG※1）
PC 入出力	PC 入力コネクター	デジタル	HDMI × 2（PC ／ビデオ共通）、DVI-D（HDCP 対応※2）、DISPLAYPORT
		アナログ	ミニ D-SUB15 ピン（PC ／ビデオ共通）
	PC 出力コネクター	デジタル	DVI-D（HDCP 対応※2）
	水平周波数		デジタル：31.5 ～ 91.1 kHz、アナログ：15.625 ／ 15.734、31.5 ～ 91.1 kHz
	垂直周波数		50 ／ 58 ～ 85 Hz
	画素周波数		デジタル：25.0 ～ 165.0 MHz、アナログ：13.5 ～ 165.0 MHz
	同期信号	デジタル	TMDS
		アナログ	セパレート同期信号（TTL）、コンポジット同期信号（TTL）、シンクオングリーン
	対応解像度		640 × 480 ／ 800 × 600 ／ 1024 × 768 ／ 1280×768 ／ 1360×768 ／ 1280 × 1024 ／ 1600 × 1200 ／ 1920×1080 ／ 1920×1200 （1600 × 1200 ／ 1920 × 1200 は簡易圧縮表示）
ビデオ入出力	ビデオ入力コネクター	デジタル	HDMI × 2（PC ／ビデオ共通）、SDI（オプション）
		アナログ	コンポジットビデオ< BNC >、S 端子、ミニ D-SUB15 ピン（PC ／ビデオ共通）
	ビデオ出力コネクター	デジタル	SDI（オプション）
		アナログ	コンポジットビデオ< BNC >
	対応解像度		コンポジット信号、S 端子：NTSC ／ PAL ／ SECAM ／ 4.43 NTSC ／ PAL-60 コンポーネント信号：480i ／ 480p ／ 576i ／ 576p ／ 1080i ／ 720p ／ 1080p SDI 信号：480i ／ 576i（SD-SDI）、720p ／ 1080i（HD-SDI）、1080p（3G-SDI）
オプションスロット	スロットインターフェース		デジタル（OPS）スロット
スピーカー	内蔵スピーカー		音声出力　10 W + 10 W（ステレオ）
	外部スピーカー		専用外付けスピーカー（オプション）、音声出力　10 W + 10 W（ステレオ）
音声入出力	音声入力コネクター	デジタル	HDMI × 2、DISPLAYPORT、SDI（オプション）
		アナログ	φ 3.5 mm ステレオミニジャック
	音声出力コネクター	デジタル	SDI（オプション）
		アナログ	φ 3.5 mm ステレオミニジャック
	外部スピーカー出力		スピーカー端子・L ／ R（インピーダンス 8 Ω）
制御入出力	制御入力コネクター		RS-232C 入力< D-SUB9 ピン>、LAN< モジュラー 8 ピン >
	制御出力コネクター		RS-232C 出力< D-SUB9 ピン>
	通信方式		RS-232C 規格準拠、10BASE-T/100BASE-TX（LAN）
その他入出力			USB HUB：USB2.0 対応、2 アップストリーム／ 2 ダウンストリーム
適合法規格等	安全		電気用品安全法（S-TÜV マーク）
	不要輻射		VCCI-A、JIS C 61000-3-2
	省エネルギー基準		国際エネルギースタープログラム
	プラグ&プレイ		VESA DDC2B
	その他		PC グリーンラベル（★★☆ V12）、J-Moss グリーンマーク、グリーン購入法、DDC/CI、Windows® 8
使用環境条件	温度※3		横置きの場合：0℃～ 40℃、縦置きの場合：0℃～ 35℃、上向きの場合：0℃～ 35℃
	湿度		20 ～ 80%（結露のないこと）
保管環境条件	温度		-20℃～ 60℃
	湿度		10 ～ 90%（結露のないこと）
電源	電源入力		AC100 − 240 V、50 ／ 60 Hz
	電源電流		1.8 A@100 − 120 V、0.8 A@220 − 240 V
	消費電力	標準	186 W（オプションスロット、スピーカー未使用時参考値：133 W）
		省エネモード	スリープモード時：0.8 W 以下※4 オフモード時　：0.8 W 以下※4、主電源切時：0 W
	電源入力コネクター		3P IEC タイプ
質量／寸法	ディスプレイ本体		約 28.5 kg ／ 1248（W）× 719（H）×47※5 ／ 68（D）mm
	梱包状態		約 40.5 kg ／ 1470（W）× 945（H）×284（D）mm

お知らせ

※1　GTG：Gray to Gray、特定階調レベル間（例：0、63、127、191、255）の各応答速度の平均値です。
※2　Macintosh での HDCP 対応は非サポートです。
※3　長くご使用していただくためには、周囲温度 25℃前後でのご使用を推奨します。ディスプレイの上下逆さまや下向きでの使用については保証しておりません。
※4　AC 電源 100 V 時
※5　ハンドル薄型状態取り付け時、スタンドガイドフレーム取り外し時、および付属のオプションカバー不使用時。

重要なお知らせ

保証とアフターサービス

● この製品には保証書を添付しています。
保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。
● 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
● この液晶ディスプレイは日本国内用として製造・販売しています。
日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。またこの製品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではおこなっていません。
This color monitor is designed for use in Japan and can not be used in any other countries.

お客様相談窓口（携帯電話・PHS通話可／IP電話不可）	修理相談窓口（携帯電話・PHS通話可／IP電話不可）
フリーダイヤル 0120-71-3322	フリーダイヤル 0120-08-1460
受付時間　土・日・祝日を除く　午前9:00 ～ 12:00　午後1:00 ～ 5:00 また、これ以外の所定の休日につきましても休ませていただきますので、ご容赦願います。	

アフターサービスを依頼される場合は、次の内容をご連絡ください。

- **お名前**
- **ご住所（付近の目標など）**
- **電話番号**
- **品名：三菱液晶ディスプレイ**
- **形名：LDT552V**
- **製造番号（本機背面のラベルに記載）**
- **故障の症状、状況など（できるだけ詳しく）**
- **使用状況**
  （PCおよびグラフィックボード（メーカー，形名）、解像度、入力信号（アナログ，デジタル）など）
- **購入年月日または使用年数**

● 無料出張サービス規定
この製品をお買い上げから 1 年間は「修理相談窓口」にてディスプレイに起因する障害で修理が必要と判断された場合、無料出張サービスを適用します。その際、同梱の保証書の提示をお願いします。提示がない場合は、保証期間中でも有料となります。出張サービスは、日本国内のみ対応します。代替セット（現品とは異なる場合があります。）を無料でお貸しし、現品の持ち帰り修理になります。一部の地域で宅配業者の引き取りサービスになる場合があります。

個人情報の取り扱い

● お問い合わせ窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて
三菱電機株式会社は、お客様からご提供いただきました個人情報は、下記のとおり、お取り扱いします。
1. お問い合わせ（ご依頼）いただいた修理・保守・工事および製品のお取り扱いに関連してお客様よりご提供いただいた個人情報は、本目的ならびに製品品質・サービス品質の改善、製品情報のお知らせに利用します。
2. 上記利用目的のために、お問い合わせ（ご依頼）内容の記録を残すことがあります。
3. あらかじめお客様からご了解をいただいている場合および下記の場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
   ①上記利用目的のために、弊社グループ会社・協力会社などに業務委託する場合。
   ②法令等の定める規定に基づく場合。
4. 個人情報に関するご相談は、お問い合わせをいただきました窓口にご連絡ください。

本機を廃棄するには（リサイクルに関する情報）

当社の使用済みディスプレイのリサイクルシステムの詳細については下記の当社ホームページをご覧ください。

www.MitsubishiElectric.co.jp/home/display/environment

なお、資源有効利用促進法に基づく当社の使用済みディスプレイのリサイクルのお問い合わせは下記へお願いします。

情報機器リサイクルセンター	
家庭系（個人ユーザー様）の窓口	事業系（法人ユーザー様）の窓口
フリーダイヤル 0120-345-989 www.pc-eco.jp	TEL 0467-46-5716 www.diarcs.com
受付時間　土・日・祝日を除く　午前9:00 ～午後5:00 また、これ以外の所定の休日につきましても休ませていただきますので、ご容赦願います。	

ディスプレイの回収・リサイクル

資源有効利用促進法に基づき、家庭から出される使用済みディスプレイの回収・リサイクルをおこなう“PC リサイクル”が2003 年 10 月より開始されました。当社ではこれを受け、回収・リサイクル体制を構築し、2003 年 10 月 1 日より受付しております。2003 年 10 月以降購入されたディスプレイのうち、銘板に“PC リサイクル”が表示されている製品は、ご家庭からの排出時、当社所定の手続きにより新たな料金負担なしで回収・リサイクルいたします。事業者から排出される場合は、産業廃棄物の扱いとなります。

長くご使用いただくために

液晶ディスプレイに使用しているバックライトには寿命があり、バックライトの明るさは使用時間に応じて低下します。また、長時間同じ画面を表示していると、画面表示を変えたときに前の画面が残る「残像」という現象が発生する場合があります。残像は画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると残像が消えにくくなります。本機を長くご使用いただくために、次の点にご注意ください。

● 使用していないときは、本機の電源を切ってください。
1）本機またはリモコンの電源ボタンで電源を切ってください。
2）パワーセーブ機能 → P58 を「オン」にしてください。
信号が入力されないときに自動的にスリープモードへ切り換わります。工場出荷時は「オン」に設定されています。
3）スケジュール機能 → P60 を使用して、使用する時間に合わせて自動的に電源を入／切してください。

お知らせ

スケジュール機能を使用する場合は、必ず日付／時刻設定 → P60 をおこなってください。

● 液晶パネルにかかる負担を軽減するために、スクリーンセーバー機能 → P58 を使用してください。

さくいん

A～Z

DISPLAYPORT …… 14
INPUT ボタン …… 13, 15
LAN …… 33, 50
OPS 対応コンピューター …… 31
OSD 画面の構成 …… 52
OSD の基本操作 …… 53
PIP、POP 機能 …… 66
RS-232C …… 32, 48
SDI …… 30
USB 機器 …… 34, 51

あ

アドバンストオプション …… 61
アフターサービス …… 72
安全のために必ずお守りください …… 7
インフォメーション OSD …… 60, 63
映像設定 …… 54
オーディオ設定 …… 57
オートブライトネス …… 55, 65
音声入力切換 …… 64

か

外形寸法 …… 71
拡張モジュール …… 30
各部のはたらき …… 13
画素ピッチ …… 71
画面設定 …… 56
乾電池 …… 5, 9, 16
子画面設定 …… 57
困ったとき …… 68
コントロールロックモード …… 63

さ

質量 …… 71
視野角 …… 71
主電源スイッチ …… 13
仕様 …… 71
使用環境条件 …… 71
詳細設定 1 …… 58
詳細設定 2 …… 59
消費電力 …… 71
信号ケーブル …… 5
垂直周波数 …… 71
水平周波数 …… 71
スケジュールの設定・操作方法について … 47
スタンド …… 19
スピーカー …… 23, 44
接続 …… 24
設置 …… 18

た

適合規格 …… 71
電源コード …… 5, 35
電源ボタン …… 13, 15
電源ランプ …… 13
特長 …… 3

な

入力コネクター …… 71

は

パワーマネージメント機能 …… 39
ピクチャーサイズ …… 63
ピクチャーモード …… 63
表示画素数 …… 71
表示サイズ …… 71
付属品の確認 …… 5
保証書 …… 5, 72
本機を廃棄するには …… 73
本体の操作ボタン・スイッチ・ランプ … 13
本体背面の入出力コネクター …… 14

ら

リモコン …… 5, 15, 16
冷却ファン …… 18, 58

三菱電機株式会社
京都製作所　〒617-8550　京都府長岡京市馬場図所1番地

AW-P1341A
Printed in China